

### ミノコバイモ (コバイモ)

*Fritillaria japonica* Miq

被子植物 [単子葉] ユリ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: VU

近畿: A (CR)

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、各地点とも個体数は50以下である。

**種の概要:** アワコバイモに酷似するが、次の点で区別できる。花被片の先端が鋭形、葯の色が白色、染色体数 $2n=22$ 。花期は3~4月。代表的な早春植物。

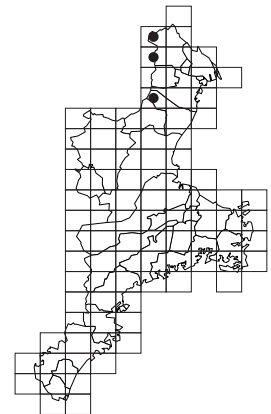
**分布:** 日本固有種。本州(三重、愛知、岐阜、滋賀、静岡、石川、福井、兵庫、岡山)の冷温帯。県内においては鈴鹿山脈北部(いなべ市)、鈴鹿市に分布する。

**現況・減少要因:** 生育地の環境変化、とくにヒノキやシロダモなどの侵入とその繁茂に伴い大きく減少。また、近年の豪雨による土石流は生育地を破壊。さらに採取や踏みつけ、開発等の人為圧を受けている。

**保護対策:** ヒノキ、シロダモの伐採により生育環境を再生し、同時に採取圧を排除する対策が必要である。また、分布情報の公表にあたっては慎重な配慮が必要である。

**特記事項:** 近似のアワコバイモは花被片の先が円形で、葯の色は紫色、染色体 $2n=22$ 。四国に分布する。評価後、鈴鹿市入道岳で新たな生育が確認された。

**文献:** 34, 101, 102.



(葛山博次)

### キバナノアマナ

*Gagea lutea* (L.) Ker Gawl.

被子植物 [単子葉] ユリ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: —

近畿: C (VU)

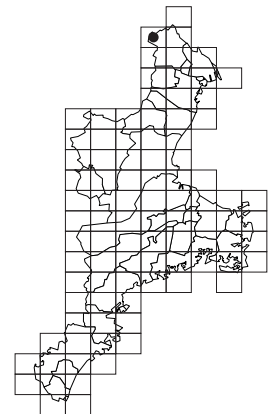
**選定理由:** 既知の生育地点数は1であり、個体数が少なく、採取圧も高い。

**種の概要:** やや寒い地方の山野に生える多年草。根出葉は線形でやや厚く長さ15~30 cm。4~5月頃、花茎の頂に4~10個の黄色い花が散形状につく。

**分布:** 国内では本州(岡山県以東)、北海道。国外では千島、樺太、朝鮮半島、中国、シベリア東部など。県内ではいなべ市藤原岳で記録されている。すぐ近くの滋賀県側の御池岳でも最近確認されている。

**現況・減少要因:** 減少は園芸採取による。

**保護対策:** 国定公園内である。他の植物も含めてその地域での保護をアピールするしかない。



(山脇和也)

### ミカワバイケイソウ

*Veratrum stamineum* Maxim. var. *micranthum* Satake

被子植物 [単子葉] ユリ科(APGⅢ:シュロソウ科)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: VU

近畿: —

**選定理由:** 既知の生育地点数は1であり、個体数も少ない。一帯は遷移の進行により生育環境が悪化している。地域固有性も強い。

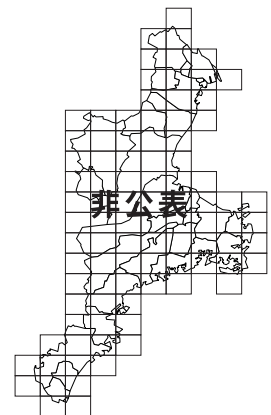
**種の概要:** 低地から丘陵地の湿原に生育する。5~6月頃高さ1 m前後の茎の上部に白色花を円錐花序につける。花被片の縁に細かい切れ込みがあり、おしべが花被片の2倍長ある。葉裏脈上には疣状突起がある。

**分布:** 日本固有種。国内では長野県、愛知県、静岡県、岐阜県、三重県の低地湿原。県内では北勢で記録がある。

**現況・減少要因:** 個体数が著しく少ない。また、生育地一帯は近年著しく遷移が進行しており、本種の生育環境としては不適な環境になりつつある。現況は20個体程である。

**保護対策:** 生育状況の確認が急務である。また、生育地一帯において間伐や除草等の管理を行うことにより湿原を回復させる必要がある。

**文献:** 124.



(加田勝敏)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

### ミズアオイ

*Monochoria korsakowii* Regel et Maack

被子植物 [単子葉] ミズアオイ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: NT

近畿: A (CR)

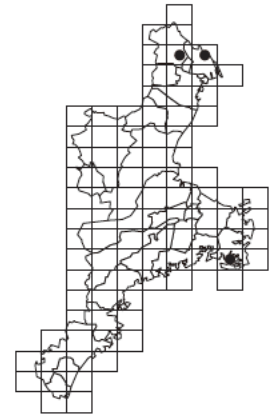
**選定理由:** 生育地点数は2, 個体数は10未満である。

**種の概要:** 水田や浅い沼地に生える一年草。茎や葉柄は多孔質で柔らかく高さ20~40 cm, 根生葉は10~25 cm, 茎葉は4~10 cmの葉柄を持ち, 葉身は心形で長さ・幅ともに4~15 cm, 深緑色で光沢がある。葉先は急に細くなる。9~10月頃, 茎の上方に花序をつける。花は径2.5~3 cm, 青紫色で柄の先につける。大形のコナギやホテイアオイに似る。

**分布:** 国内では北海道, 本州, 四国, 九州。国外では東アジアの温帯・暖帯域に分布。県内では桑名市, 志摩市で記録がある。

**現況・減少要因:** 桑名市, 志摩市の2か所に限られるが, これらの地域においても毎年出現するとは限らない。休眠種子が農地改良や農道敷設などの土の攪乱によって発芽したときにみられる程度である。湖沼開発により絶滅に瀕している。

**保護対策:** 生育地の一部に氾濫原環境を復元した保護区の設置と, 保護管理が必要である。



(市川正人)

### ツクシクロイヌノヒゲ

*Eriocaulon hiisianum* Maxim.

被子植物 [単子葉] ホシクサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: VU

近畿: C (VU)

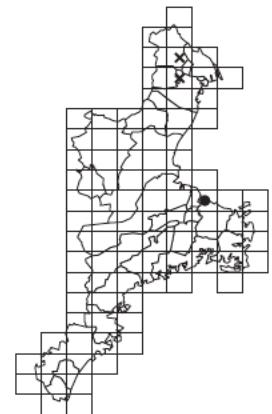
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であるが, 現在の生育が期待できるのは1か所のみ。生育環境が不安定な水辺の植物である。

**種の概要:** 浅い池の水際などに生育する一年草。無茎で根生葉は長さ10~18 cm, 幅0.3~0.6 cm。花期は9月頃, 総苞片は長楕円形で頭花より少し短い。

**分布:** 国内では本州(関東地方以西), 四国, 九州。県内ではいなべ市, 四日市市, 明和町で記録がある。

**現況・減少要因:** 浅い池の水際などでまれにみられるが, いなべ市の自生地は現在は確認できない。年による消長が大きく, 水位の変動が減少の一因となっていると思われる。

**保護対策:** 生育地を開発や工事で消失させないことが大切である。



(山路武夫)

### ミズタカモジ

*Elymus humidus* (Ohwi et Sakam.) A.Löve

被子植物 [単子葉] イネ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: —

環境省: VU

近畿: A (CR)

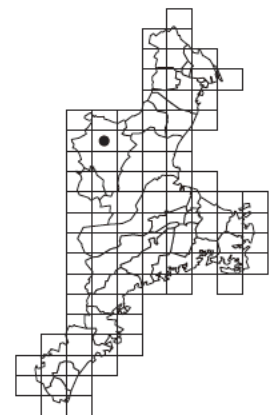
**選定理由:** 既知の生育地点数は1であり, 個体数も少ない。

**種の概要:** 水田の畦や溝の周辺および休耕田に生える多年草。稈は叢生, 基部が横に這い, 先が立ち上がる。高さ30~60 cm。花期はカモジグサより早く5月頃, 花後茎が倒伏して先に小苗を生ずる。小穂は花軸に圧着する。

**分布:** 本州(福島県以南)から九州にかけて分布する。県内では, 唯一伊賀市で近年になり発見された。

**現況・減少要因:** 休耕田が近くにあり, さらに周囲の田が放棄されると雑草が生い茂り生育できなくなる。

**保護対策:** 生育地周辺の水田が今後も継続して耕作されることが大切である。



(南 正祝)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## ウンヌケ

*Eulalia speciosa* (Debeaux) Kuntze

被子植物 [単子葉] イネ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: VU

近畿: B (EN)

**選定理由:** 既知の生育地点数は5であり、個体数は少なく各地点とも10以下で、生育地は不安定である。

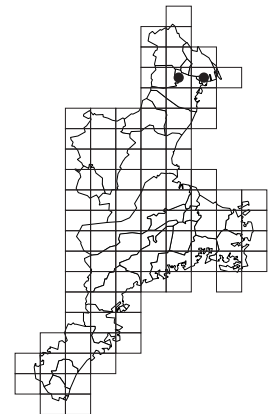
**種の概要:** 多年草。稈は叢生して高さ80~120 cm。稈の基部は黄褐色の毛が密生する葉鞘に囲まれる。花期は8~10月。総には関節があって熟すると折れて脱落する。

**分布:** 国内では本州(静岡県以西)、四国、九州、国外では朝鮮半島、中国、タイ、インドの暖温帯。県内では桑名市、四日市市に分布する。

**現況・減少要因:** 丘陵地や山地の日当たりの良い草地に生育するが、開発または人的管理不足による植生遷移の進行によって減少している。

**保護対策:** 生育地の開発を抑止する。また生育地の定期的な草刈りにより草地植生の維持管理を行うことが必要である。

**特記事項:** 近似種ウンヌケモドキは、稈の基部が赤褐色を帯び、葉鞘には黄褐色の毛を密生しない。



(葛山博次)

## ヒゲシバ

*Sporobolus japonicus* (Steud.) Maxim. ex Rendle

被子植物 [単子葉] イネ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 情報不足 (DD)

環境省: —

近畿: —

**選定理由:** 前回DDとされたが、その後の調査で文献および標本が存在することが判明した。生育地点数は10以下で、1949年以後採集も記録もない。

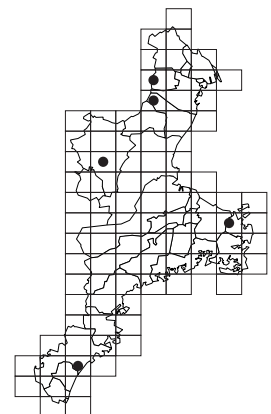
**種の概要:** 高さ5~30 cmほどの湿地に生える一年草。葉は狭披針形で質硬く、葉縁に長く硬い毛が生える。これが和名の由来である。花序は線形で長さ3~7 cm、8~10月頃開花、結実する。

**分布:** 本州から九州のやせた草地の中の凹地など、多少湿り気のある場所に生える。中国にも分布する。県内では、伊賀市青山駅付近(標本1949年)、菰野町菰野山、伊勢市朝熊山、熊野市から採集または、記録がある。

**現況・減少要因:** 1950年以降の生育状況が全く把握されていない。生育地の環境も当時とは変わっており、かなり厳しい状況下におかれているため、生育が危ぶまれる。

**保護対策:** 生育地およびそれを取り囲む環境が保全されることが唯一の対策である。

**特記事項:** 標本は三重県総合博物館および三重県立上野高校に收藏されている。



(加田勝敏)

## ホロテンナンショウ

*Arisaema cucullatum* M.Hotta.

被子植物 [単子葉] サトイモ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: CR

近畿: C (VU)

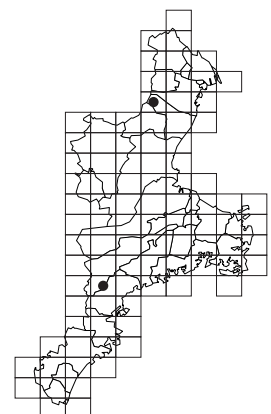
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下。個体数はごくわずかであると思われる。

**種の概要:** 山地の林下に生える。葉は1個で、葉軸はあまり発達しない。小葉は鳥足状に7~13枚つき、披針形から狭長卵形。偽茎は短い。仏炎苞の舷部と口辺部は内側に少し巻いてほろ状となり、先は急に狭まって尾状に伸びる。花期は5~6月。

**分布:** 国内では奈良県、三重県。県内では鈴鹿山系鎌ヶ岳に過去(1978)の記録がある。大台町では1984年に確認されている。

**現況・減少要因:** 最近では大台町大杉谷で1個体の確認があるのみである。大台ヶ原の奈良県側は、個体数は多くはないが点々と見られる。園芸採取などによる減少が大きい。

**保護対策:** 国立公園内ではあるので、開発のおそれは低い。採取などされないように保護しなければならない。



(山脇和也)

維管束  
植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## マイヅルテンナンショウ

*Arisaema heterophyllum* Blume

被子植物 [単子葉] サトイモ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: —

環境省: VU

近畿: —

**選定理由:** 既知の生育地点数は1, 個体数は50未満. 園芸的な採取圧が強く, 生育環境の悪化が顕著.

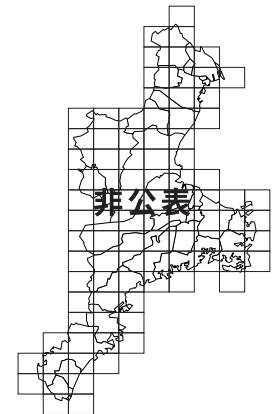
**種の概要:** 草原や河辺林などに生育する多年草. 高さ60~120 cmで, 球茎に子球を形成する. 葉は1個で, 鳥足状に17~21枚の小葉をつける. 小葉は狭倒卵形から線形, 全縁. 頂小葉は両隣の小葉に比べて著しく小形でやや幅広. 仏炎苞はふつう緑色で一部紫色を帯びる. 胎座は広卵形で, 基部は著しく狭まり, 先は尾状に長く伸びて鋭く尖る. 付属体は基部近くで前方に曲がり, 上方に向かって長く伸びる.

**分布:** 国内では, 本州から九州, 種子島に分布. 国外では, 台湾, 朝鮮南部, 中国に分布. 園芸採取圧が高く, 分布は非公表とする.

**現況・減少要因:** 乾燥化と遷移による生育環境の劣化が進行.

**保護対策:** 園芸的な採取の監視・抑制が必要. 自生地は乾燥化による遷移が進行しており, 人為的な管理による遷移抑制を行う必要がある.

**文献:** 13.



(藤井伸二)

## ヒメザゼンソウ

*Symplocarpus nipponicus* Makino

被子植物 [単子葉] サトイモ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: —

環境省: —

近畿: —

**選定理由:** 生育地は1地点のみで, 個体数は50以下であり, がけ崩れや土石流の発生が危惧されるような状況下にある.

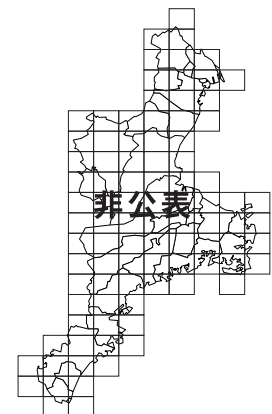
**種の概要:** 林縁や道端の湿地に生え, ザゼンソウより小形で6月に暗紫褐色の小さな仏炎苞のある花を地表付近に咲かせる.

**分布:** 朝鮮. 北海道および本州 (東北地方から中国地方までの日本海側, 関東地方から中部地方). 県内唯一の自生地. (隣接する滋賀県, 岐阜県にも分布する.)

**現況・減少要因:** 溪流辺から斜面下部にかけて生育しているが, 斜面は急で土石流や崖崩れの危険性もある.

**保護対策:** 生育地について, 自治体の担当者に周知しておき, 砂防工事等で影響が及ばないように配慮すべきである.

**特記事項:** 標本は大阪市立自然史博物館にある.



(加田勝敏)

## ミクリ

*Sparganium erectum* L.

被子植物 [単子葉] ミクリ科(APGⅢ:ガマ科)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: NT

近畿: A (CR)

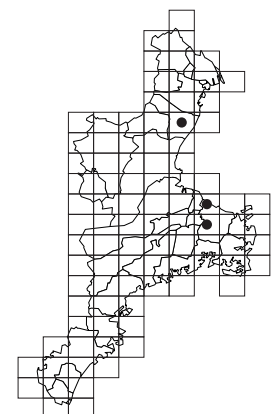
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であるが, 現在, 1地点でのみ生育している.

**種の概要:** 湖沼, 水路などに群生する多年草の抽水植物. 草丈は2 mにもなる. 葉には背稜があり断面は三角形. 花序は分枝しそれぞれに雌性頭花と雄性頭花を数個ずつつける. 花期は6~9月.

**分布:** 国外では北半球, オーストラリア. 国内では北海道から九州. 県内では鈴鹿市, 伊勢市で記録がある.

**現況・減少要因:** 現在, 生育が確認できるのは伊勢市の湧水のある深い水路だけである. ここではかなり群生しているが, 水路の雑草として毎年除去されている.

**保護対策:** 継続的な雑草除去により遷移や富栄養化の進行を抑制する. その際には地域の人に本種の保護の理解をうながすことが大切である.



(山路武夫)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## オオミクリ

*Sparganium macrocarpum* Makino

被子植物 [単子葉] ミクリ科(APGⅢ:ガマ科)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: VU

近畿: C (VU)

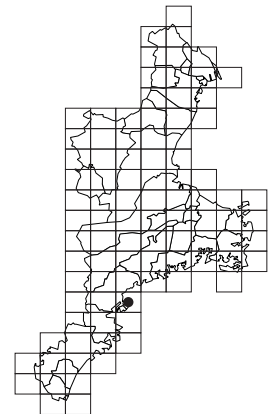
**選定理由:** 既知の生育地点数は1であり、個体数はおよそ1,000未満。

**種の概要:** 本州にまれに産する多年生の抽水植物。ミクリによく似るが、果実が際だって幅広く、長さ5~9 mm、幅5~8 mm、上部はほぼ平坦。

**分布:** 本州の各所で採集されているが、ミクリと混同されている場合が多く、現状は不明。県内では今のところ紀北町の湿地1か所のみ生育が確認されている。

**現況・減少要因:** 生育地周辺の湿地は、所々埋め立てが進み、かつてと比べ湿地面積が大きく縮小している。したがって、本種も以前と比べると減少しているが、ここ数年は埋め立て工事が停滞しており、個体数はそれほど変化していない。

**保護対策:** これ以上の埋め立てを中止し、自生地のみでなく、現在残されている周辺の湿地も含めて保全することが必要である。



(山本和彦)

## トダスゲ

*Carex aequalta* Kük.

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: CR

近畿: A (CR)

**選定理由:** 既知の生育地点数は1であり、個体数は10未満しかない。

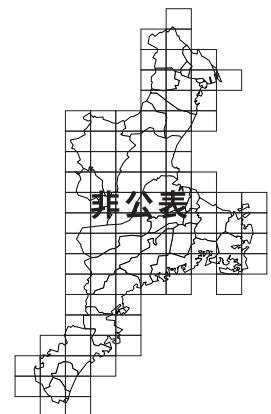
**種の概要:** 湿地に生えるやや大型の多年草。高さ40~80 cm、葉は幅3~5 mm、果期は5~6月。雌小穂は円柱形で長さ3~5 cm、頂小穂は線形で雄性、雌小穂より短い。果胞は卵円形でふくらみ、長さ3 mm。

**分布:** 国内では本州、九州に分布するが、非常にまれ。国外では中国中部にも分布。県内では紀州の湿地1か所から記録されている。

**現況・減少要因:** 現在、マニアによる採取とニホンジカの食害により減少傾向にある。また生育地周辺まで土地造成が進んでおり、さらに自生地自体の埋め立て計画もあり、絶滅が懸念されている。

**保護対策:** 生育地の環境が劣化するなか、周辺の地域を含めて、保全のための施策が求められる。

**特記事項:** 三重県指定希少野生動植物種。



(山本和彦)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## コタヌキラン

*Carex doenitzii* Boeckler

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: —

近畿: B (EN)

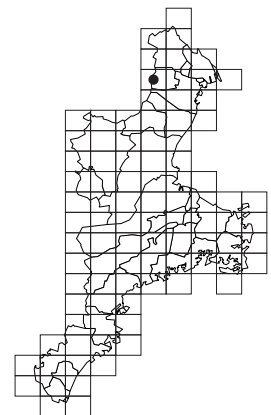
**選定理由:** 既知の生育地点数は1。生育地の個体数はおよそ50未満である。

**種の概要:** 山地の岩上や草地などに生える多年草。葉は幅3~5 mm、裏面はやや粉白色を帯びる。小穂は2~3個つく。雌鱗片は濃赤血色。6~7月に熟す。タヌキランという和名はその花穂をタヌキの尾に見立てたもの。

**分布:** 国内では北海道、本州(中北部、近畿地方)、屋久島に分布。県内では菰野町の御在所岳にのみ生育する。

**現況・減少要因:** 御在所岳の岩場に生育する。乾燥しているように見えるが岩場からは水がしみ出ている。国定公園内にあるが、登山道が通っておりそれによる痛みつけや、風水害による生育地の崩壊も考えられる。

**保護対策:** 登山道整備の際には、崩壊しないように管理する必要がある。



(山脇和也)

### コウヤハリスゲ

*Carex koyaensis* J.Oda et Nagam.

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: —

環境省: —

近畿: —

**選定理由:** 既知の生育地点数は1. 個体数は50未満. 新産地が期待される.

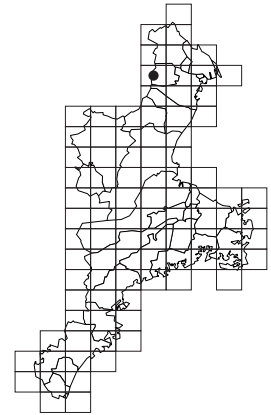
**種の概要:** 明るい林内や林縁の小湿地に生える多年草. ハリスゲ類でハリガネスゲやヒカゲハリスゲに似るが, 長い根茎を引くことが大きな特徴である. 葉は0.8~2 mmで柔らかい. 花穂は長さ4~6 mm, 雄花部は極短く2~3花, 雌鱗片は卵形で1.3~1.6 mm, 4~6花をつける. 果胞は長さ2~2.3 mm, 卵形から広卵形で先は嘴状, 脈は不明瞭である.

**分布:** 日本固有種. 本州西部(福井県, 三重県以西). 県内では現在のところ, 唯一菟野町の山地で記録されている.

**現況・減少要因:** 生育環境に変化がなく, 比較的安定した生育状況にあるが, 多少ニホンジカの食害が認められる.

**保護対策:** 生育環境の維持とニホンジカ防護柵の設置が必要である.

**特記事項:** 2008に新種記載された. 基準産地は和歌山県高野山.



(市川正人)

### オオクグ

*Carex rugulosa* Kük.

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: NT

近畿: C (VU)

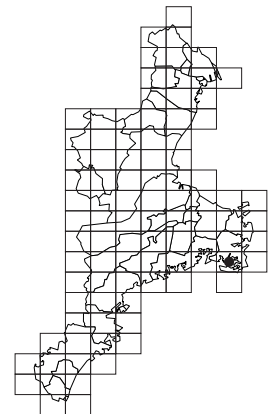
**選定理由:** 既知の生育地点数は1であり, 部分的に埋め立てられている.

**種の概要:** 汽水域に生え, 茎は高さ40~70 cmに達し, 5~7月頃果実が熟す. 果胞の形態はシオクグやコウボウシバに似ている. 基部の葉鞘は葉身がなく濃赤色の部分がある.

**分布:** 朝鮮半島, 中国東北部, ウスリー. 国内では北海道, 本州, 九州. 県内では志摩市で記録がある.

**現況・減少要因:** 現在は本種の生育に大きな影響を及ぼしていないが, 池の周りから少しずつ埋め立てられており, 池の状態に変化が生じるおそれもある.

**保護対策:** 周辺住民や池周辺の土地使用者の理解と協力を得ることが緊急課題である.



(加田勝敏)

### ツクシナルコ

*Carex subcernua* Ohwi

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: EN

近畿: B (EN)

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下. これらのうち2か所は, ニホンジカの食害によりここ10年以上生育が確認されていない. 残りの自生地もニホンジカの食圧が高く, 消滅寸前の状況である.

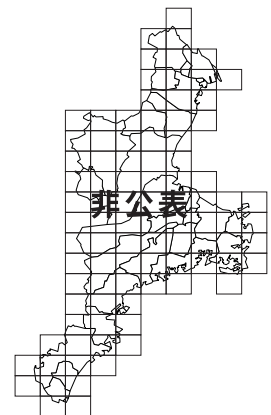
**種の概要:** 湿地に生える多年草. 茎は高さ40~60 cm. 5~6月に熟す. 果胞に隆起した脈があることによって, よく似た種のアゼナルコスゲと識別できる.

**分布:** 国内では紀伊半島, 四国, 九州に分布. 県内では紀州地域から記録されている.

**現況・減少要因:** 紀州地域に点在する湿地にまれにみられる. これらの自生地の中には, ニホンジカの食害で個体数が減少しているところや, 埋め立て計画のある湿地もある.

**保護対策:** 県内でも限られた生育地に対して, すみやかに保護の網をかぶせる必要がある. またニホンジカの食害については, 近年いろいろな地域で問題となっている. 今後, ニホンジカの個体数を調節する手だても必要かと思われる.

**特記事項:** 三重県指定希少野生動植物種.



(山本和彦)

維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

## クロハリイ

*Eleocharis kamschatica* (C.A.Mey.) Kom. f. *reducta* (Ohwi) Ohwi  
被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)  
旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省:  
近畿: B (EN)

**選定理由:** 既知の生育地点数は2であり、各生育地の個体数は50未満である。

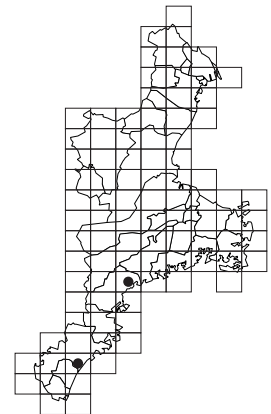
**種の概要:** 海岸近くの湿地に生える多年草。稈は細く、高さ15~50 cm、径1 mm位。花は7~10月。穂は狭卵状披針形、先はやや尖り、長さ0.7~2 cm、濃い紫褐色。柱頭は2個、果実はレンズ状。

**分布:** 国外では千島列島、中国東北部、朝鮮半島。国内では北海道、本州、九州に分布。県内では紀北町と熊野市の沿海地の湿地から報告されている。

**現況・減少要因:** 両生育地とも今のところ埋め立て等の開発計画はなく、生育地は現状のまま維持されている。しかし、紀北町ではここ数年来、カワウの糞により水辺の木々が白くなり、水面の富栄養化が進行している。またニホンジカの食害も目立っており、これらの影響が懸念される。

**保護対策:** カワウの糞害およびニホンジカの食害を除去する必要がある。また生育地周辺の河川改修や海岸部の開発にも十分な注意が必要である。

**文献:** 26.



(山本和彦)

## ヌマハリイ

*Eleocharis mamillata* H.Lindb. var. *cyclocarpa* Kitag.  
被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)  
旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省:  
近畿: C (VU)

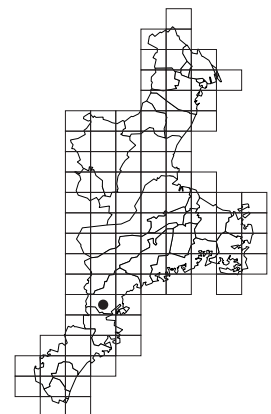
**選定理由:** 既知の生育地点数は1であり、個体数は100未満しかない。

**種の概要:** 湿地に群生する多年草。長く横に這った走out枝がある。茎は高さ30~70 cm、円くて平滑、やわらかくつぶれやすい。花は7~10月。穂は柱状で茎より少し幅広く長さ1~3 cm、幅3~6 mm、先は鈍い。

**分布:** 国内では北海道、本州、九州。国外では朝鮮半島、ウスリー、中国(東北)に分布。県内では今のところ紀北町1か所のみ分布する。

**現況・減少要因:** 紀北町海山区の小河川に自生する。本来北方系の植物である本種が、紀伊半島南部の低地に隔離分布することは貴重である。生育地周辺は、ナガエミクリやフサモ、セキシウモ等の水草類も多産し、郷土を代表する貴重な水辺空間となっている。

**保護対策:** 自生地周辺は、公園化され、本種や水草類も保護されているが、水辺周辺の植栽管理には、外来種を取り入れないような配慮が必要である。



(山本和彦)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## ヤリテンツキ

*Fimbristylis ovata* (Burm.f.) Kern  
被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)  
旧県:

環境省: NT  
近畿: A (CR)

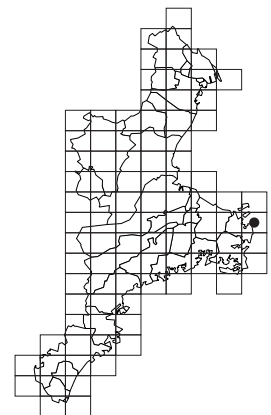
**選定理由:** 既知の生育地点は1か所である。

**種の概要:** 海岸沿いの日当たりの良い草地に生える多年草。有花茎は高さ15~40 cm。葉は茎よりも短い。小穂は普通1個つき、黄緑色で卵形でやや扁平。秋に熟す。

**分布:** 本州(三浦半島、紀伊半島)、九州、南西諸島。国外では朝鮮半島南部、台湾、中国南部、マレーシア、インドネシア、インド、オーストラリア、アフリカ。県内では鳥羽市の菅島で生育が確認された。

**現況・減少要因:** 荒れた山道のそばに数株あり絶滅寸前の状態である。乾燥が続くとそれだけで絶滅する可能性が大きい。

**保護対策:** 遊歩道整備をするときがあれば、存在を確認して残さなければならない。



(山脇和也)

### オオイヌノハナヒゲ

*Rhynchospora fauriei* Franch.

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: —

近畿: C (VU)

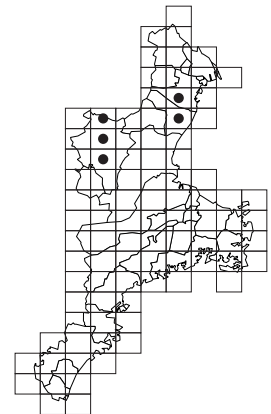
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であるが、現存が確認できるのは1か所。生育地の個体数は50未満である。

**種の概要:** 叢生する多年草。茎は針金状で立ち、高さ40~60 cm。花期は7~10月。花序上部はつまった散房花序であるが、2~3個は離れて着き、密に多数の小穂をつける。イヌノハナヒゲによく似ているが、刺針状花被片は果実の3~4倍の長さがあり、まばらに下向きにざらつく。

**分布:** 国内では北海道、本州、九州の湿地に生え、北方を好む。県内では四日市市、鈴鹿市および伊賀地域の湿地で記録されている。

**現況・減少要因:** 四日市市や鈴鹿市での生育は確認できない。伊賀地域で1か所生育箇所があったが、近年の状況は不明である。湿地は残っているので、環境の変化(乾燥化)や遷移が減少の要因と考えられる。

**保護対策:** 湿原を保護し、一定の水分量の保持や遷移を止める管理が必要である。



(山脇和也)

### ミクリガヤ

*Rhynchospora malasica* C.B.Clarke

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: EN

近畿: A (CR)

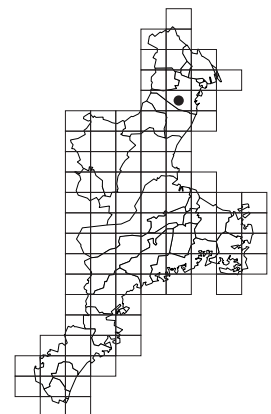
**選定理由:** 既知の生育地点数は1で、個体数は100未満である。

**種の概要:** 湿地に生育する多年草。短い匍枝がある。茎は高さ40~90 cm、中央より上に葉をつける。葉は幅0.5~1.0 cmで線形。頭状花序は球形で無柄、苞の葉腋に2~5個つける。

**分布:** 国内では本州(東海地方、近畿地方南部、中国地方)、九州、沖縄。国外では台湾、マレー半島などに分布。県内では、四日市市西坂部町の御池沼沢で生育が確認されている。

**現況・減少要因:** 御池沼沢のものが県内唯一の個体群で、その存続は危機的な状況にある。圃場整備(湿田の乾田化)などにより生育環境が劣化した。

**保護対策:** 国指定天然記念物「御池沼沢植物群落」の構成種であるが、指定区域の個体群は貧弱で、その保護増殖が急務である。



(武田明正)

### イセウキヤガラ

*Bolboschoenus planiculmis* (F.Schmidt) T.V.Egorova

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: —

近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は1である。河口部の岸辺に生えるため、護岸工事等の影響を受けやすい。

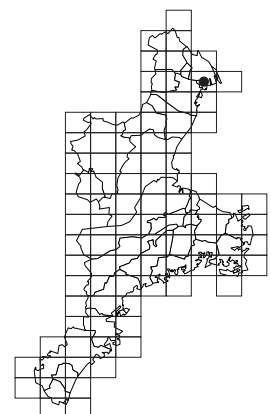
**種の概要:** 汽水域の満潮時には水没するような環境に生育する。稈の基部には葉身が発達した葉を有し、茎の切り口は鋭三稜形になる。小穂は1個で刺針は6~7本。

**分布:** 中国、サハリン。国内では、本州(太平洋沿岸地域)、九州。県内では桑名市で記録がある。

**現況・減少要因:** 汽水域は堤防の護岸工事や埋立等様々な工事が実施される地域であり、その影響を直接受ける環境に生育しているため、いつ絶滅するかわからない。

**保護対策:** 汽水域の環境の保全に万全を期すような施策が望まれる。また、工事実施等に当たっては、事前調査の実施が重要である。

**文献:** 21.



(加田勝敏)

維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD



## ツクシカンガレイ

*Schoenoplectus multisetus* Hayas. et C.Sato

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省:

近畿:

**選定理由:** 既知の生育地点数は1のみ。非常にまれな植物と考えられ、生育環境である溜池の安定的な存続が難しいという全国的な状況から、CRと判定した。

**種の概要:** カンガレイに似るが、根茎が長く横走し、節間は10~25 mm。桿は根茎に1.5~5 cmの間隔で単生する。小穂は長さ7~11.5 mm、刺針は長さ3~10 mmで瘦果長の半分からわずかに長い。

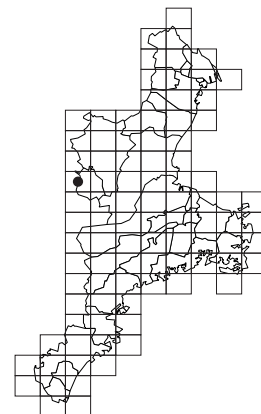
**分布:** 国内では本州(福井県、京都府、和歌山県、山口県)、九州。県内では名張市に分布。

**現況・減少要因:** 不明。

**保護対策:** 自生地の開発(溜池の埋め立て)規制および水質の維持。

**特記事項:** 2004年に記載されたばかりで、まだ分布の実態や生態などがよくわかっていない。県内での分布は2005年に市川正人氏が採集した標本によってはじめて明らかになった。標本は京都大学総合博物館に保管されている。

**文献:** 23.



(藤井伸二)

## シンジュガヤ

*Scleria levis* Retz.

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省:

近畿: A (CR)

**選定理由:** 確実な既知の生育地点数は5以下であるが、現存が確認できるのは1か所である。

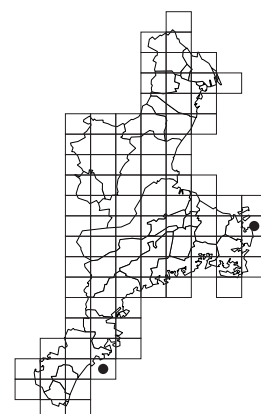
**種の概要:** 多年草で、短い木質の根茎がある。分花序は大きく、長さ4~8 cm、果実は平滑で格子紋は不明である。果実が丸くて、真珠に感じが似ているのでこの名がある。7~10月に熟す。

**分布:** 国外では中国(本土、台湾)からマレーシア、インド、ミクロネシア、オーストラリア。国内では本州(伊豆七島、紀伊半島)から沖縄に分布。県内では志摩市、熊野市で記録がある。

**現況・減少要因:** もともと生育地が少ない。湿地の開発によって減少したものと思われる。

**保護対策:** 生育地である湿地全体の保全が重要である。

**特記事項:** 熊野市産(1956)、志摩市産(1937)の標本は京都大学総合博物館に保管されている。



(後藤稔治)

## キリシマエビネ

*Calanthe aristulifera* Rchb. f.

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: EN

近畿: C (VU)

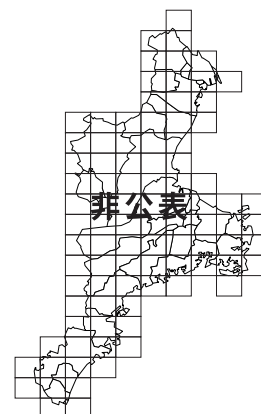
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であるが、現在、生育が確認できるのは1か所である。

**種の概要:** 常緑広葉樹林の下に生える地生ラン。偽球茎は丸く、エビネより小形。花茎は高さ20~40 cm、花期は4~5月、白色またはうすい紅色で10~15花をややまばらにつける。いくぶん垂れ気味につく。

**分布:** 国内では本州(三重県、和歌山県)、四国、九州。県内では紀州地域に分布。

**現況・減少要因:** 園芸採取が最大の減少要因。また、森林の伐採も影響を与える。

**保護対策:** 林縁や里山ではほとんど見かけなくなった。乱獲後の生育地を調査し、残存する個体の一部を保護することも絶滅を防ぐ方法である。



(花尻 薫)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## ササバギンラン

*Cephalanthera longibracteata* Blume

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：—

環境省：—

近畿：A (CR)

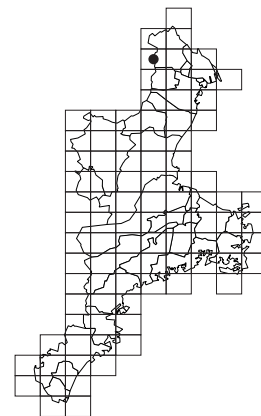
**選定理由：** 既知の生育地点数1、個体数はきわめて少ない。

**種の概要：** 山地の半日陰に生える高さ30~50 cmの多年草。葉は長さ5~15 cm、幅1.5~3 cm、種名は笹葉に因んだ。裏面や縁、花序や子房に白い短毛状突起がある。ギンランに似るが花序直下の苞葉は線形で、普通花序より長い。花は5~6月に咲き、白色でわずかに開く。唇弁基部には短い距がある。

**分 布：** 国内では本州、四国、九州に分布。県内ではいなべ市で記録がある。

**現況・減少要因：** いなべ市藤原町の山地で数株が生育しているだけである。生育地は石灰採掘計画の鉱区内であり消滅が憂慮される。

**保護対策：** 採掘計画を解消し、生育地の保護をするしかない。生育環境を十分に配慮した移植が考えられるが、持続可能な管理は困難であると思われる。



(市川正人)

## モイワラン

*Cremastra aphylla* Yukawa

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：—

環境省：CR

近畿：—

**選定理由：** 既知の生育地点数は1、個体数は5株ほどである。同地域で新産地が期待できる。

**種の概要：** 湿り気のある林床に生える花茎が20~40 cmの腐生ランで多年草。通常、葉はないが菌寄生移行型のランでわずかに痕跡的な葉を持つタイプもある。サイハイランに比較して、普通葉を持たないこと、花は褐色を帯びた赤紫色、花数が少なく、開きが狭い。

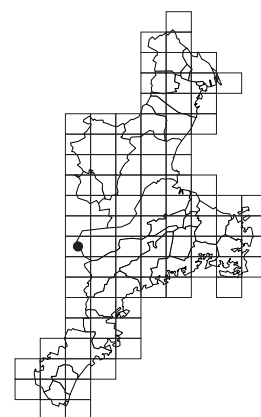
**分 布：** 日本固有種。北海道、本州、四国に分布する。県内では松阪市飯高町の山地で記録されている。

**現況・減少要因：** 松阪市飯高町が唯一の生育地で、数年間にわたり継続観察したが花茎を伸ばさない年があった。現地個体は地上に葉を出さない（または、持たない）タイプであるため、あたかも消滅したかのように見えたようである。森林伐採や斜面崩壊、園芸採取が減少要因である。

**保護対策：** 現在の環境を維持するとともに、採取の防止が必要である。

**特記事項：** 和名は発見された北海道の藻岩山に因む。

**文 献：** 142.



(市川正人)

## カンラン

*Cymbidium kanran* Makino

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省：EN

近畿：A (CR)

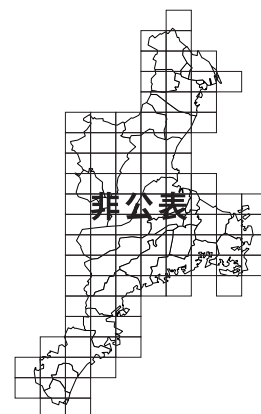
**選定理由：** 既知の生育地点数は10以上であるが、個体数は少なく、採取圧がきわめて強い。

**種の概要：** 乾いた林床に生える常緑のラン。葉は束生し、広線形で革質、長さ20~70 cm、幅6~17 mm、鋭尖頭でふちは少しざらつく。花茎は高さ25~60 cm。花は5~12個、12~1月に開き、芳香がある。

**分 布：** 国内では本州（東海地方以西）から沖縄。国外では台湾に分布。県内では中勢、南勢、紀州地域からの標本記録がある。

**現況・減少要因：** 高価な価格で売買されることもあり、昔から園芸目的による採取が後を絶たない。愛好家内で知られている生育地では、土を篩って根の断片まで採取するという徹底ぶりである。紀州地域では、小苗状の株なら散発的に発見されているが、すぐに持ち去られる状況である。

**保護対策：** 野生状態での開花、結実株を見つけることが不可能に近いほど、採取圧が強い。栽培種を量産するなどして、商品的価値を下げる対策も必要かもしれない。



(山本和彦)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## コイチヨウラン

*Ehippianthus schmidtii* Rehb.f.

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 情報不足 (DD)

環境省:

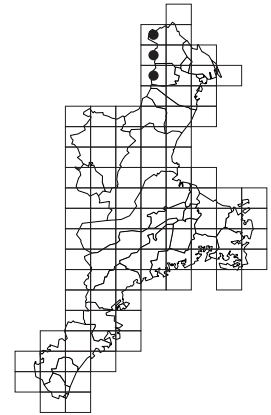
近畿: C (VU)

**選定理由:** 前号では、DDとされたが、調査の結果、標本の所在は確認できないが、文献記録があることが判明したので、CRにランク付けされた。現在は生育状況が確認できない。

**種の概要:** 広卵形の葉が基部にただ1個だけつく。葉の表面に網状脈がある。7~8月頃10~20 cmほどの花茎に淡黄緑色から淡黄白色の小花を数個つける。唇弁に歯牙があり、蕊柱は上方に突起がないことが、特徴とされる。

**分布:** 北海道・本州(中北部)・四国(剣山・白髪山)。国外では千島・樺太に分布する。文献には北勢地方の藤原岳・治田山・菰野山が産地として挙げられている。

**現況・減少要因:** 記録は1950年以前のものであり、現況は不明である。当時から生育地の植生や気象条件および生育地の環境も変化しており、絶滅する可能性が高い。



(加田勝敏)

## エゾスズラン

*Epipactis papillosa* Franch. et Sav.

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県:

環境省:

近畿:

**選定理由:** 既知の生育地点は1か所である。

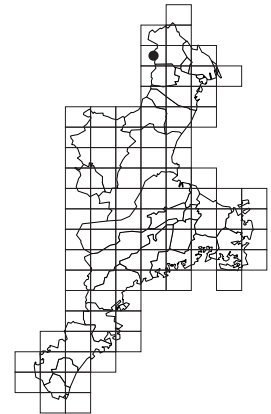
**種の概要:** 低山帯上部から亜高山帯の林縁や草原に生える。茎の高さ30~60 cm。全体に褐色の短い縮毛がある。カキランに似るが葉面、葉脈上に白色の微細な毛状突起をつける。葉は5~7枚が互生。花は緑色で多数が総状についている。花期は7~8月。

**分布:** 国内では北海道から九州、国外では南千島、カムチャツカ、樺太、ウスリー、中国東北部。県内では鈴鹿山系北部の一部の地域に生育。

**現況・減少要因:** 石灰岩の尾根の温帯落葉樹林の林床に稀に生育する。近くで採石しているので消滅の危険がある。

**保護対策:** 採石を早急に中止させるか、採石場所の変更をさせる必要がある。

**特記事項:** その他、シコクフクジュソウ、ステゴビル、セリモドキ、フジワラサイコ、フキヤミツバ、オオキヌタソウなど、絶滅危惧I類の種が11種以上生育している県内でも狭い特異な場所なので、特別保護区にするか、天然記念物に一部地域を指定すべきである。



(山脇和也)

## ギボウシラン

*Liparis auriculata* Blume ex Miq.

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 情報不足 (DD)

環境省: EN

近畿: A (CR)

**選定理由:** 標本記録による既知の生育地点数は2。いずれも1930、1940年代の標本であり、最近の確認情報は得られていない。自生地周辺の環境は現在も維持されており、再発見の可能性も否定できない。

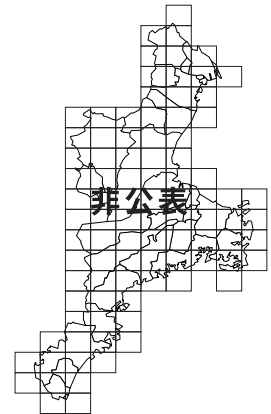
**種の概要:** 樹林の林床に生える多年草。偽球茎は短く、卵形。葉は長さ5~12 cm、幅3~8 cm、ギボウシのように脈間が凹む。7~8月に白色の花をつける。

**分布:** 北海道、本州、四国、九州、朝鮮(済州島)に分布。県内では名張市と津市から記録されている。

**現況・減少要因:** 生育地の個体数はそれほど多くはなく、山野草愛好家に発見されれば全部採取されるため、再発見が難しい状況になっている。

**保護対策:** 今後新しい自生地が確認されてもその公表は避けるなどの配慮が必要。

**特記事項:** 標本は三重県総合博物館に収められている。



(山本和彦)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## フガクスズムシソウ

*Liparis fujisanensis* F.Maek. ex F.Konta et S.Matsumoto

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: VU

近畿: B (EN)

**選定理由:** 既知の生育地点数は1である。

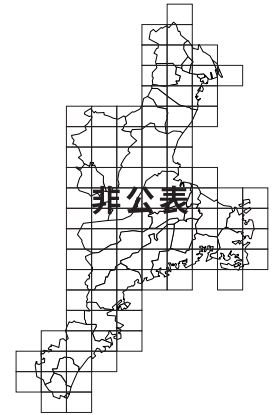
**種の概要:** ブナの樹上にコケ類と混生して着生する。茎は偽球茎で、葉は2個、高さ3~10 cmほどになる。花は茶褐色、唇弁は強く反巻きし、側花弁は下垂する。花期は5月下旬~6月。

**分布:** 国内では北海道、本州、四国、九州に分布。県内では南勢地域の深山からの記録がある。

**現況・減少要因:** 今のところ1か所でしか確認されていない。着生木であるブナの倒木が進んでいることや、園芸目的の採取が後を絶たないことなどで、個体数は確実に減少している。

**保護対策:** 生育地は国立公園内にあるため、開発等の危険性は少ない。それよりも園芸目的による採取が致命的である。保護に関しては、生育地の公表は避ける、パトロールを強化する等の手だてが必要である。また現状を把握するための調査が望まれる。

**文献:** 114.



(山本和彦)

## ムカゴサイシン

*Nervilia nipponica* Makino

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: —

環境省: EN

近畿: A (CR)

**選定理由:** 既知の生育地点数は1。個体数は約20個体。

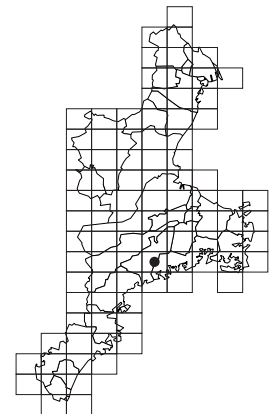
**種の概要:** 常緑樹林下に生える。地中に1 cm弱の球茎を持ち、高さ10 cmほどになる多年草。葉は径3 cmほどの角張った心円形で根生し、花後に1枚を地上に出す。花茎には鱗片葉のみをつける。淡紫褐色で1 cmほどの花を斜上する花茎の先に1個つける。5~6月に咲くが、開かず細長いままである。

**分布:** 日本固有種。本州、九州、沖縄に分布。県内では南伊勢町で記録されている。

**現況・減少要因:** 唯一南伊勢町旧南島町の1か所で生育している。減少要因は植林伐採と土地造成である。

**保護対策:** 開発行為、および植林伐採をせず、現況を維持することである。

**文献:** 77.



(市川正人)

## ヒナチドリ

*Orchis chidori* (Makino) Ohwi var. *chidori*

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: VU

近畿: A (CR)

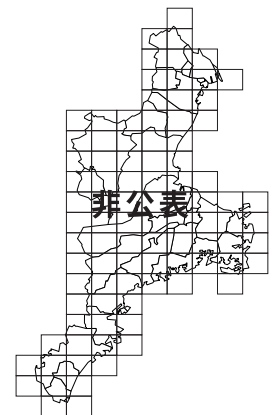
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、個体数50未満、採取圧もきわめて強い。

**種の概要:** 深山のコケの生えた樹上に着生、楕円形にふくらんだ根がある。茎は高さ7~15 cm。葉は1枚、茎の中ほどにつき長楕円形、長さ6~12 cm、幅12~35 mm。花は7~8月、紅紫色で数個、列状になり同じ方向につく。

**分布:** 日本固有種。本州(中部地方以西)、四国に分布。県内では南勢地域の深山に稀産し、壮齢のブナやミズナラ等の樹上に着生する。

**現況・減少要因:** 樹上の高いところに生育するため確認が難しいが、風倒木上でみられることもある。生育地は、国立公園内のため伐採等の危険性は少ない。しかし、着生ラン類はマニアによる乱獲が絶えず、本種も例外ではない。

**保護対策:** 保護に関しては、生育地の公表は避ける。パトロールを強化する等の手だてが望ましい。また現存数を把握するための現況調査も必要である。



(山本和彦)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## ガンゼキラン

*Phaius flavus* (Blume) Lindl.

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: VU

近畿: B (EN)

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であるが、現存は確認できない。

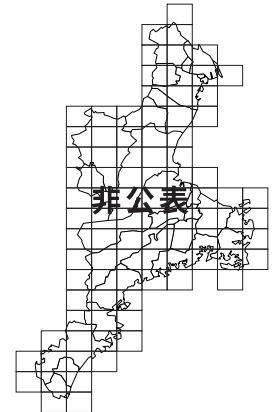
**種の概要:** 常緑樹林下に生える地生ラン。偽球茎は卵状円錐形で稜があり、長さ3~5 cm。葉は3~5個細長い楕円形、長さ30~50 cm。花は淡黄色で、長さ3~3.5 cm。

**分布:** 国内では本州(関東以西)、四国、九州。県内では紀州地域で記録がある。

**現況・減少要因:** 園芸採取が大きな圧力となり、ほとんどの生育地で消滅した。

**保護対策:** 生育の確認が急務である。再発見された場合には、生育地を明らかにしないことが保護になる。

**特記事項:** ガンゼキランの葉に斑入りのものがあり、ホシケイランと称している。



(花尻 薫)

## キソチドリ

*Platanthera ophrydioides* F.Schmidt

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 情報不足 (DD)

環境省: —

近畿: 準 (NT)

**選定理由:** 既知の生育地点は2か所、標本による古い記録しかなく情報不足としてあつかわれていたが、2007年と2012年に大台町で再発見された。個体数は不明だが、多くはないと思われる。

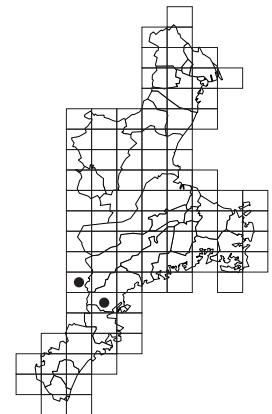
**種の概要:** 樹林の林床に生える多年草。茎は高さ15~30 cm、最下位の葉はほぼ水平に開出し、楕円形、長さ3~6 cm、幅2~4 cm、基部は茎を抱く。鱗片葉は1~2個、披針形。7~8月に淡緑色の小花を数個まばらに穂状につける。

**分布:** 北海道、本州、四国、九州、南千島、樺太に分布。県内では大台町と尾鷲市から記録されている。

**現況・減少要因:** 個体数はそれほど多くはないが、再発見された自生地は国立公園内であるため、環境改変による消滅の危惧はないものと思われる。しかしニホンジカの食害や愛好家による盗採等の影響が懸念される。

**保護対策:** ニホンジカの食圧を軽減することやパトロールの強化が必要。

**文献:** 90。



(山本和彦)

## オオヤマサギソウ

*Platanthera sachalinensis* F.Schmidt

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 情報不足 (DD)

環境省: —

近畿: 準 (NT)

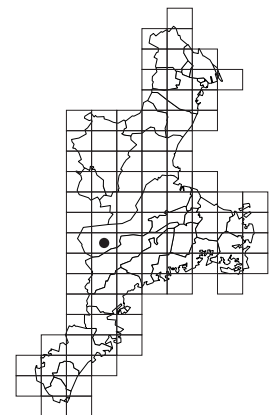
**選定理由:** 既知の生育地は1か所のみである。

**種の概要:** 山地林下に生える多年草。茎は高さ40~60 cm。わずかに稜はあるが翼はない。葉は下の2枚が大きく倒卵状狭楕円形で鈍頭。長さは10~20 cm、幅は4~7 cm、表面に光沢がある。上の葉はしだいに小さくなる。7~8月に淡緑白色の小花を多数穂状につける。

**分布:** 北海道から九州に分布。県内では松阪市飯高町で確認されている。

**現況・減少要因:** 群落を形成するような自生地はなく、山中で1個体が確認されたのみである。増減の傾向ははっきりしないが、もともと個体数が少ないため、生育環境の攪乱によって消滅する可能性が高い。

**保護対策:** 生育を確認した時に採取しないことが大切である。



(山路武夫)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## モミラン

*Saccolabium toramanum* Makino

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 情報不足 (DD)

環境省: VU

近畿: C (VU)

**選定理由:** 標本記録による既知の生育地点数は1. 1933年に採集されているが、その後新たな確認記録はない。ただ採集当時の生育環境は現在も温存されていることから、再発見される可能性もあると思われる。

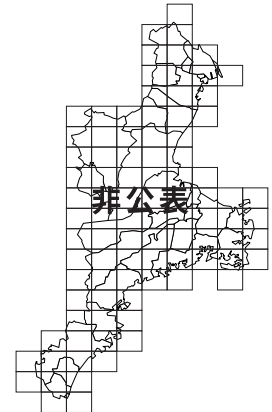
**種の概要:** 樹上に着生する常緑の多年草。茎は細く、ときに分枝し、小形の葉を2列に互生する。葉には紫斑があり、楕円形、長さ5~11 mm、幅2.5~5 mm。4~5月に葉腋より短い花茎を出し、2~6個の花をつける。

**分布:** 本州(福島県以南)、四国に分布する。県内では津市から記録されている。

**現況・減少要因:** 現況は不明であるが、生育環境が限られ、個体数もそれほど多くはないことから、園芸目的の乱獲により減少したものと推察される。

**保護対策:** 今後新しい自生地が確認されてもその公表は避けるなどの配慮が必要。

**特記事項:** 標本は三重県総合博物館に収められている。



(山本和彦)

## ヤチスギラン

*Lycopodium inundatum* L.

シダ植物 ヒカゲノカズラ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: A (CR)

**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下で、湿地という最も開発圧の高い環境に生育している。地域固有性も極めて強い。

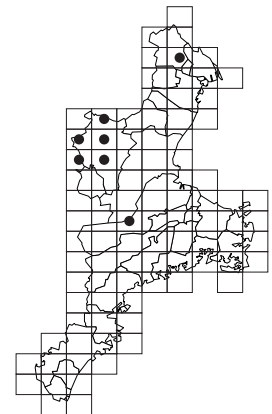
**種の概要:** 湿地の裸地に地表を這って生育し、まばらに分岐する。孢子嚢は穂になって直立する。夏緑性で茎の先端部のみが越冬し、他は枯れる。

**分布:** 中国、北アメリカ、ヨーロッパ。国内では、北海道、本州(近畿地方北部)。県内では伊賀市の湿地に集中して分布しているが、桑名市、津市での記録もある。

**現況・減少要因:** 桑名市、津市は絶滅した可能性が高い。伊賀市のある湿地では、周辺部で粘土の採掘が行なわれて、地下水が全部切られた崖から流出し、湿地全体が乾燥化した。この湿地では著しく減少している。

**保護対策:** 生育地が保護されても、それを取り巻く水系(地下水)が確保されない限り、乾燥化は防げない。過去の失敗は地下水の流れまで注目していないことに起因していることが多い。

**文献:** 43, 69.



(加田勝敏)

## ヤマクラマゴケ

*Selaginella tama-montana* Seriz.

シダ植物 イワヒバ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: C (VU)

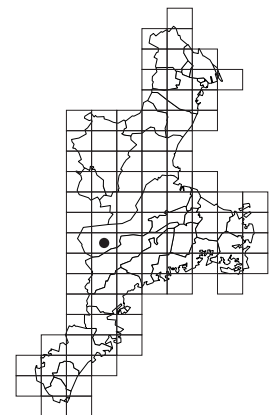
**選定理由:** 既知の生育地点数は1であるが、未知の生育地があると思われる。

**種の概要:** タチクラマゴケに形質、性質ともによく似ている常緑性のシダ。クラマゴケが草地に生育するのに対し、やや乾燥した石灰質の岩棚などを好む。栄養葉、孢子葉ともに2形であり、孢子嚢穂は他の部分と比べてはっきりとは区別できない。

**分布:** 国内では関東地方、県内では松阪市飯高町に限られる。

**現況・減少要因:** 松阪市飯高町のやや乾燥した岩棚に生育している。

**保護対策:** 深山で人手が加わるようなところではなく、現在は安定しており、生育地の環境を現状のまま維持する必要がある。



(市川正人)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## アカハナワラビ

*Botrychium nipponicum* Makino

シダ植物 ハナヤスリ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：

近畿：準 (NT)

**選定理由：** 既知の生育地点数は2であり、個体数は少ない。平坦な場所に生育し環境が破壊されやすい。

**種の概要：** 夏から秋まで緑色で冬は両面赤変する。胞子は平滑で裸葉の小羽片は尖る。

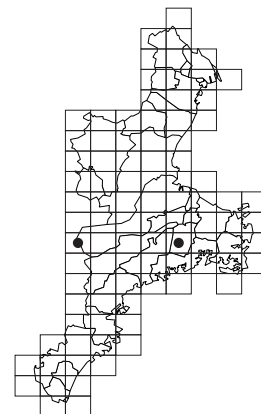
**分布：** 朝鮮半島、中国。国内では本州（宮城県以南）、四国、九州に分布し、県内では松阪市、度会町で記録がある。

**現況・減少要因：** 県内の現状は不明である。道路建設等による生育地の破壊が減少要因であろう。

**保護対策：** 生育地周辺の道路建設等は事前の調査が必要である。

**特記事項：** アカハナワラビによく似たアカフユノハナワラビが熊野市に生育が確認された。

**文献：** 80.



(大洞浩一)

## ハマハナヤスリ

*Ophioglossum thermale* Kom. ver. *thermale*

シダ植物 ハナヤスリ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：

近畿：B (EN)

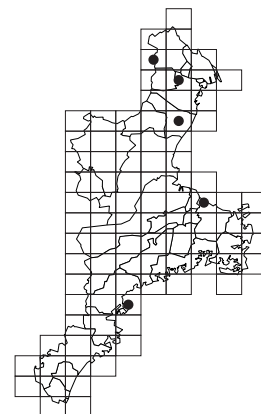
**選定理由：** 既知の生育地点数は5か所程度。ニホンジカによる食害、マニアによる採取、開発ともなう生育環境の変化等により個体数は減少している。

**種の概要：** 冬期には地上部が枯れる小型のシダ植物。日当たりのよい砂地や草地に自生。栄養葉と胞子葉があり、栄養葉は線形から長楕円形、基部はしだいに細くなり、胞子葉柄と合体する。葉の高さ7~20 cm。

**分布：** 北海道から琉球、シベリアから台湾、南洋諸島等に分布。県内では藤原町、大安町、鈴鹿市、伊勢市、尾鷲市からの記録がある。

**現況・減少要因：** 伊勢市では、溜池改修の影響により絶滅。またニホンジカの食害による減少も著しい。尾鷲市の自生地では、2000年前後からニホンジカの食圧により減少しだし、現在では周辺域の他の草本植物も含め、植生が消滅している状況である。

**保護対策：** 防護柵等ニホンジカの食害を防ぐ対策が必要。



(山本和彦)

## ヒロハハナヤスリ

*Ophioglossum vulgatum* L.

シダ植物 ハナヤスリ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：

近畿：C (VU)

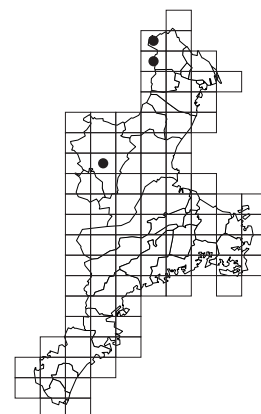
**選定理由：** 既知の生育地点数は5以下。群生する性質があるが個体数は少ない。

**種の概要：** 春から夏にみられるシダである。担葉体は2~15 cm、栄養葉は1枚で長さ6~12 cm、基部にはほとんど柄がなく、胞子葉の柄を包むようにつく。葉脈は細かい網目状で2次細脈もはっきりしている。胞子葉は普通10~20 cmである。多少の湿り気があればそれほど環境に左右されない。

**分布：** 北海道から九州に生育する。国外では北半球温帯地域。県内ではいなべ市藤原町、伊賀市に記録がある。

**現況・減少要因：** 最近では、伊賀市の上野森林公園内の路傍で確認されているが、生育場所の道路改修や踏み付けが減少要因になる。また、いなべ市藤原町（藤原岳から白瀬峠）ではニホンジカの食害が認められる。

**保護対策：** 生育環境から土地造成や道路工事が最も問題になると思われる。



(市川正人)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

### チチブホラゴケ

*Crepidomanes schmidtianum* (Zenker ex Tasch.) K.Iwats.

シダ植物 コケシノブ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：—

近畿：C (VU)

**選定理由：** 既知の生育地点数は1である。

**種の概要：** アオホラゴケに似るが、葉に偽脈がなく、葉柄に翼がない。深山の石灰岩の壁面に着生する。

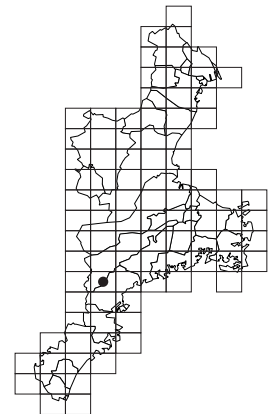
**分 布：** ヒマラヤ、中国、台湾。国内では本州（北関東以西）、四国、九州、県内では大台町に分布する。

**現況・減少要因：** 生育場所は僅かに大台町にのみ記録されているが、現状不明である。

森林伐採等の環境変化により絶滅のおそれがある。

**保護対策：** 生育場所を広く森林伐採から守り、保護する必要がある。生育地の調査が必要。

**文 献：** 80.



(大洞浩一)

### サイゴクホングウシダ

*Lindsaea odorata* Roxb. var. *japonica* (Bak.) Kramer

シダ植物 ホングウシダ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：—

近畿：C (VU)

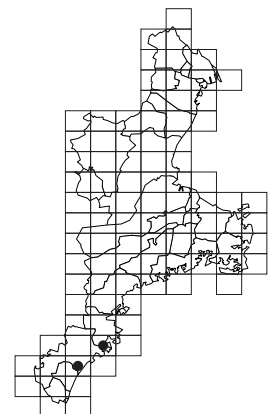
**選定理由：** 既知の生育地点数は5以下、採取圧があり、生育環境は不安定である。

**種の概要：** 常緑性シダのホングウシダに似るがはるかに小さく、山地溪流の湿った岩上に生え、葉柄は2~5 cmでほとんど紫褐色。葉身は長さ3~7 cm、巾1~2 cmで先端は尖らない。羽片全体の形は斜め三角形になる。

**分 布：** 紀伊半島南部、九州、沖縄。県内では紀州（尾鷲市、熊野市）に分布する。

**現況・減少要因：** 園芸用の採取と、河川の氾濫による岩石の移動が減少につながる。

**保護対策：** 洪水による溪流の転石対策は困難なため、残された生育地の環境を保護することが課題である。また、採取防止対策も必要である。



(花尻 薫)

### ナカミシシラン

*Vittaria fudzinoi* Makino

シダ植物 シシラン科(Christenhusz et al. 2011:イノモトソウ科)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：—

近畿：C (VU)

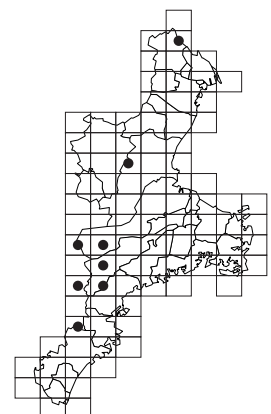
**選定理由：** 既知の生育地点数は10以下。森林伐採にともなう生育環境の悪化やマニア等の採取による減少が懸念される。

**種の概要：** 深山の岩上や樹幹に着生する常緑性のシダ植物。シシランによく似ているが、葉の表面に2条の溝があるのが特徴。胞子囊群は葉縁と中肋の間にある溝の中につく。

**分 布：** 本州（関東地方以西）、四国、九州、中国南西部に分布。県内ではいなべ市、伊賀市、松阪市、大台町、熊野市等から記録されている。

**現況・減少要因：** 空中湿度の高い森林内や渓谷沿いの岩上や巨木樹幹上に着生し、小群落を作る。県内の自生地ではいずれも稀にしか見ることができない。森林伐採による環境の変化や採取により減少している。

**保護対策：** 森林伐採の規制、渓谷の護岸工事や砂防堰堤建設時には自生地が消失しないような配慮が必要。



(山本和彦)

維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD



## ハチジョウシダ

*Pteris fauriei* Hieron.

シダ植物 イノモトソウ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：

近畿：C (VU)

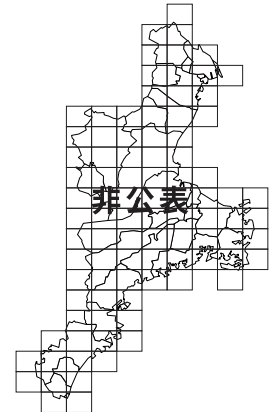
**選定理由：** 既知の生育地点数は5以下である。強い採取圧により激滅している。

**種の概要：** 常緑性シダ。樹陰に生じ、陰湿な場所にはみられない。根茎はやや太く斜上する。葉は長さ1 mに達する。葉柄は葉身より長く、基部の太さが直径5 mmを超すこともある。葉は洋紙質またはほとんど革質。

**分布：** 伊豆諸島、紀伊半島東南部および南部、四国、九州。県内では南勢（南伊勢町）、紀州（尾鷲市、熊野市）に分布する。

**現況・減少要因：** マニアなどの乱獲により、根茎まで採取され生育地が荒廃し、絶滅に近い。

**保護対策：** 現状のままでは絶滅のおそれがあり、柵を設けるなどの採取防止対策が必要である。



(花尻 薫)

## カミガモシダ

*Asplenium oligophlebium* Baker

シダ植物 チャセンシダ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：

近畿：B (EN)

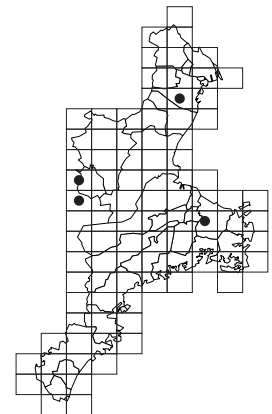
**選定理由：** 既知の生育地点数は5以下と少なく、神社林に生育していることが多い。

**種の概要：** 暗い林内の木の根や岩にかぶさるように生育する。羽片は長い直角三角形、基部は切形、耳垂はよく発達している。

**分布：** 日本固有種。本州（新潟県、岐阜県以西）、四国、九州。県内では四日市市、伊賀市、名張市、伊勢市に生育の記録がある。

**現況・減少要因：** 名張市、伊勢市では神社林にまとまって生育している。減少要因は不明であるが、もともと生育地が少ない。

**保護対策：** 生育地は神社林が中心であるので伐採される心配は少ない。しかし、人の出入りが多いので採取によって減少することのないよう注意をする必要がある。



(山路武夫)

## オクタマシダ

*Asplenium pseudo-wilfordii* Tagawa

シダ植物 チャセンシダ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：VU

近畿：C (VU)

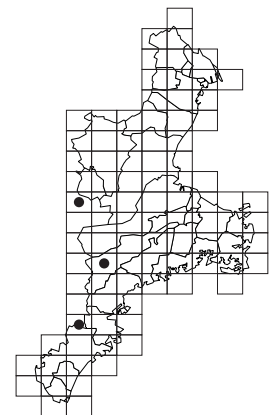
**選定理由：** 既知の生育地点数は5以下であり、各地点における個体数も少ない。

**種の概要：** アオガネシダに似た常緑性のシダである。葉身は革質で2~3回羽状で切れ込みが少なく浅い。広披針形から狭五角形で両側がほぼ平行的である。トキワシダにも似ているが、これは1回羽状である。

**分布：** 国内では福島県、関東から近畿地方、広島県、山口県、四国南部、宮崎県の山林中のやや陰湿な岩上や樹幹に生育。県内では名張市、大台町、熊野市で記録されている。

**現況・減少要因：** 名張市1、大台町1、熊野市1か所で確認されている。個体数は少なく、とくに森林伐採による乾燥化が問題となる。

**保護対策：** 生育地の陰湿な環境を残すことが必要である。



(市川正人)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

### イチヨウシダ

*Asplenium ruta-muraria* L.

シダ植物 チャセンシダ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：NT

近畿：準 (NT)

**選定理由：** 既知の生育地点数は5以下であり、各地点とも個体数は少ない。

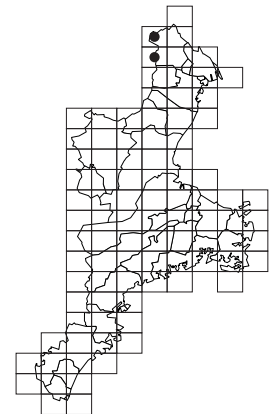
**種の概要：** 小型で常緑性、好石灰岩性のシダ植物である。小さな塊状の根茎から少数の葉を叢生。葉はやや硬い草質、長さ7 cmほどの小形で2回または単羽状に分かれ、小羽片はイチヨウの葉の形に似る。

**分布：** 日本全土。国外では北半球の冷温帯。県内では鈴鹿山脈北部に分布する。

**現況・減少要因：** 石灰岩採掘による生育地の崩壊、また、採取圧により絶滅の危機にある。

**保護対策：** 生育地周辺の石灰岩の採掘を中止し、種の保全に努めるべきである。採取圧については取締りが必要である。分布情報の公表にあつては慎重な配慮が必要である。

**文献：** 34. 49. 51. 59.



(葛山博次)

### カツモウイノデ

*Ctenitis subglandulosa* (Hance) Ching

シダ植物 オシダ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：—

近畿：C (VU)

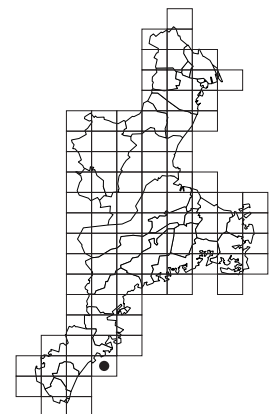
**選定理由：** 既知の生育地点数は1。生育面積は狭く、個体数も少ない。

**種の概要：** 常緑性で山地の林下にしばしば群生する。根茎は斜上。葉柄基部には黄褐色でふさふさした毛状鱗片が密生する。葉は3~4回羽状、表面には多細毛があり、裏面はやや白緑色。

**分布：** 本州 (千葉県, 伊豆半島, 伊豆諸島, 紀伊半島南部, 島根県), 四国南部, 九州, 沖縄。台湾, フィリピンなど広くアジアに分布。県内では、熊野市のみに記録がある。

**現況・減少要因：** 紀伊半島では北限となる熊野市に1か所生育地がある。約35個体と少なく、植林木が伐採されたり、生育地が開発されると消滅の可能性が高い。

**保護対策：** 近くに道路が開通したので、これ以上の開発は抑止したい。



(山脇和也)

### ツクシャブソテツ

*Cyrtomium macrophyllum* (Makino) Tagawa var. *tukusicola*

(Tagawa) Tagawa

シダ植物 オシダ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：—

近畿：準 (NT)

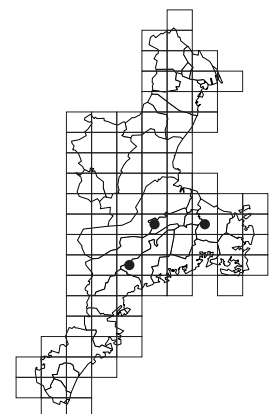
**選定理由：** 既知の生育地点数は5以下であり、個体数は50未満しかない。

**種の概要：** ヒロハヤブソテツに似るが、側羽片は6~10対、幅がやや狭く、基部は円みをもたず、広くさび形、上部の羽片はしだいに小さくなり、頂羽片も小さい。包膜には鈍鋸歯があり中心部は黒褐色になる。

**分布：** 本州 (栃木県, 千葉県以西), 四国, 九州。国外では中国に分布。県内では伊勢市, 大台町, 多気町からの記録がある。

**現況・減少要因：** 伊勢市, 大台町では1980年前後に、多気町では1994年に採集され、標本は大阪自然史博物館に収められている。その後県内での分布情報はないが、自生地にはまだ何個体が残っているものと思われる。谷沿いのスギ、ヒノキ林下に生育している。林道工事や森林伐採により生育地が攪乱されるおそれがある。

**保護対策：** 自生地周辺の森林環境を保全することが必要である。



(山本和彦)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## ツクシイワヘゴ

*Dryopteris commixta* Tagawa

シダ植物 オシダ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：絶滅危惧I類 (EN)

旧県：絶滅危惧I類 (EN)

環境省：

近畿：A (CR)

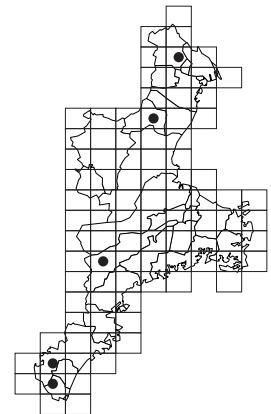
**選定理由：** 既知の生息地点数が5以下であり、各地点における個体数は少ない。

**種の概要：** 常緑性のシダでイワヘゴに似ているが羽片数は20対以下と少なく、節間は下ほど広くなる。包膜は小さく明らかではない。葉柄の鱗片は光沢がなく黒褐色から淡黒色をしている。

**分布：** イワヘゴと同じような環境に生じ、国内では本州、四国、九州に分布。県内ではいなべ市大安町、亀山市、大台町、熊野市、紀宝町で記録されている。

**現況・減少要因：** いなべ市大安町1、亀山市1、大台町宮川1、熊野市紀和町1、紀宝町1か所で現在は安定しているが、森林伐採や開発による圧力が減少要因となる。

**保護対策：** 森林伐採にともなう乾燥化に注意を払う必要がある。



(市川正人)

## タカサゴシダ

*Dryopteris formosana* (H.Christ) C.Chr.

シダ植物 オシダ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：NT

近畿：準 (NT)

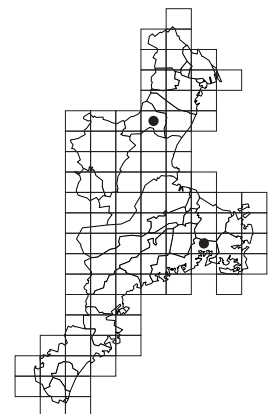
**選定理由：** 既知の生育地点数は2であり、いずれの生育地でも個体数はそれほど多くない。

**種の概要：** 葉身は三角形で羽片の先はホコ状になり、葉柄の鱗片は黒褐色になる。右軸や小羽軸の下面に袋状鱗片がある。最下羽片の下向き第一小羽片は第二小羽片よりものはっきりと大きく、列片の鋸歯は鋭く尖る。

**分布：** フィリピン、台湾。国内では本州（静岡、紀伊半島、山口）、九州、徳之島に分布し、県内では亀山市、伊勢市で記録がある。山地の樹林下の地面に生える。

**現況・減少要因：** 亀山市、伊勢市のいずれの生育地も神社の所有する土地の中にあり、開発行為から保護されているが、森林伐採や気候変動による生育環境の変化で減少する可能性がある。

**保護対策：** 生育地周辺の森林伐採を避ける。



(南 正祝)

## クロミノイタチシダ

*Dryopteris melanocarpa* Hayata

シダ植物 オシダ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：

近畿：

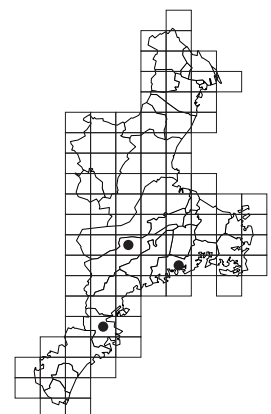
**選定理由：** 既知の生育地点数は5以下。各生育地の個体数はおよそ50未満しかない。

**種の概要：** 葉は卵状五角形から卵状三角形。最下羽片はとくに大きいことはなく、柄はより短く1~1.5 cm。葉柄は濃褐色で光沢がある。葉柄基部の鱗片は長さ4~10 mm、暖地にまれに生える。

**分布：** 本州（南部の暖地）、四国、九州の低山地の林中。県内では南勢と紀州に分布。

**現況・減少要因：** 尾鷲市、大台町、南伊勢町にそれぞれ1か所ずつ記録がある。林道工事や採取による減少が考えられる。

**保護対策：** 周りの環境も含めて生育地一帯を保護すべきであろう。



(山脇和也)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

### ムラサキベニシダ

*Dryopteris purpurella* Tagawa

シダ植物 オシダ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：CR

近畿：C (VU)

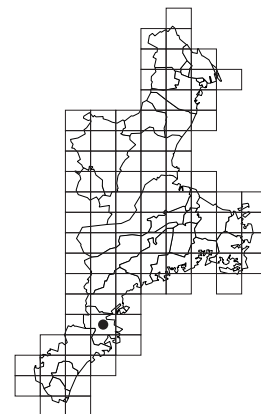
**選定理由：** 既知の生育地点数は5以下で、各生育地の個体数は50未満である。

**種の概要：** 葉身は長さ40 cmほどになる常緑性シダ。葉柄や中軸、羽軸が紫色を帯びる。若葉も紫色となるが、成葉は淡い緑色。鱗片は黒色。

**分布：** 本州（紀伊半島、広島県巖島）、四国南西部、九州、沖縄（石垣島）に分布。県内では尾鷲市のみに見られ、山地の林下に生育する。

**現況・減少要因：** 尾鷲市周辺の3か所の山地で確認されており、今のところ他では記録されていない。いずれも溪流に近いやや乾燥した植林地の林下に生育。道路拡幅や伐採による生育環境の改変による減少が懸念される。

**保護対策：** 適切な造林地の管理と保全が必要である。道路拡幅についても注意が必要。



(山本和彦)

### アスカイノデ

*Polystichum fibrillosopaleaceum* (Kodama) Tagawa

シダ植物 オシダ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：—

近畿：—

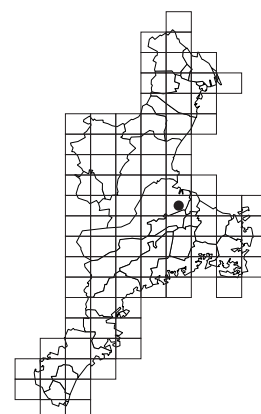
**選定理由：** 生育地が1地点に限られている。50未満の個体数しかない。

**種の概要：** 鱗片はアイアスカイノデよりさらに細く、中軸下部の鱗片は毛状、葉柄下部につく大きな鱗片は披針形から狭披針形でほとんど全縁。大きな葉は1 mを越える。

**分布：** 日本固有種。東北地方から関東、中部地方、三重・奈良・和歌山の各県と高知県に分布する。県内では松阪市のみ記録がある。

**現況・減少要因：** 20年前と比較して、本種の生育する森林を取り囲む周囲の環境が改変され、その影響で林内の乾燥化が進んでいる。個体数も減少している。雑種が混生しており、正しい個体数の把握は困難である。

**保護対策：** 生育地が保護されても、それを取り囲む周囲の環境が保全、維持されない限り問題解決にはならない。水環境の保全は今後さらに深刻化する最大の課題である。



(加田勝敏)

### オオハシゴシダ

*Thelypteris angulariloba* Ching

シダ植物 ヒメシダ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：—

近畿：A (CR)

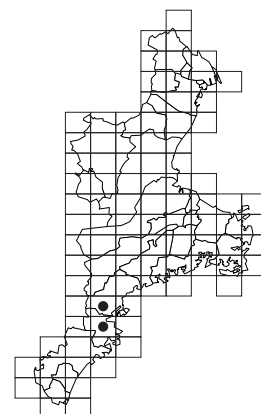
**選定理由：** 既知の生育地点数は5以下、各生育地の個体数は250未満と少ない。森林の伐採や開発により消滅した生育地もある。

**種の概要：** 常緑性で、湿って暗い林内にやままれに生じる。根茎はやや太く短くはう。葉柄は長さ約30 cmで葉身とほぼ等長、最基部には長い毛が密生する。葉身は広披針形。

**分布：** 本州（紀伊半島）、四国南東部、屋久島、沖縄。国外では中国南部、台湾。県内では、紀州に分布。

**現況・減少要因：** 尾鷲市で2か所、紀北町で1か所記録があるが、紀北町の生育地では開発により消滅した。尾鷲市でも森林の伐採により激減したか、一部が消滅したものと思われる。

**保護対策：** 生育場所を開発と森林伐採から守り、保護する必要がある。



(山脇和也)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## ヨコグラヒメワラビ

*Thelypteris hattorii* (H.Itô) Tagawa

シダ植物 ヒメシダ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：

近畿：A (CR)

**選定理由：** 既知の生育地点数は5以下であり、個体数は非常に少ない。環境の変化やマニア等の採取によって絶滅の可能性がある。

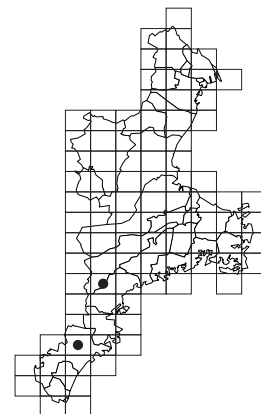
**種の概要：** 夏緑生。葉は三角形。2回羽状複生。下部羽片は明らかな柄がある。ツクシヤワラシダによく似るが、葉柄、中軸、羽軸の両面に短毛が密生する。

**分布：** 中国。国内では本州（岐阜県以西）、四国、九州に分布し、県内では大台町、熊野市に記録がある。

**現況・減少要因：** 1990年以降、県内では記録がない。過去に大台町2、熊野市1か所の記録はあるが現状不明である。道路などの建設により生育場所が失われている。

**保護対策：** 生育地周辺の森林伐採、道路建設の開発行為は避ける。生育地の新たな調査も必要。

**文献：** 80, 115.



(大洞浩一)

## ミヤマワラビ

*Thelypteris phegopteris* (L.) Sloss. ex. Rydb.

シダ植物 ヒメシダ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：

近畿：

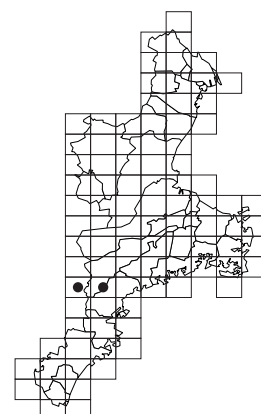
**選定理由：** 既知の生育地点数は5以下。大台ヶ原の標高1,000 m以上一帯にしかみられず、個体数も多くない。

**種の概要：** 落葉広葉樹林の林床の腐植土の多いところに生育する。夏緑性で根茎は地上や岩上を長く這い、群生する。葉は2回羽状、上部の羽片の基部裂片は中軸に流れる。葉柄は葉身より長い。葉身は三角形から卵状三角形。

**分布：** 北海道、本州（中部地方以北）ではやや普通。それより西では紀伊半島大峰山系、中国山地、四国山地、九州（祖母山・屋久島高所）。県内では大台町大台ヶ原に分布。

**現況・減少要因：** 国立公園内にあり開発等からは保護されている。ニホンジカの食害による個体数の減少が考えられる。

**保護対策：** 生育地のニホンジカの食害からの保護が必要である。



(山脇和也)

## ヒロハノコギリシダ

*Diplazium dilatatum* Blume

シダ植物 イワデンド科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省：

近畿：C (VU)

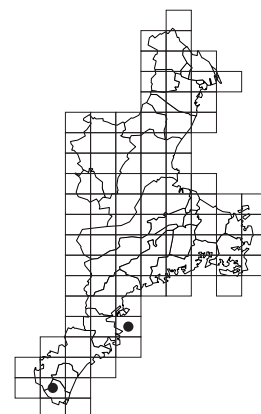
**選定理由：** 既知の生育地点数は2か所、個体数は両者とも5未満。これまで自生地は県内1か所のみであったが、最近新産地が確認されたため評価をENに下げた。

**種の概要：** 葉身の長さは1 mをこえる大型の常緑性シダ。根茎は太く、短く直立する。葉柄も長く、基部は親指くらいの太さとなり、黒褐色で突起のある鱗片をつける。

**分布：** 八丈島、愛知県、紀伊半島南部、高知県、九州（南部および五島列島）、沖縄。国外では台湾、中国南部、インドシナ半島に分布。県内では尾鷲市と紀宝町から記録されている。

**現況・減少要因：** 尾鷲市の自生地は九木崎の照葉樹林下で、1956年に発見されているが、最近紀宝町のスギ林下でも確認された。隣県の和歌山県でも新産地が見つかっており、分布域が拡大傾向にある。今後、県内の他地域から発見される可能性も高いと思われる。

**保護対策：** 九木崎の自生地は、「九木崎樹叢」として三重県の天然記念物に指定されていることもあり、開発等の危険性は少ないと思われる。紀宝町の自生地はスギ人工林内であるため、伐採等により消滅する可能性が高く、山林所有者の理解を得る必要がある。



(山本和彦)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## エビラシダ

*Gymnocarpium oyamense* (Bakar) Ching

シダ植物 イワデングダ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：—

近畿：準 (NT)

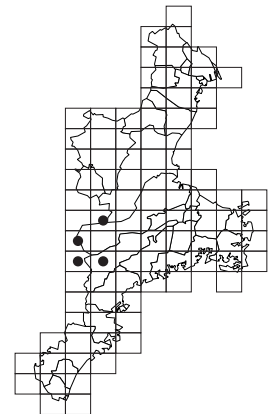
**選定理由：** 既知の生育地点数は5以下であり、個体数は少なく、生育地面積も極めて狭い。

**種の概要：** 夏緑性小型のシダで根茎は細く長く這う。葉身は淡緑色で単羽状深裂し軸折れする。羽片は羽状に浅・中裂する。鱗片は薄い膜質で葉柄基部にある。胞子嚢群に包膜はなく羽片中に二列に散在する。

**分 布：** 国内では関東地方から近畿地方、四国の深山溪流近くの斜面や岩などに生育。国外ではネパール、中国、台湾、フィリピン、ニューギニア。県内では津市美杉町、松阪市飯高町、大台町に記録がある。

**現況・減少要因：** 津市美杉町、松阪市飯高町2か所、大台町で生育している。深山の安定した大きな岩の壁下などにみられる。採取が減少要因となる。

**保護対策：** 生育地点数、個体数ともに少ないので、採取からの保護が必要である。



(市川正人)

## アオネカズラ

*Polypodium niponicum* Mett.

シダ植物 ウラボシ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：—

近畿：C (VU)

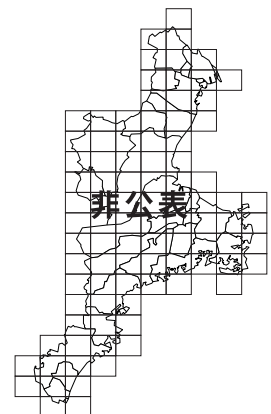
**選定理由：** 既知の生育地点数は10以下であり、各生育地の個体数は250未満である。採集圧が極めて強い。

**種の概要：** 山地の岩上や樹幹に着生するシダで、夏に落葉して休眠する。葉は細かい軟毛で密におおわれている。

**分 布：** 中国。国内では本州、四国、九州に分布。県内では松阪市、大紀町、大台町、名張市、紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町などから記録されている。

**現況・減少要因：** 園芸目的による採取が最大の減少要因で、発見されたらまず採られるので、減少の一途をたどっている。

**保護対策：** 採取から守ること以外に方法はなく、分布情報の公表にあたっては、慎重な配慮が必要である。



(加田勝敏)

## デンジソウ

*Marsilea quadrifolia* L.

シダ植物 デンジソウ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：VU

近畿：B (EN)

**選定理由：** 既知の生育地点数は10以下であり、安定した生育地はない。

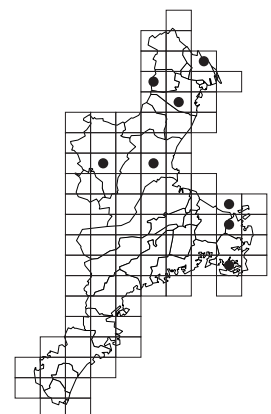
**種の概要：** 水湿地に根茎を引いて生育する水生のシダで、小葉4枚が十字状につく。冬は地上部が枯れる。

**分 布：** 朝鮮半島、中国、アジア東部、インド、ヨーロッパ。国内では、北海道（北見以南）、本州、四国、九州、沖縄。県内では桑名市、四日市市、菰野町、伊賀市、津市、伊勢市、志摩市から記録されている。

**現況・減少要因：** 伊賀地域ではゴルフ場造成で絶滅したが別の地点で再確認された。他地域では現在2か所で生育が確認されるのみである。水田・池沼などの極めて開発圧の強い環境に生育しているために、近い将来絶滅が危惧される。

**保護対策：** 最も開発の危険性の高い環境にあるため、一般への啓発活動を強化して、理解を求める必要がある。

**文 献：** 34. 41. 43. 69. 73. 85.



(加田勝敏)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## イチイ

*Taxus cuspidata* Siebold et Zucc.

裸子植物 イチイ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：—

近畿：—

**選定理由：** 既知の生育地点数は5以下。県内では高標高地に分布が限定され、個体数が少なく、野生植食獣の食害などにより存続が危ぶまれる。

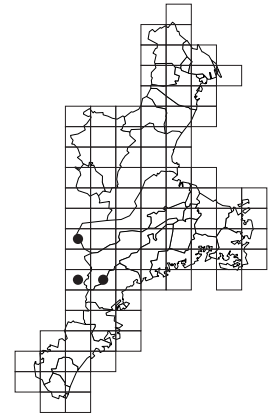
**種の概要：** 高木性の常緑針葉樹。樹高20 m、直径は90 cm程度。幹は典型的な梢殺(ウラゴケ)で、先細りが著しい。樹皮は赤褐色で薄く縦にさける。葉は柔らかく、線形で長さ1.2~2.0 cm。先は尖るが触っても痛くない。種子は卵状球形で下半分は多肉の仮種皮に包まれる。仮種皮は冬に紅色となる。

**分布：** 国内では北海道、本州、四国、九州の温帯から亜寒帯に分布。国外では樺太、千島、朝鮮半島、中国にも分布。県内では大台町の高標高地(西谷、大杉谷)、明神岳などで生育が確認されている。

**現況・減少要因：** 生育地の天然林が林業開発等で、スギ、ヒノキ植林に転換され、また野生獣の食害で更新が妨げられている。

**保護対策：** 野生獣の食害等を防ぎ、現存する母樹、稚幼樹の保護が必要。

**文献：** 139.



(武田明正)

## アサダ

*Ostrya japonica* Sarg.

被子植物 [双子葉・離弁花] カバノキ科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：—

近畿：準 (NT)

**選定理由：** 既知の生育地点数は5以下。未知の生育地は既知の生育地に比べ多くないと推測される。

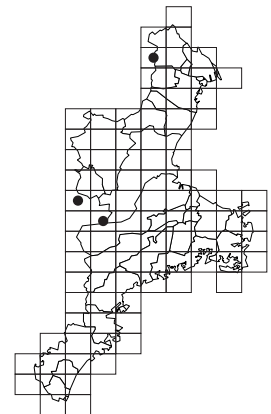
**種の概要：** 山地に生える落葉小高木。高さ10~15 m、直径30 cm程度。樹皮は暗褐紫色で、薄片に割れ剥げる。葉は互生で狭卵形から広・長楕円形。葉身の長さ5~13 cm。鋭先端。重鋸歯縁で亡端。表面に白軟毛が密生。

**分布：** 国内では北海道(中南部)、本州、四国、九州(霧島山)。国外では朝鮮半島(済州島、莞島)、中国(湖北、四川省など)、県内では、いなべ市(藤原岳)、津市美杉町(三重大学演習林)、名張市に分布。

**現況・減少要因：** 本種が自生する里山林の多くは薪炭林として利用されてきた。これら薪炭林の多くがスギ、ヒノキの植林へ転換され個体数が減少した。

**保護対策：** 山地開発、林道開設、治山工事の際には、保全に配慮する必要がある。

**文献：** 138.



(武田明正)

## オヒョウ

*Ulmus laciniata* (Trautv.) Mayr

被子植物 [双子葉・離弁花] ニレ科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：—

近畿：—

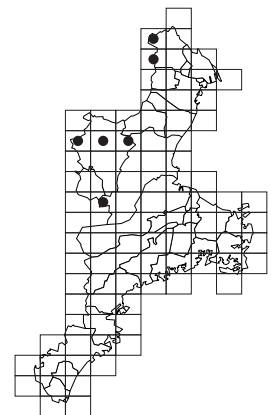
**選定理由：** 既知の生育地点数は5以下で、50未満の個体しか確認されていない。

**種の概要：** 山地に生える落葉高木。樹高25 m、直径1 mになる。葉は2列互生してざらつく。葉身は倒広卵形から長楕円形。上部は3~9裂するか、急鋭先端。側脈は10~17対。両面に短毛がある。

**分布：** 国内では北海道、本州、四国、九州、国外では朝鮮半島、中国(東北部)、東シベリア、カムチャッカなどに分布。県内では、いなべ市(御池岳、藤原岳)、伊賀市、津市美杉町(大洞山)などに生育が知られている。

**現況・減少要因：** 確認されている自生個体が少ない。林業開発(スギ、ヒノキ一斉林への転換)で個体数が減ったうえ、近年著しく増えたニホンジカ等の食害を受けている可能性が高い。

**保護対策：** 林業開発、林道開設、治山工事の際には保全に配慮する必要がある。



(武田明正)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## ラセイタソウ

*Boehmeria biloba* Wedd.

被子植物 [双子葉・離弁花] イラクサ科(APGⅢ：同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：—

近畿：準 (NT)

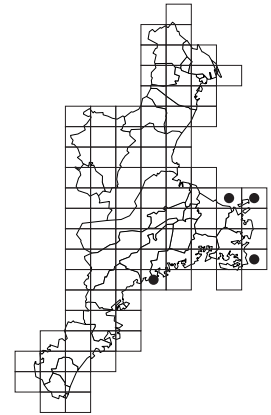
**選定理由：** 既知の生育地点数は5以下、各生育地の個体数は50株未満である。

**種の概要：** 海岸の崖や岩の間に生える多年草。茎は太く、高さ30～70 cm、葉は広卵状楕円形、厚く表面がラシヤの布に似ている。花は7～9月頃、穂状に出る。

**分布：** 国内では北海道南部から紀伊半島の太平洋側の海岸に分布。県内では伊勢市、鳥羽市、志摩市、紀北町で記録がある。

**現況・減少要因：** 鳥羽市では、島嶼に生育している。紀北町の記録は古く、現況は不明である。減少の大きな要因は、開発による生育地の消滅あるいは環境の悪化である。

**保護対策：** 生育環境を保全することがもっとも重要である。



(岡 与一)

## オオバヤドリギ

*Taxillus yadoriki* (Siebold ex Maxim.) Danser

被子植物 [双子葉・離弁花] ヤドリギ科(APGⅢ：オオバヤドリギ科)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：—

近畿：A (CR)

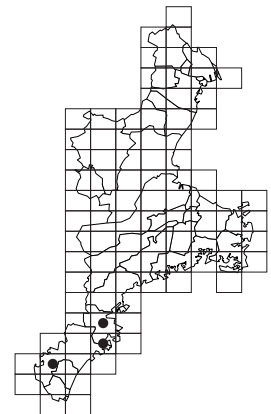
**選定理由：** 既知の生育地点数は5以下、各地点の個体数は50未満である。

**種の概要：** 常緑広葉樹、主としてカシ類、クスノキ科のタブ、ヤブニッケイ、シイなどに寄生するが、時にはその周辺の針葉樹にも寄生する。グミに似るが葉が大きい、晩秋に2～3個の柄のある花をつける。

**分布：** 国内では本州（京都、奈良、和歌山、三重）に分布。県内では紀州地域（御浜町、尾鷲市）。

**現況・減少要因：** 紀州地域に2か所。おもに神社林の外帯の向陽の樹に寄生しているが、暴風や神社林の整備などにより宿主が倒木したり、伐採されると個体数が激減するおそれがある。

**保護対策：** 神社林の保護や天然記念物指定などが必要である。



(花尻 薫)

## ヤナギヌカボ

*Persicaria foliosa* (H.Lindb.) Kitag. var. *paludicola* (Makino) H.Hara

被子植物 [双子葉・離弁花] タデ科(APGⅢ：同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：VU

近畿：C (VU)

**選定理由：** 既知の生育地点数は1、個体数は250以下であるが、新たな生育地の発見の可能性がある。

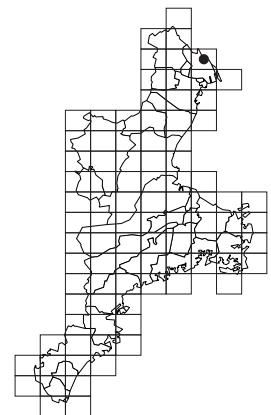
**種の概要：** 湿地や水辺に生える30～60 cmの一年草。多く分枝し、茎の下部は地を這い節から発根する。上部は枝を分け斜上する。茎は無毛であるが葉には両面ともに毛があり、裏面には腺点がある。長さ3～9 cm、幅2～9 mmで短柄がある。托葉鞘は筒状で同長の縁毛がある。9～10月、細い総状花序にまばらに1.5 mmの淡紅色花をつける。

**分布：** 国内では北海道、本州、九州に分布。県内では桑名市で記録されている。

**現況・減少要因：** 桑名市長島町1か所まで確認されている。湖沼開発や河川開発により、絶滅に瀕している植物である。

**保護対策：** 少なくとも現在の生育環境を維持する必要がある。

**特記事項：** サイコクヌカボに似るが、花序の花はこれよりもっと込み合う。



(市川正人)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD



## マダイオウ

*Rumex madaio* Makino

被子植物 [双子葉・離弁花] タデ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧II類 (VU)

環境省: —

近畿: A (CR)

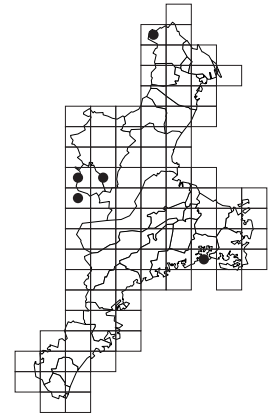
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、生育地が開発のおそれのある湿地である。外来種との交雑による攪乱が懸念される。また、一部の個体群はニホンジカの食害によって消滅の危機にさらされている。

**種の概要:** 水辺に生育し、高さ1 m以上になる多年草。葉は有柄で長さ30 cm、幅16 cm、裏面脈上に短い剛毛を密生する。花期は6月頃。しかし、生育していても花をつけないこともある。

**分布:** 日本固有種。本州から九州に分布。県内ではいなべ市、伊賀市、名張市、南伊勢町で記録がある。

**現況・概要:** 南伊勢町の生育地では水路際の休耕田に20~30株生育しているが、ニホンジカの食害により、消滅寸前である。自生地が限られており、各個体群の面積も小さい。道路拡幅などのわずかな開発で消失する懸念がある。外来種による遺伝的な攪乱も大きな脅威。

**保護対策:** 開発等で生育地が壊されない配慮が必要である。また、雑草として除去する場合でも根茎は残しておくことが大切である。



(藤井伸二)

## タチハコベ

*Moehringia trinervia* (L.) Clairv.

被子植物 [双子葉・離弁花] ナデシコ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: VU

近畿: C (VU)

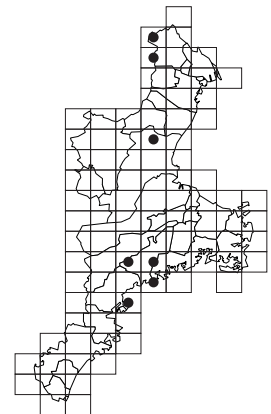
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下で、各生育地の個体数は100未満である。

**種の概要:** 高さ7~20 cmになる一年草または越年草。茎は下部から枝を分けて広がり、下向きの短毛を密生。葉は卵形鈍頭、先は鋭形、葉柄があり、両面に短毛がある。花期は3~8月。花弁は白色。

**分布:** 国内では北海道、本州、四国、九州。国外では北半球の温帯に分布。県内ではいなべ市藤原岳周辺、津市、南伊勢町、大紀町、紀北町、尾鷲市からの記録がある。

**現況・減少要因:** 県内では藤原岳の山地から海辺の低地まで幅広く分布が認められるが、生育地点数や個体数は少ない。いずれの生育地も陽光が当たる草地あるいは樹林の林縁部である。遷移の進行で個体数が減少しつつあるところも見受けられるが、他は今のところ健在である。

**保護対策:** 山地では登山道周辺にみられることが多いので、整備に際しては注意が必要である。海辺では、埋め立て等による生育地の消失が危惧される。海辺の自然環境を保全することが必要である。



(山本和彦)

## ハマアカザ

*Atriplex subcordata* Kitag.

被子植物 [双子葉・離弁花] アカザ科(APGⅢ:ヒユ科)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: C (VU)

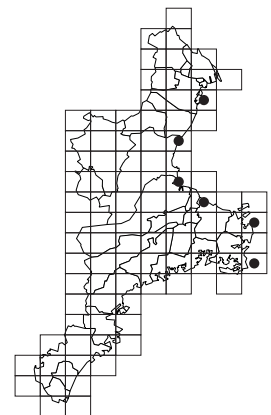
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり、個体数は少ない。

**種の概要:** 河口の汽水域の砂地など海浜に生える一年生草本。茎は分枝し、高さ40~60 cm。葉は互生。開花期は8~10月。雌花は苞を有し、苞は結実期に長さ6~10 mmになる。

**分布:** 国内では北海道、本州。国外では樺太、千島列島。県内では四日市市、鈴鹿市、松阪市、明和町、伊勢市、鳥羽市、志摩市で記録がある。

**現況・減少要因:** 埋め立て・護岸・堤防工事など、海浜は開発圧が高く、また河口付近は流入河川の水質変化の影響も受けやすいため、本種の生育可能な環境は非常に限定的になっている。

**保護対策:** 海浜や河口の砂地の環境を保全する必要がある。



(平山大輔)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## イソホウキギ

*Bassia scoparia* (L.) A.J.Scott

被子植物 [双子葉・離弁花] アカザ科(APGⅢ: ヒユ科)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: A (CR)

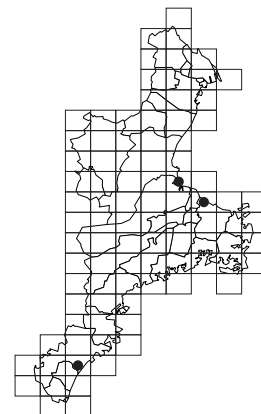
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、個体数は少ない。

**種の概要:** 塩性湿地に生える一年生草本。高さ30~100 cm。茎は分枝が多い。やや厚みのある細い葉が互生する。開花期は9~10月で、1~3個の花が葉腋につく。

**分布:** 国内では本州(東海地方以西)、四国、九州に分布。国外では朝鮮半島、中国大陸東部に分布。県内では津市、松阪市、伊勢市、熊野市で分布の記録がある。

**現況・減少要因:** 塩性湿地そのものが希少で、かつ消失の危機にある。それにともない本種も減少、消失が懸念される。

**保護対策:** 塩性湿地の保全により、本種の保全も可能と思われる。



(平山大輔)

## ハチジョウイノコヅチ

*Achyranthes bidentata* Blume var. *hachijoensis* (Honda) H.Hara

被子植物 [双子葉・離弁花] ヒユ科(APGⅢ: 同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: —

環境省: —

近畿: —

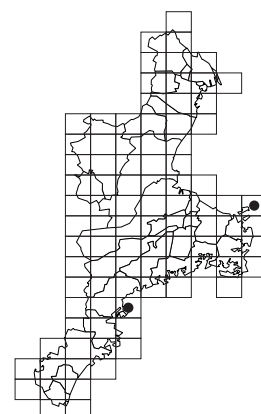
**選定理由:** 既知の生育地点数は2。個体数は少ない。

**種の概要:** 高さ1 mに達するイノコヅチに似た多年草。茎は直立、または斜上し、葉は楕円形で長さ約15 cm、幅約8 cm、対生する。表面は光沢のある深緑色でほぼ無毛である。8~9月に茎の先端や葉腋に穂状花序を着ける。付属体はイノコヅチ類ではやや大きい。

**分布:** 国内では本州南部、四国、九州、沖縄に分布。県内では鳥羽市の神島、紀北町の大島で記録がある。

**現況・減少要因:** 少なくとも鳥羽市神島町には現在も生育している。海岸開発が減少要因となる。

**保護対策:** 海岸開発に際しては移植などの対策を必要とする。



(市川正人)

## シデコブシ

*Magnolia stellata* (Siebold et Zucc.) Maxim.

被子植物 [双子葉・離弁花] モクレン科(APGⅢ: 同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: NT

近畿: A (CR)

**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり、生育環境が限られている。

**種の概要:** 落葉性の垂高木で、高さ3~8 (15) m。花は3月下旬~4月上旬、葉の展開前に咲く。花弁は12~18枚もあり、白色または淡紅色。

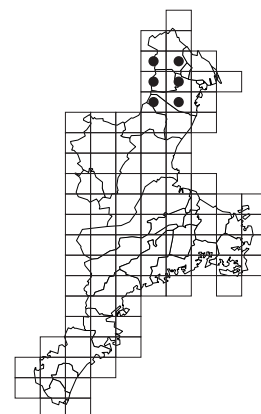
**分布:** 国内では三重、岐阜、愛知の3県にまたがる地域の固有種。県内では北勢地域に分布。丘陵地の侵食の及んでいない小谷の底部に生育する。

**現況・減少要因:** いなべ市、菰野町、四日市市で計6か所の生育地が確認されている。宅地造成等による丘陵地の開発や園芸目的の採取が懸念される。

**保護対策:** 生育地は湧水に涵養された特異な立地であり、シデコブシのほか、シラタマホシクサ、ミカワバイケイソウ、ヘビノボラズなどの東海丘陵要素植物がみられる。この特異な立地全体の保全が必要である。

**特記事項:** 菰野町田光は国指定天然記念物、四日市市市川島町は三重県指定天然記念物、四日市市桜町は市指定天然記念物にそれぞれ指定されている。

**文献:** 20. 61. 82. 103. 123.



(後藤稔治)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## ヒメイチゲ

*Anemone debilis* Fisch. ex Turcz.

被子植物 [双子葉・離弁花] キンポウゲ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿: C (VU)

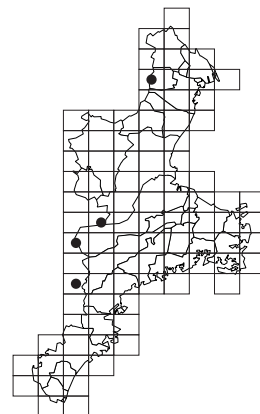
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は250未満である。

**種の概要:** 亜高山帯の針葉樹林や高山帯のハイマツ林の林縁、ときには草原にもみられる多年草。地下茎は短い塊状である。根出葉には5~12 cmの柄があり、1回3出複葉、小葉は長さ1.5~3 cm、幅1~2 cmである。総苞葉は3個つき、それぞれ総状披針形から披針形の3小葉からなり、根出葉の形とは大きく異なる。

**分布:** 国内では近畿地方以北、北海道に分布。国外では北東アジアに分布する。県内では山地上部に限られ、明るい広葉樹林下の草原に生育している。菰野町、松阪市飯高町、大台町で記録されている。

**現況・減少要因:** 菰野町1、松阪市飯高町2、大台町1か所でみられる。採取や造林の拡大が減少要因と考えられる。

**保護対策:** 造林地の拡大や園芸採取に注意を払うことが必要。



(市川正人)

## キイセンニンソウ

*Clematis uncinata* Champ. ex Benth. var. *ovatifolia*  
(T.Itô ex Maxim.) Ohwi ex Tamura

被子植物 [双子葉・離弁花] キンポウゲ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿:

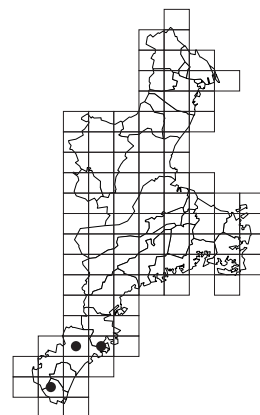
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は50未満である。

**種の概要:** 林道や里道沿いの常緑広葉樹、落葉広葉樹の陽光の場所に生育する蔓植物で、センニンソウに比べ小葉は厚く、卵形又は長だ円形である。花期は8~9月。

**分布:** 国内では紀伊半島南部(和歌山県、三重県)。県内では紀州地域(熊野市、御浜町、紀宝町)に分布。

**現況・減少要因:** 自生地は極めて限定されている。近年の林野の放置が原因で減少傾向にあり、危惧すべき環境におかれている。

**保護対策:** 乱獲防止と、本種が生育する周辺の小低木を伐採する場合には、積極的に保護する必要がある。



(花尻 薫)

## コバノリュウキンカ

*Caltha palustris* L. var. *pygmaea* Makino

被子植物 [双子葉・離弁花] キンポウゲ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県:

環境省:

近畿:

**選定理由:** 既知の生育地点数は2。個体数は50未満で少ない。植物体は小さいがニホンジカの食害を受けている。また園芸採取の痕跡もある。

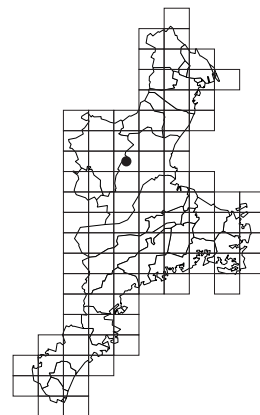
**種の概要:** 山地の水湿地に生える多年草。根出葉は長さ・幅ともに3~5 cmの心形から腎形。茎葉は小さい。鈍鋸歯縁である。花茎は高さ約10~15 cmで直立、または斜上する。径1.5 cmほどの黄色い(萼の色)花を5~7月に咲かせる。

**分布:** 日本固有種。本州に分布。県内では津市、伊賀市で記録されている。

**現況・減少要因:** 津市1、伊賀市1か所で生育している。ニホンジカの食害や園芸採取が認められるが、環境としては比較的安定している。植生遷移、ニホンジカの食害、園芸採取などが減少要因。

**保護対策:** 現在の生育環境を維持し、湿地開発をしないことである。風車増設が進行しているが、自然に配慮した調和ある計画を切望する。

**特記事項:** リュウキンカやエンコウソウに似ているが、花を含めて全体的にかなり小形である。なお、県内には植栽を除いてリュウキンカ、エンコウソウは分布しない。



(市川正人)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## タカネハンショウヅル

*Clematis lasiandra* Maxim.

被子植物 [双子葉・離弁花] キンボウゲ科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：—

近畿：準 (NT)

**選定理由：** 既知の生育地点数は5以下である。

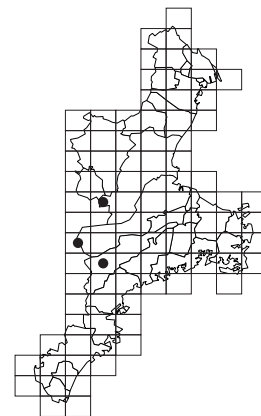
**種の概要：** 山間部の林縁などに生えるつる性低木。葉は長柄があり、2回3出複葉で小葉は卵形から卵状披針形、鋭尖頭、あらい鋸歯がある。9~10月頃、その年に伸びた枝の葉腋より集散状の花序を出す。花は下向きで鐘形、淡紅紫色。

**分布：** 国内では本州（近畿地方以西）から九州、国外では中国（本土、台湾）に分布。県内では名張市、津市、松阪市、大台町からの記録がある。

**現況・減少要因：** いずれの生育地も最近まで分布情報があり、現在も健在と思われる。

林縁に生えるものは、刈り払われたりすることもあると思われる。

**保護対策：** 歩道や登山道の整備等で刈り払うことのないよう注意が必要。



(山本和彦)

## カザグルマ

*Clematis patens* C.Morren et Decne.

被子植物 [双子葉・離弁花] キンボウゲ科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：NT

近畿：C (VU)

**選定理由：** 既知の生育地点数は5以下であり、各生育地の個体数は50未満である。採取や開発による圧力が極めて強い。

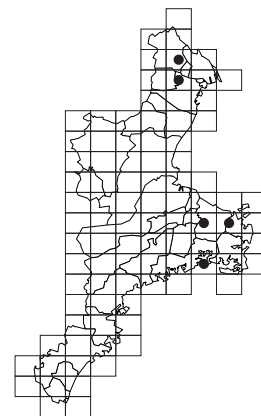
**種の概要：** 林縁に生える落葉性のつる草。葉は羽状複葉、小葉は3~5枚、卵形で先はとがるが鋸歯はない。蔓の先端に1~3枚の葉をつけ1個の花を頂生する。花期は5~6月。花は径6~10 cm、萼片は6~8枚、白色から淡紫色。

**分布：** 国内では本州、四国、九州北部。国外では朝鮮半島、中国（東北の南部）。県内ではいなべ市、菟野町、伊勢市、南伊勢町に分布する。

**現況・減少要因：** 山地や丘陵の林縁に生育する。開発による生育地の破壊や盗掘などで減少している。

**保護対策：** 分布する地域の開発を最小限にとどめる。また園芸採取を防ぐため、分布情報の公表は避ける。

**特記事項：** 伊勢地方の蛇紋岩地帯に生育する個体は花が紫色になる。



(中馬千鶴)

## シロバナハンショウヅル

*Clematis williamsii* A.Gray

被子植物 [双子葉・離弁花] キンボウゲ科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：—

近畿：準 (NT)

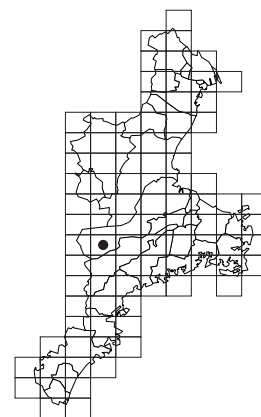
**選定理由：** 既知生育地点数は1以下であるが、他にも新しい生育地が期待できる。

**種の概要：** 林縁や低木に巻きつく蔓性半低木。葉は1回3出複葉で小葉は長卵形から卵形、3中裂し小数の鋸歯があり、しばしば白斑がはいる。4~6月頃、本年枝葉腋に2~4 cmの花柄を伸ばし白い花をつける。葉柄の中部以上に披針形の小苞をつける。花は下向きで広鐘形である。萼片は4個、長さ1.5~2 cmの広楕円形から卵形である。

**分布：** 日本固有種。関東地方南部から近畿地方南部の太平洋側、四国、九州に分布。石灰岩地を好む傾向がある。県内では松阪市飯高町で記録がある。

**現況・減少要因：** 松阪市飯高町にみられるが、花をつけるまでに成長した個体は少ないようである。台高山地西側、奈良県側にはかなりの個体数を確認しているが、三重県側には少ないようである。林縁の土砂崩壊が減少要因となる。

**保護対策：** 果実をつける成長した個体はとくに保護を必要とする。



(市川正人)

維管束植物

蕨類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## コウヤシロカネソウ

*Dichocarpum numajirianum* (Makino) W.T.Wang et P.K.Hsiao

被子植物 [双子葉・離弁花] キンポウゲ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: EN

近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、各生育地の個体数はおよそ50未満と少ない。

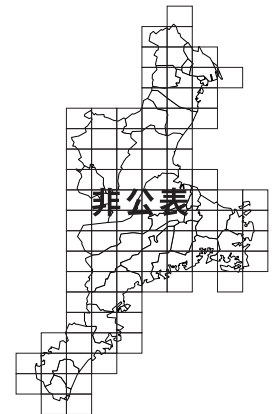
**種の概要:** 茎の高さ5~20 cmになる多年草。地下茎は短く、大きな鱗片に被われる。葉は3小葉からなり、側小葉は小さな葉に分裂する。花は4~6月、横向きに咲き、淡黄緑色から白色、径7~8 mm。

**分布:** 国内では近畿地方南部、四国東部の暖帯上部から温帯下部に分布。県内では熊野市紀和町、旧一志郡、大台町からの記録がある。

**現況・減少要因:** 熊野市紀和町および旧一志郡の標本記録は古く、近年のものはない。大台町では、2003年に溪流沿いの落葉広葉樹林内で約30個体確認されている。県内で同様な環境下を精査すれば、さらに新生育地が増える可能性がある。

**保護対策:** 生育地周辺の森林環境の保全が必要である。奥山で発見されていることから、採取圧も高くはないと思われるが、個体数が少ないため、乱獲による絶滅の可能性も考えられる。生育地の公表には十分な配慮が必要。

文献: 65.



(山本和彦)

## ミスミソウ

*Hepatica nobilis* Schreb. var. *japonica* Nakai

被子植物 [双子葉・離弁花] キンポウゲ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: NT

近畿: 準 (NT)

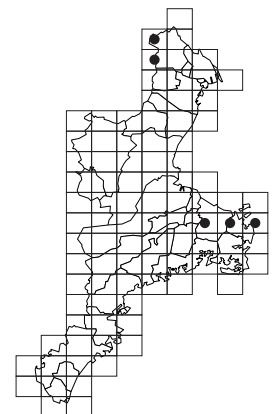
**選定理由:** 既知の生育地点数は5であるが、各生育地の個体数は50未満である。

**種の概要:** 落葉広葉樹林の林床に生え、細長く匍匐する多年草。根出葉は根茎の先に束生し、長い葉柄がある。葉身は三角形で、基部は心状、裂片は鋭頭。3~4月頃、高さ10~15 cmの花茎を出し、径1~1.5 cmの白い花を頂生する。花の下にある3枚は茎葉で萼ではない。萼片は花弁状で白色、6~10枚ある。花弁はない。

**分布:** 国内では本州(中部地方以西)、九州北部。県内ではいなべ市、伊勢市、鳥羽市に分布する。

**現況・減少要因:** 林縁に小群落を成しているが、遷移の進行により、減少傾向にある。伊勢地方ではイノシシの食害により激減した。

**保護対策:** 造林地の適切な手入れを継続することが必要である。



(中馬千鶴)

## セツブンソウ

*Eranthis pinnatifida* Maxim.

被子植物 [双子葉・離弁花] キンポウゲ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: NT

近畿: A (CR)

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は250未満である。

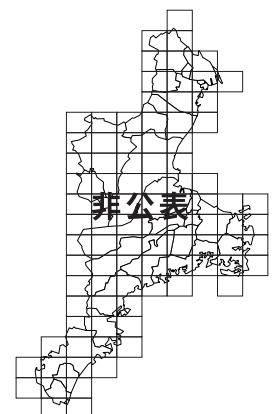
**種の概要:** 高さ5~15 cmの多年草、丸い塊茎がある。花は3~4月。直径2 cm、がく片5枚で白色、花弁状。真の花弁はがくの内側に多数あり、棒状で2~4裂、先端は黄色の蜜腺となっている。春早く開花し、晩春に地上部は枯死する。

**分布:** 日本固有種。本州(関東および中部以西)の暖温帯から冷温帯。県内ではいなべ市、伊賀市に分布する。

**現況・減少要因:** 陽地で裸地に近いか草丈の低いしかも疎生の落葉樹林内に生育するが、近年ヒノキ、スギの繁茂により、光量不足から減少している。また、土石流災害により生育地が崩壊したり、採取圧を強く受けている。

**保護対策:** 生育地内に繁茂するスギ、ヒノキなどの伐採、枝打ちを実地する。採取の禁止や踏みつけの防止が必要である。分布情報の公表については慎重な配慮が望まれる。

文献: 34. 45. 51. 69.



(葛山博次)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

### シマサルナシ

*Actinidia rufa* (Siebold et Zucc.) Planch. ex Miq.

被子植物 [双子葉・離弁花] マタタビ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: 準 (NT)

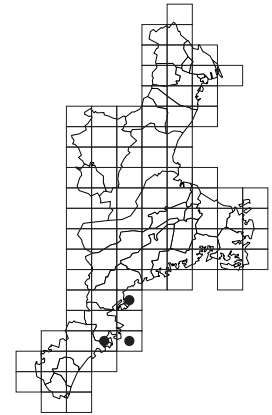
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は50未満である。

**種の概要:** 海沿いの強い陽光の場所に生育する落葉性のつる植物で、春から夏にかけて他の樹木に巻きついて急成長する。花期は6月頃で、梅に似た直径1~1.5 cmの白花をつける。果実は長さ3 cmほどの楕円形。果実は同じ属の栽培種キウイフルーツと同じで、完熟すると甘くなる。

**分布:** 国内では本州(三重, 和歌山, 兵庫), 四国, 九州, 沖縄。県内では紀州地域(紀北町, 尾鷲市, 熊野市)に分布。

**現況・減少要因:** 果実を採取する目的で個体を刈り採ったりすることが減少要因となる。

**保護対策:** 低木の照葉樹の樹冠上で繁茂している個体については保護することが必要である。



(花尻 薫)

### ヤマブキソウ

*Hylomecon japonica* (Thunb.) Prantl et Kündig

被子植物 [双子葉・離弁花] ケシ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: —

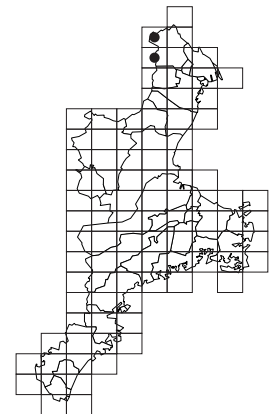
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下。生育環境の悪化が著しい。

**種の概要:** 山地に生える多年草。高さは30~40 cm。花は径3 cm少々の黄色の4弁花で、その名のようにヤマブキを思わせ美しい。葉形の変化が多く、小葉の幅の狭いものをホソバヤマブキソウ、深く羽状に裂け深い切れ込みのあるものをセリバヤマブキソウという。花期は4~6月頃。

**分布:** 国内では本州から四国, 九州。国外では中国に分布。県内では鈴鹿山系の藤原岳(いなべ市)に分布。

**現況・減少要因:** 藤原岳においては登山道の崩壊や山崩れが進行している。それに加え台風などによる周りの環境悪化の影響もあり、近年大幅な減少の傾向にある。

**保護対策:** 登山道をきちんと整備し、登山者や撮影者が登山道から生育地に入れないようにすることが必要である。土砂崩れに対する対策も急務である。



(山脇和也)

### ミツバコンロンソウ

*Cardamine anemonoides* O.E.Schulz

被子植物 [双子葉・離弁花] アブラナ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: —

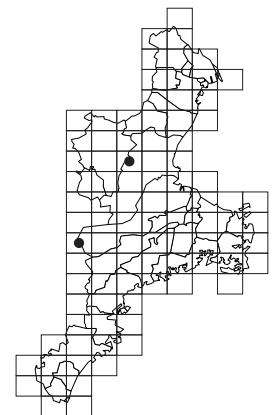
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は250未満である。

**種の概要:** 山の木陰に生える10~20 cmの茎が直立する多年草。下部の葉は退化して小さく、上部の葉は柄があって3出葉からなる。小葉は1~4 cmで粗い重鋸歯があり、基部は楔形の卵状披針形である。4~5月頃、6~10 mmの花弁を持つ花を短い総状花序に数個つける。果実は3~4.5 cmで毛はない。

**分布:** 日本固有種。関東地方以西, 四国, 九州に分布。県内では伊賀市や松阪市で記録されている。

**現況・減少要因:** 伊賀市青山1, 松阪市飯高町1か所に生育する。県内ではまれ。生育場所周辺の森林伐採、土地改変による環境の変化が減少要因となる。

**保護対策:** 現生育地の環境維持に努める。



(市川正人)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## マルバタネツケバナ

*Cardamine* sp.

被子植物 [双子葉・離弁花] アブラナ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿:

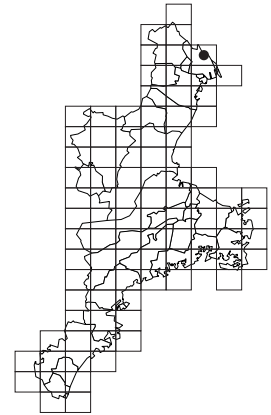
**選定理由:** 既知の生育地点数は1であるが、個体数は多い。

**種の概要:** 河口付近の水辺で潮の干満により水位変化の影響があるような河川敷に生育する高さ20~40 cmの多年草。根元や上部で分枝するなど、形態はオオバタネツケバナをはじめタネツケバナ類と似ているが、葉身は楕円形、大きな波状鋸歯でほとんど切れ込まず、明らかに相違がみられる。4~5月頃に白い花を咲かせ、長い果実をつける。

**分布:** 岐阜県、愛知県、三重県に分布。県内では桑名市で記録されている。

**現況・減少要因:** 桑名市多度町の数か所に生育している。揖斐川河川敷のヨシ原やヤナギ林の縁にかなり広く観察できる。河川改修・開発による影響が減少要因になると考えられる。

**保護対策:** 少なくとも堤内のヨシ原、ヤナギ林等の現状維持を必要とする。



(市川正人)

## コイヌガラシ

*Rorippa cantoniensis* (Lour.) Ohwi

被子植物 [双子葉・離弁花] アブラナ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県:

環境省: NT

近畿: C (VU)

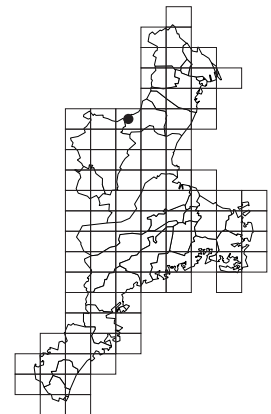
**選定理由:** 既知の生育地点数は1。個体数は少ない。

**種の概要:** 溜池の周囲など水湿地に生える高さ10~40 cmの一年草。茎は多く分枝し、毛は無い。茎葉は小さく耳状に茎を抱き、長楕円形で羽状深裂し、長さ2~4 cmで無毛。4~5月に葉腋に黄色の花を咲かす。果実は約8 mmの円柱形で、柄は短く目立たない。

**分布:** 国内では本州(関東以西)、四国、九州に分布する。県内では伊賀市の一つの溜池だけで記録されている。

**現況・減少要因:** 伊賀市1か所の溜池で生育している。水位が高い年には確認できないが、湖沼開発もなく安定している。

**保護対策:** 現況を維持し、出来る限り湖沼開発を避け、改変時には保護のための工法を必要とする。



(市川正人)

## アオベンケイソウ (アオベンケイ)

*Hylotelephium viride* (Makino) H. Ohba

被子植物 [双子葉・離弁花] ベンケイソウ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿: 準 (NT)

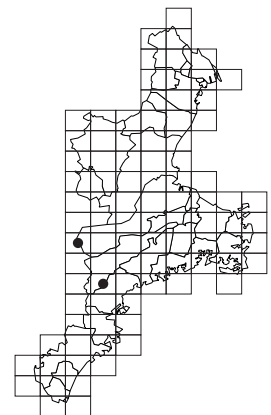
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、1地点の個体数は極めて少ない。

**種の概要:** 山地の岩上や樹上に生える根茎を持つ多年草で、高さ20~50 cmになる。葉は通常対生し、灰緑色まれに赤みを帯び、卵形で長さ3~6 cm、幅1.5~4 cm、縁は滑らかか、ゆるい波状鋸歯がある。葉柄は1~2 cmで目立つ。9~10月頃に散房状球形の花序に長さ約4.5 mm、花弁5個の淡黄緑色の花をつける。

**分布:** 国内では中部地方以西、四国、九州に分布。県内では松阪市飯高町、大台町の山地上部の樹上で記録されている。

**現況・減少要因:** 松阪市飯高町1、大台町宮川1か所に限られるが、生育場所が樹上であるので見つけにくい。他でも同じ環境下であれば生育している可能性がある。森林伐採や倒木が減少要因としてあげられる。

**保護対策:** 造林の拡大による広葉樹林伐採に注意を払いたい。



(市川正人)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## シラヒゲソウ

*Parnassia foliosa* Hook.f. et Thomson

被子植物 [双子葉・離弁花] ユキノシタ科(APGⅢ: ニシキギ科)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿: C (VU)

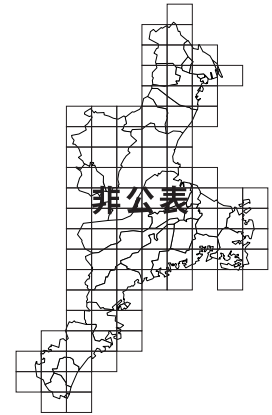
**選定理由:** 既知の生育地点数は2であり、各生育地の個体数はおよそ100未満しかない。

**種の概要:** 山の陰湿地に生える多年草。根出葉は腎形から心円形、径1.5~4 cmで、2~13 cmの葉柄がある。花茎は4稜あり2~8枚の茎葉をつける。花は8~9月、茎頂に1個つく。花弁は白色で縁は細裂する。

**分布:** 国内では本州、四国、九州に分布。県内では大台町からの記録がある。

**現況・減少要因:** 県内の生育地は、深山の溪谷の岩上で、今のところ、大台町宮川でしか確認されていない。他地域でも、同様な環境下であれば発見されるものと思われる。登山道沿いの生育地は、山草愛好家により採取され、個体数は減少している。

**保護対策:** マニアによる採取を防ぐため、生育地の公表は避ける必要がある。また今後計画される登山道整備にあたっては、生育地を破壊しないような配慮が必要である。



(山本和彦)

## ナメラダイモンジソウ

*Saxifraga fortunei* Hook.f. var. *suwoensis* Nakai

被子植物 [双子葉・離弁花] ユキノシタ科(APGⅢ: 同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿:

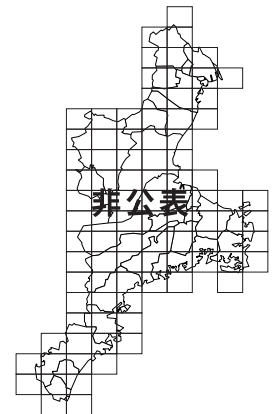
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、各自生地での個体数はおよそ1,000未満。

**種の概要:** 湿った岩上に生える多年草。葉は根生し、長さ3~20 cmの葉柄があり、葉身は腎円形で長さ1.5~7 cm、幅3~10 cm、掌状に5~7中裂する。花は9~10月。花弁は白色、上側の3個は小さく、下の2個は不同。

**分布:** 国内では本州(中地方以西)、九州に分布。県内では亀山市や大台町からの記録がある。

**現況・減少要因:** 県内では谷沿いや林道沿いの湿った岩上に生育している。多くの個体が群生しているところもあり、少数しか生育していないところもある。園芸目的で採取されている。林道工事や治山工事により自生地が破壊されることも懸念される。

**保護対策:** マニアによる乱獲を防ぐため、生育地の情報は公表しないことが大切。また今後、林道の工事や治山工事により絶滅することのないよう十分な配慮が必要。



(山本和彦)

## センダイソウ

*Saxifraga sendaica* Maxim.

被子植物 [双子葉・離弁花] ユキノシタ科(APGⅢ: 同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: NT

近畿: B (EN)

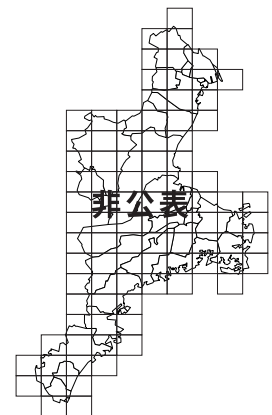
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下。各自生地での個体数はおよそ100未満。

**種の概要:** 谷沿いの湿った岩上に生える多年草。茎は直立して3~20 cm。葉は茎の上部につき柄があり、厚くて光沢がある。花期は9~10月。花弁は白色。

**分布:** 国内では紀伊半島、四国、九州に分布。県内では大台町や松阪市飯高町からの記録がある。

**現況・減少要因:** 松阪市飯高町と大台町のいくつかの溪谷の湿った岩上に生育している。松阪市飯高町の生育地の1つは、マニアによる採取のためか、減少している。他の生育地では、新たな林道開設や治山工事等で、生育地が破壊されることが懸念される。

**保護対策:** マニアによる乱獲を防ぐため、生育地の情報は公表しないことが大切。また今後林道の工事や治山工事により絶滅することのないよう十分な配慮が必要。



(山本和彦)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD



## ヤマブキショウマ

*Aruncus dioicus* (Walter) Fernald var. *kamtschaticus* (Maxim.)  
H.Hara

被子植物 [双子葉・離弁花] バラ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿:

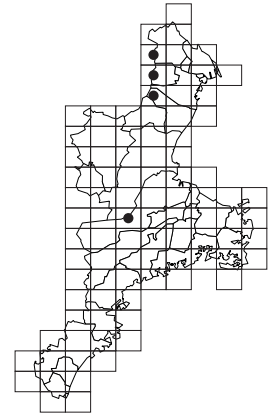
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は50未満である。

**種の概要:** 山地に生える雌雄異株の多年草。根茎は太く、木化し、茎は30~80 cmで多少毛が生える。葉は大きく2回3出複葉である。小葉は長さ3~10 cm, 幅1~6 cmの卵形で膜質, 重鋸歯縁で鋭尖頭である。6~8月頃に複総状円錐花序をつくり, 白色で小さい花をつける。萼は5裂, 花弁は5個, 雄花には約20個の雄しべがある。雌花には直立した3心皮がある。

**分布:** 国内では北海道から九州に分布。県内ではいなべ市藤原町, 菰野町, 津市美杉町で記録されている。

**現況・減少要因:** 菰野町鎌ヶ岳では比較的個体数が多く生育は良好である。減少要因としては土砂崩壊および植生遷移があげられる。

**保護対策:** 生育環境の保全, 維持が必要である。



(市川正人)

## シモツケソウ

*Filipendula multijuga* Maxim. var. *multijuga*

被子植物 [双子葉・離弁花] バラ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿:

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、各生育地とも個体数は減少している。

**種の概要:** 多年草。高さ30~60 cmで無毛。下方の葉は頂小葉が掌状に裂けて大きく, 下方には小さな側小葉が対生する。花は7~8月, 茎の先端に集散花序をつけ, 紅色花, 直径4~5 mm, 雄しべ多数で花弁より長い。

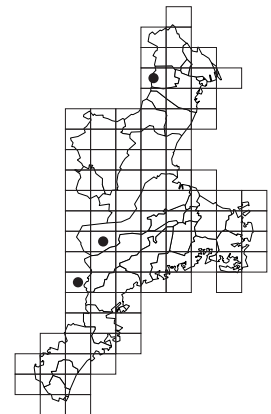
**分布:** 日本固有種。本州(関東以西), 四国, 九州の冷温帯。県内では鈴鹿山脈の北・中部地域と台高山脈に分布する。

**現況・減少要因:** 薪炭材を伐採することがなくなり, 生育地の樹木の生長にともない, 光量, 通風が制限されて貧弱である。採取圧も受けている。

**保護対策:** 生育地の上層木の間伐, 枝打ちなどにより生育環境を整える必要がある。また, 採取を禁止する。

**特記事項:** 別名をクサシモツケともいう。

**文献:** 34. 51. 57. 69. 139.



(葛山博次)

## イワキンバイ

*Potentilla ancistrifolia* Bunge var. *dickinsii* (Franch. et Sav.)  
Koidz

被子植物 [双子葉・離弁花] バラ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿: 準 (NT)

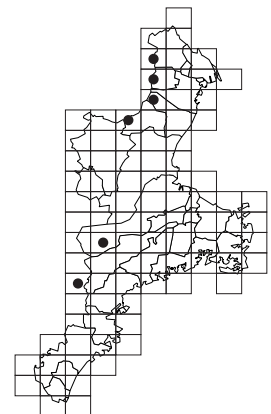
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり、各地点の個体数は250未満である。

**種の概要:** 山地の岩上に生える全体に伏毛のある多年草。根茎は太く, 木化し分枝する。茎は細く10~30 cm, 根出葉は長柄のある長さ1~4 cm, 幅0.7~2.5 cmの3~5個の小葉からなる。やや革質で裏面は緑白色である。6~7月頃, 黄色で径1 cmの数花~10数花をつける。瘦果は卵形で縮れた毛を持つ。

**分布:** 国内では北海道から九州に分布。県内ではいなべ市大安町, 菰野町, 四日市市, 鈴鹿市, 亀山市関町, 伊賀市, 松阪市飯高町, 大台町で記録されている。

**現況・減少要因:** 菰野町1, 四日市市1, 鈴鹿市1か所の半乾燥の岩壁や岩棚に生育している。高所で, 花崗岩風化地などの厳しい環境に適応できる植物である。

**保護対策:** 生育環境の維持が必要である。



(市川正人)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

### ミヤマチョウジザクラ

*Prunus apetala* (Siebold, et Zucc.) Franch. et Sav.

被子植物 [双子葉・離弁花] バラ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: —

環境省: —

近畿: —

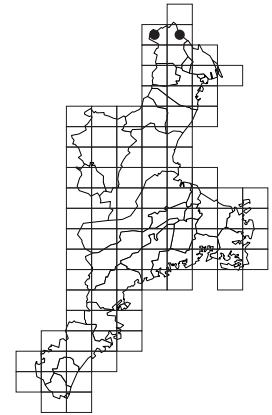
**選定理由:** 既知の生育地点は2か所である。今の所、総個体数は50個体を越えない。

**種の概要:** チョウジザクラ(狭義)に似ているが、葉に鋭い鋸歯があり、萼筒と葉柄の毛は密生せずまばらであり、花は小さい。萼筒の基部がわずかにふくれる。

**分布:** 本州中部地方(長野南部、岐阜飛騨、福井、富山県南部)に特産する日本固有種。県内では鈴鹿山系北部と養老山地の一部に生育することが最近確認された。

**現況・減少要因:** 1か所は安定した落葉樹林内であり、もう1か所は川沿いの林道近くにあり道路工事や河川の改修などで減少する可能性がある。

**保護対策:** 道路工事や河川の改修の時、場所を把握しておき避けるか、残るような手立を要する。



(山脇和也)

### ミヤマザクラ

*Prunus maximowiczii* Rupr.

被子植物 [双子葉・離弁花] バラ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: —

環境省: —

近畿: B (EN)

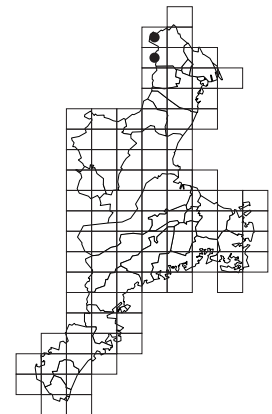
**選定理由:** 既知の生育地点は2か所である。県内での個体数は少ない。

**種の概要:** 落葉高木で、高さ10 m、径40~60 cmになる。樹皮は紫褐色で、横に長い皮目が目立つ。1年枝には毛がやや密生する。花期は5~6月上旬。側枝に総状花序または散房状花序を出し4~10個の花をつける。

**分布:** 北海道、本州、四国、九州の冷温帯から亜寒帯に自生する。国外では朝鮮、中国東北部、ウスリー、樺太に分布する。県内では鈴鹿山系北部の滋賀県との県境付近にわずかに生育する。滋賀県側にはもう少し多く生育する。

**現況・減少要因:** 総個体数は県境に10個体前後である。台風で倒れたり、林床のニホンジカの食害による乾燥化などの遷移により減少する可能性がある。

**保護対策:** 林床のニホンジカの食害を防止する。



(山脇和也)

### マメナシ (イヌナシ)

*Pyrus calleryana* Decne.

被子植物 [双子葉・離弁花] バラ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: EN

近畿: B (EN)

**選定理由:** 既知の生育地点数は26であるが、成木は67本(1.5 m以上の自生木)のみである。

**種の概要:** 高さ8~10 mの落葉性の小高木。よく分枝する。花期は4月、直径約2.5 cmの白色花。果実はほぼ球形で直径約1 cm、黄褐色で円形の小さい皮目が多数ある。

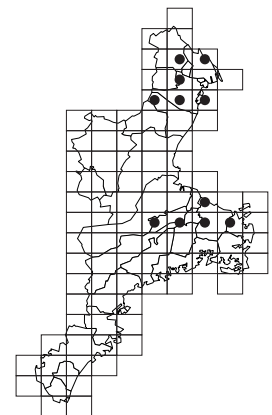
**分布:** 国内では本州(三重、岐阜、愛知の各県)。県内では桑名市、いなべ市、東員町、四日市市、鈴鹿市、松阪市、多気町、明和町、玉城町、伊勢市、鳥羽市に分布する。

**現況・減少要因:** 里山や溜池周辺などの湧水のある場所に自生。人里に近いために耕地整理や開発により生育地点数、個体数とも減少している。

**保護対策:** 生育地の樹木はほとんど国・市・町の天然記念物となっているが、生育地の植生遷移の進行を停止し、幼木の生育を促す下草刈りや共存する木々の伐採が必要である。実生の育成をうながす環境づくりにつとめる。

**特記事項:** 四日市市、桑名市の生育地は国指定天然記念物。東員町、松阪市、伊勢市、玉城町ではそれぞれ市町の天然記念物。県指定希少野生動物植物種。伊勢地方名をイヌナシという。

**文献:** 4, 34, 43, 53, 60, 108, 127, 137.



(葛山博次)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## ハスノハイチゴ

*Rubus peltatus* Maxim.

被子植物 [双子葉・離弁花] バラ科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：NT

近畿：

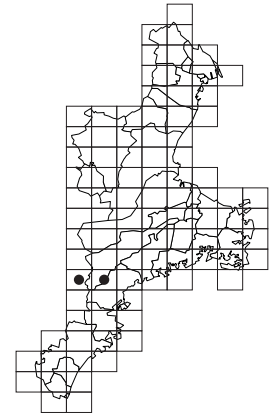
**選定理由：** 既知の生育地点数は5以下であり、生育地が限られている。

**種の概要：** 深山の林内にややまれに生える。落葉低木で、茎や枝は円く無毛で白粉をおび、鉤形の棘を疎生する。葉は楕状に柄につき、大型。托葉は大きく、葉柄に延着する。6月頃に白い花を枝端に1個つける。果実は円柱形で長さ4~9 cmで白熟する。

**分布：** 国内では本州（長野県西部、福井県以西）、四国、九州。国外では中国中部。県内では大台町大ヶ原に分布。

**現況・減少要因：** 大ヶ原山の樹林下に生えているが、台風などによる被害や、ニホンジカによる食害により、減少傾向にある。

**保護対策：** ニホンジカの個体数を調節し、食べられないよう周囲の環境を保全する必要がある。



(山脇和也)

## サナギイチゴ

*Rubus pungens* Camb. var. *oldhamii* (Miq.) Maxim.

被子植物 [双子葉・離弁花] バラ科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：

環境省：VU

近畿：

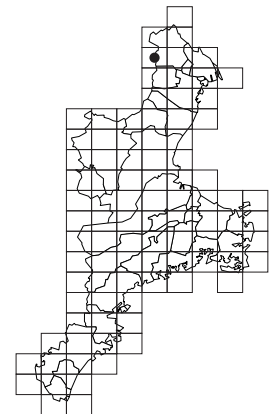
**選定理由：** 既知の生育地点は1か所である。

**種の概要：** 落葉小低木。茎は細くて伸長し、先から根を下ろし、細かい棘を散生し、葉は5~7小葉からなり薄い。托葉は糸状。花枝は短く、3~4個の葉と先に1~2個の花がつく。花は5~6月に咲く。果実は小型、紅熟し、花托に柄がなく、密に毛がある。小核果葉大きい。

**分布：** ヒマラヤ、中国（西部・北部）。国内では、本州、四国、九州のブナ帯山地に生育しやや稀。県内では、鈴鹿山系北部の滋賀県との県境付近にわずかに生育する。滋賀県側にはもう少し多く生育する。

**現況・減少要因：** 総個体数は県境に10数個体でたいへん少ない。ニホンジカの食害により消滅する可能性がある。

**保護対策：** 保護柵などを作り、ニホンジカの食害を防止する。



(山脇和也)

## ドロシモツケ

*Spiraea japonica* L.f. var. *ripensis* Kitam.

被子植物 [双子葉・離弁花] バラ科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：

近畿：

**選定理由：** 既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は250未満である。

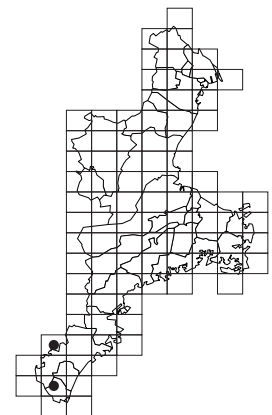
**種の概要：** 川岸又は河川の中ほどにある岩の上に生育する小低木。母種のシモツケとの違いは、全長が30~50 cmと小低木で、全体が無毛（シモツケは全長が60~100 cm、茎に短毛と稜がある。）、本種には稜がない。以上の形質の違いから変種とされている。

**分布：** 国内では紀伊半島南部（和歌山県、奈良県、三重県）。県内では紀州地域（熊野市、紀宝町）に分布。

**現況・減少要因：** 園芸採取および河川改修による岩盤の除去、破壊が減少の圧力となっている。

**保護対策：** 河川改修の際の工法を考慮すること。園芸採取の防止。

**特記事項：** 紀伊半島固有種。



(花尻 薫)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## マキエハギ

*Lespedeza virgata* (Thunb.) DC.

被子植物 [双子葉・離弁花] マメ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり, 生育地は不安定である。

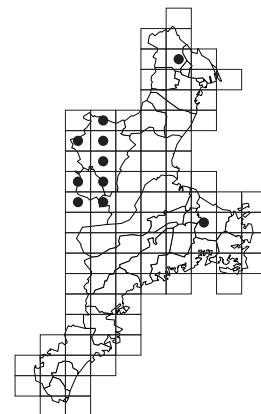
**種の概要:** 草本性の小低木, 茎の高さ50 cm, 枝が多くでる。小葉3枚は小判状楕円形, 上面は無毛で濃緑色, 托葉は糸状。花は8~9月, 白色, 長さ6~8 mm, 旗弁の基部に赤い斑がある。

**分布:** 国内では本州 (中南部), 四国, 九州, 沖縄。国外では台湾, 中国, 朝鮮半島の暖温帯。県内では桑名市, 伊賀市, 名張市, 伊勢市などに分布する。

**現況・減少要因:** 丘陵地の林縁や路傍に生育することから土地の改変, 道路改修などの人為圧により減少している。また, 園芸用花木として採取されることもある。

**保護対策:** 生育地の土地改変を避けるとともに, 植生遷移の進行を停止する人的管理により保全することが大切である。

**文献:** 69.



(葛山博次)

## シマエンジュ

*Maackia tashiroi* (Yatabe) Makino

被子植物 [双子葉・離弁花] マメ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: B (EN)

**選定理由:** 既知の生育地点数は3であり, 各生育地の個体数は50未満。

**種の概要:** 高さ1~3 mの落葉低木。葉は15~20 cm, 5~7対の側小葉がある。小葉は両面または裏面に伏した軟毛がある。花は淡黄色, 7~8月に枝の先に複総状花序につく。莢果は長卵形から長楕円形, 長さ2~4 cm。

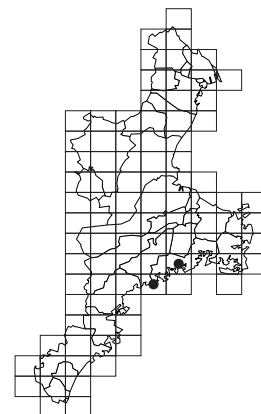
**分布:** 日本固有種。本州 (三重県, 和歌山県), 四国, 九州, 沖縄の海岸近くに分布。県内では南伊勢町の3地点からの標本記録がある。

**現況・減少要因:** 入り江の奥の海辺に生育するが, 1地点は車道沿いに自生しているため, 定期的に枝や幹が刈り払われている。他の1地点は自生地近くの埋め立てが迫っている。両地点ともこのままでは存続が危ぶまれる状況にある。

**保護対策:** 本種だけでなく多くの海岸植物が, 自生地を失わずに将来に渡って存続していけるような海岸部の環境保全対策が早急に必要とされる。

**特記事項:** 本種は, 和歌山県が北限とされていたが, 2002年に南伊勢町南島で発見された。

**文献:** 132.



(山本和彦)

## ツルフジバカマ

*Vicia amoena* Fisch. ex Ser.

被子植物 [双子葉・離弁花] マメ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: A (CR)

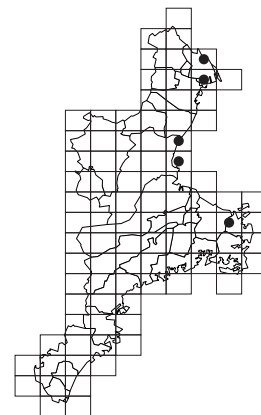
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下。生育面積が狭い。

**種の概要:** 山野の草原や道ばたに生育するつる性の多年草。クサフジによく似るが, 葉は10~16の小葉からなり, やや質が厚く, 押し葉にすると赤褐色になる。花はクサフジより遅れて秋に咲き, やや大きくて長さ1.2~1.5 cm。花期は8~10月。

**分布:** 国内では北海道から九州。国外では南千島, 朝鮮半島, 中国, モンゴルなどに分布。県内では桑名市, 津市, 伊勢市などで記録されている。

**現況・減少要因:** 生育地はいずれも堤防土手と道路の土手にある。土地整備や開発, 河川の改修で消滅の危険性が高い。

**保護対策:** 開発・改修を避け, 生育地の保護・保全が必要である。



(山脇和也)

維管束植物

蕨類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## コフウロ

*Geranium tripartitum* R.Kunth var. *tripartitum*

被子植物 [双子葉・離弁花] フウロソウ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿: A (CR)

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、個体数は極めて少ない。生育基盤が不安定である。

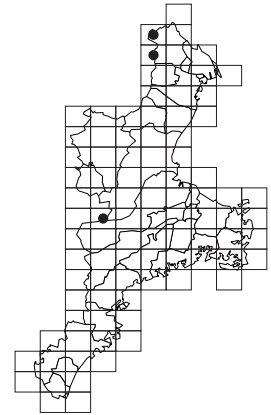
**種の概要:** 木かげに生育する15~45 cmの弱々しい草。葉は完全に裂けて3小葉となり、小葉は長さ2~4 cm。花期は8~9月で、白から淡紅色、直径12~15 mm。 *Geranium* 属(フウロソウ属)では本種のみ葉が互生する。

**分 布:** 国内では本州、四国、九州の暖温帯から冷温帯。県内では鈴鹿山脈北部(いなべ市)と津市美杉町に分布する。

**現況・減少要因:** 生育地の基盤(土壌や岩石)が土石流や豪雨などの影響を受けて崩落しやすく、また、植物体も脆弱で、そうした変化圧に耐えられず消失することがある。

**保護対策:** 生育地の土石の崩落を防止する工事が必要である。また、生育地が上層木の繁茂により光量不足にならないよう間伐、枝打ちが必要である。

**文 献:** 34.



(葛山博次)

## マルミノウルシ

*Euphorbia ebracteolata* Hayata

被子植物 [双子葉・離弁花] トウダイグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: NT

近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下で、各地点250未満の個体数であり、地域固有性がやや強い。

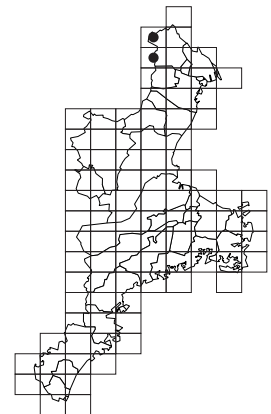
**種の概要:** 草丈40~50 cmに達する山地性の多年草。4~5月頃杯状花をつける。ノウルシと違って果実の表面に突起がなく平滑であることが特徴である。芽吹きから成長まで葉が赤味を帯びていることも良い特徴である。

**分 布:** 朝鮮半島、中国中部。国内では本州、北海道。県内ではいなべ市で記録がある。近畿地方における数少ない生育地であり、南限に近い。

**現況・減少要因:** 登山者の踏み付けによる土壌の硬化や園芸採取が最大の減少要因。

**保護対策:** 登山等における入山を規制しないと、踏み付け圧による環境悪化は防げない。また、国立、国定公園特別地域の指定植物等に指定し、採取を規制することも必要である。

**特記事項:** 標本は大阪市立自然史博物館に保管されている。



(加田勝敏)

## 夕チバナ

*Citrus tachibana* (Makino) Tanaka

被子植物 [双子葉・離弁花] ミカン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: NT

近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、個体数はきわめて少ない。

**種の概要:** 樹高は2~6 mの常緑小高木。枝などに長さ0.5~1 cmの鋭い棘がある。葉は互生、葉柄に狭い翼がある。6月頃に枝の葉腋に白花をつける。小さな果実を実らせるが、酸味が強く生食には向かない。

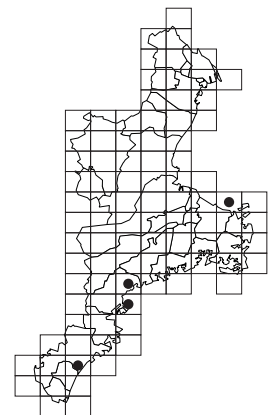
**分 布:** 国内では本州(愛知県以西)、四国、九州(南大東島)の常緑樹林内に自生している。県内では鳥羽市、紀北町、尾鷲市、熊野市に生育する。

**現況・減少要因:** 紀北町紀伊長島区では約10個体が生育しているが、他の生育地では1~2個体が確認されているに過ぎない。もともと個体数は多くないが、常緑広葉樹林の伐採や遷移進行により現在も減少傾向にある。

**保護対策:** 生育地の保全、日照等の環境改善とともに、後継木の育成も必要である。

また、栽培品種からの病虫害感染にも注意を払う必要がある。

**特記事項:** 鳥羽市桃取町に生育する2個体および紀北町紀伊長島区の生育地は、尾鷲市と熊野市の生息地は市の天然記念物に指定されている。



(岡 與一)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## ハマセンダン

*Tetradium glabrifolium* (Champ. ex Benth.) T.G.Hartley var. *glaucum* (Miq.) T.Yamaz.

被子植物 [双子葉・離弁花] ミカン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は50未満である。

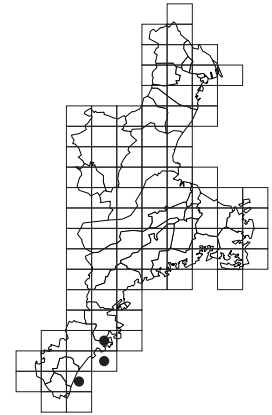
**種の概要:** 半落葉の高木で、胸高周囲が3 mを越す巨木もある。熱帯地方では常緑であるが、本種の北限である県内では1月頃に落葉することが多い。

**分布:** 国内では本州(三重県以西)、四国、九州。県内では紀州地域(尾鷲市、熊野市、御浜町)に分布。

**現況・減少要因:** 道路工事による伐採、急崖地の崩落による倒木などが圧力となる。

**保護対策:** 道路工事の際には現場を事前調査することにより、伐採や自生地の切り崩しを防止する必要がある。

**特記事項:** 尾鷲市曾根町の飛鳥神社は本種の北限地。



(花尻 薫)

## カキノハグサ

*Polygala reinii* Franch. et Sav.

被子植物 [双子葉・離弁花] ヒメハギ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿: 準 (NT)

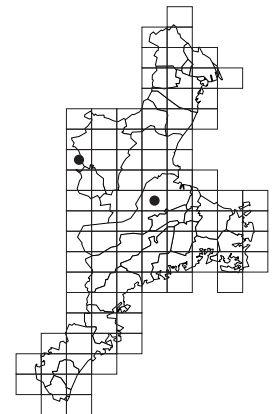
**選定理由:** 既知の生育地点数が5以下であり、近年の生育情報が少ない。

**種の概要:** 山地のやや乾いた林下に生育する多年草。柿の葉に似た大きな葉をつけ、草丈は20~35 cmになる。5~6月に茎頂に黄橙色の大きな花を総状につける。

**分布:** 国内では本州(中部地方西部、静岡県、近畿地方)。県内では伊賀市、松阪市で記録があり、津市にも生育情報がある。

**現況・減少要因:** 松阪市の生育地では毎年花を咲かせているが、生育地域は狭く、個体数も少ない。生育地はハイキングコースの脇にあるため、花時に摘まれて減少する心配がある。

**保護対策:** 生育地の環境保全のため、現在生育が確認されている地点では当分の間、樹木の伐採は行わない。



(山路武夫)

## メグスリノキ

*Acer maximowiczianum* Miq.

被子植物 [双子葉・離弁花] カエデ科(APGⅢ:ムクロジ科)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿: A (CR)

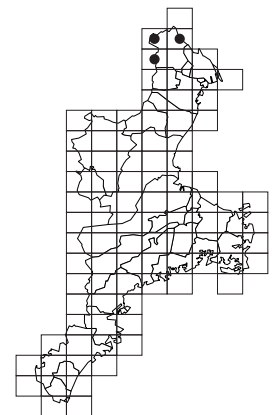
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は極めて少ない。

**種の概要:** 温帯山地の谷間や山腹に多くみられる落葉高木。樹皮は灰褐色で成木は縦裂する。若枝には灰白色の毛が密生する。葉は対生し、3出複葉である。葉柄は2~3 cmで開出毛が密生する。小葉は長さ5~12 cm、幅2~6 cmの楕円形で不規則な波状鋸歯を持つ。裏面脈状には灰褐色粗毛が目立つ。雌雄別株で、5月頃葉の展開と同時に散形状花序に淡黄色の花をつける。8~10月に直角、鈍角に開く翼果をつける。

**分布:** 国内では宮城・山形県以南、四国、九州に分布。県内ではいなべ市藤原町・北勢町で記録されている。

**現況・減少要因:** いなべ市藤原町1、北勢町2か所でみられる。一時期薬用採取が問題視されたが、現在は比較的安定している。

**保護対策:** カエデ属の中では3出複葉が目立ち、薬草として採取されやすいことに注意を要する。



(市川正人)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## ミヤマウメモドキ

*Ilex nipponica* Makino

被子植物 [双子葉・離弁花] モチノキ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿: C (VU)

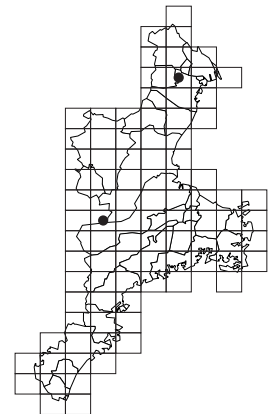
**選定理由:** 既知の生育地点数は2か所であり、個体数は極めて少ない。

**種の概要:** 山地の湿地に生える落葉低木。葉は倒披針状楕円形で、ふつう中部から上の部分の幅が広い。花柄や果柄はウメモドキより長い。6月に花を咲かせ、秋に球形の果実は赤熟する。

**分布:** 国内では東北地方、中部地方中北部、近畿地方北部に分布。岐阜県の湿地では普通にみられる。県内では菰野町、津市で記録がある。なお、熊野市の記録は誤りと判明した。

**現況・減少要因:** 国指定の天然記念物となっている菰野町田光のシデコブシ群落の中に1個体生育していたが、伐採され現在存在しない。津市にも情報はあがるが、生育環境に疑問があり、再調査が必要であり、認められない状況である。

**保護対策:** 萌芽が出て、再生することのみを期待する。



(山脇和也)

## イワウメヅル

*Celastrus flagellaris* Rupr.

被子植物 [双子葉・離弁花] ニシキギ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県:

環境省:

近畿: B (EN)

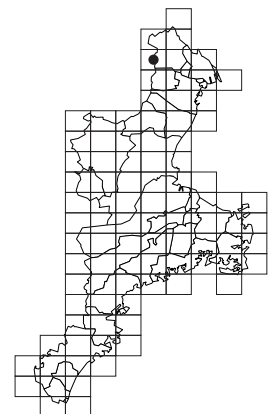
**選定理由:** 既知の生育地点は1か所である。

**種の概要:** 雌雄異株。暖帯および温帯の山地の林内に生える落葉生の藤本。枝には円形ないし楕円形の葉柄痕が明瞭で、托葉は少なくとも1、2年枝には1対の棘となって宿存する。3年枝より古い枝では、ときには節から太く短い気根を出して木や石の上をはい上がる。葉は薄く、円形ないし長卵形、縁に芒状の細鋸歯がある。花期は5~6月。果実は球形で黄熟し、宿存する花柱をつける。

**分布:** 朝鮮、中国東北部、アムール。国内では、本州関東地方以西、四国、九州。県内では、鈴鹿山系北部の滋賀県境付近に生育する。個体数は少ない。

**現況・減少要因:** 藤原岳山頂付近に大きな個体が生育しているが、藤原鉦山の石灰採掘によりほとんど消滅する運命にある。北方稜線にわずかに残るのみとなる。

**保護対策:** 鉦山開発の先送りか、中止させるのが最善であるが、不可能なら移植しかない。



(山脇和也)

## ハマナツメ

*Paliurus ramosissimus* (Lour.) Poir.

被子植物 [双子葉・離弁花] クロウメモドキ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: VU

近畿: A (CR)

**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり、生育地の存続基盤が脆弱である。

**種の概要:** 海岸近くに生える落葉低木。葉腋に托葉の変形した棘がある。根元から幹を斜めに20~40本伸ばす。花は小さく、7~8月に咲き、淡緑色で径約5 mm。果実は倒円錐形の核果で、径1~1.7 cm。

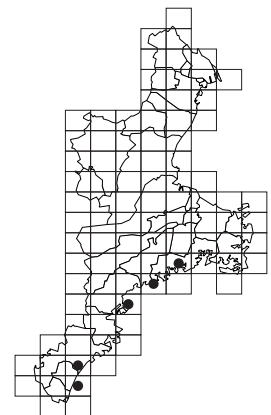
**分布:** 国内では本州(東海、南畿、山陽地方)、四国、九州、沖縄。国外では済州島、台湾、中国大陸、インドシナに分布。北限に当たる静岡県での生育地は、埋め立てにより絶滅。県内では南伊勢町から紀宝町の海岸近くに稀産する。

**現況・減少要因:** 大きな群落は、海跡湖周辺や河口部に発達している。群落地の中には開発計画もあり、存続が懸念される。また、近年ニホンジカの食害やカワウ生息に起因する水質悪化等により枯死木が増加し、個体数は2005年当時と比べ3割強減少している。

**保護対策:** 県内のすべての自生地に対して、速やかに保護の網をかぶせる必要がある。

**特記事項:** 三重県指定希少野生動物植物種。

**文献:** 98. 130. 131.



(山本和彦)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## シコクスミレ

*Viola shikokiana* Makino

被子植物 [双子葉・離弁花] スミレ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: 準 (NT)

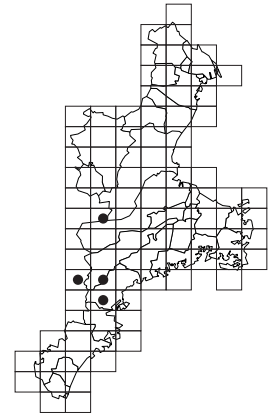
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下、個体数も多くない。

**種の概要:** 山地のブナ帯の林下にはえる。節のある地下茎が直立、それから細くて長い根茎を四方にのばし、その先に新しい株をつけて増える。葉は1か所から1~3枚だす。花は4~5月ごろやや葉に先立って咲き、白色。

**分布:** 国内では本州(関東西部から紀伊半島)、四国、九州。県内では大台町大台ヶ原や津市のブナ林内に分布。

**現況・減少要因:** 大台ヶ原では、標高1,000 m付近のブナ林内に数か所確認されていたが、その後不明である。同様の環境下に見つかる可能性はあるが、県内のブナ林自体はそれほど多くない。

**保護対策:** ブナ林の保護。



(山脇和也)

## アケボノスミレ

*Viola rossii* Hemsl.

被子植物 [双子葉・離弁花] スミレ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: —

環境省: —

近畿: A (CR)

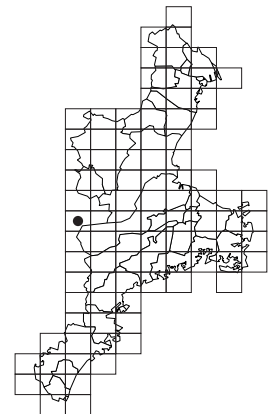
**選定理由:** 既知の生育地点数は1。個体数は50未満。生育地はイノシシによる土壌攪乱が顕著である。

**種の概要:** 温帯山地性の多年草。花は淡紫色で、葉の展開に先立って3~5月に開く。花弁は15~20 mmでスミレ類では比較的大きく、側弁の毛は無いかわずかである。距は太くて短い。

**分布:** 国内では北海道南部、本州、四国、九州に分布する。県内では唯一松阪市飯高町で記録されている。

**現況・減少要因:** 飯高町の山地に20株ほどが生育しているが、現地はイノシシによる土壌の掘り返しが激しく減少傾向にある。

**保護対策:** 美しいスミレであり、防護柵の設置など保護管理が必要である。



(市川正人)

## ゴキヅル

*Actinostemma tenerum* Griff.

被子植物 [双子葉・離弁花] ウリ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: —

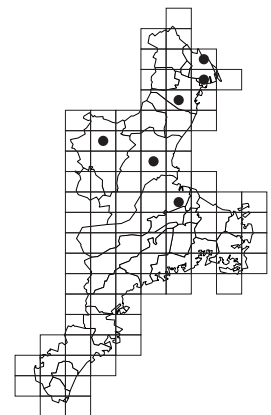
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり、各地点の個体数は50未満である。

**種の概要:** 水辺に生える蔓性の1年草。葉は有柄で互生し、三角状披針形で先は尖り、長さ3~10 cm、ときに3~5浅・中裂する。巻きひげを持つ。雌雄同株であり、雄花は総状、雌花は雄花序の基部につく。花柄は糸状である。8~11月頃、黄緑色で長さ5~6 mmの花冠・萼からなる花をつける。果実は卵形で、下半分には突起がある。合器蔓の名のとおり、果実が熟すと上下2分する。中には扁平な種子2個がある。

**分布:** 国内では本州から九州に分布。県内では桑名市、四日市市、伊賀市、津市、明和町で記録されている。

**現況・減少要因:** 桑名市3、四日市市1、明和町1か所で生育が確認されているが、水路整備、農業使用の影響で急激に個体数および分布域を減らした植物である。

**保護対策:** 現在の生育環境を維持する必要がある。



(市川正人)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD



## ヤマトグサ

*Theligonum japonicum* Okubo et Makino

被子植物 [双子葉・離弁花] ヤマトグサ科(APGⅢ:アカネ科)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿:

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、各生育地とも個体数は少ない。

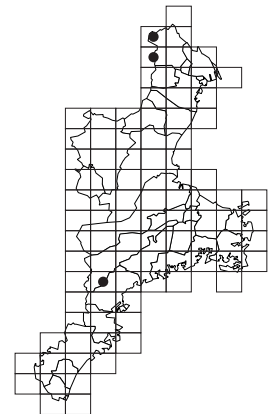
**種の概要:** 高さ15 cmほどの多年草。葉は対生。5~6月淡緑色の単性花を開く。雄花は3枚の萼がそり返り、多数の雄しべがかんざしのように垂れ下がる。雌花は葉腋につき小さくて柄はない。倒卵形で粗毛がある。

**分布:** 日本固有種。本州(関東、東海道、近畿)、四国、九州の暖温帯に分布。県内では鈴鹿山脈の北部(いなべ市)と台高山脈(大台町宮川)の限られた地域に分布する。

**現況・減少要因:** 生育地の自然崩壊、植生の遷移、採取圧により減少している。

**保護対策:** 生育地の環境変化圧の排除、採取圧、踏みつけの防止が必要である。分布情報の公表にあたっては慎重な配慮が必要である。

**文献:** 3, 34, 51, 81, 139.



(葛山博次)

## ケチドメ (ケチドメグサ)

*Hydrocotyle dichondrioides* Makino

被子植物 [双子葉・離弁花] セリ科(APGⅢ:ウコギ科)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県:

環境省:

近畿:

**選定理由:** 既知の生育地点数は5前後。クローン繁殖を行うので個体数は不明。九州からの隔離分布で、分布北限にあたる。

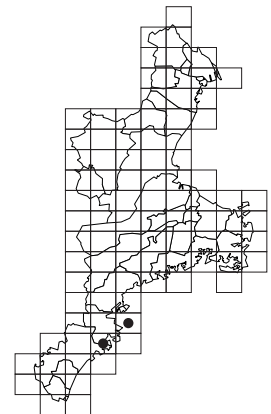
**種の概要:** 神社やその周辺の裸地および石垣に生育する匍匐性の多年生草本。茎は糸状で、若いときは白色の短縮毛を有する。葉柄は長さ5~30 mm、白色の短縮毛を有する。葉は円状腎形で膜質、表面は暗緑色で光沢はなく、径0.5~1 cm。2~8花からなる傘形花序を形成する。花はほぼ無柄。果実の径は0.8 mm前後。

**分布:** 国内では、紀伊半島、九州南部、南西諸島に分布。国外では、台湾に分布。県内では、尾鷲市、熊野市に分布。

**現況・減少要因:** 神域周辺のため、現状は安定している。

**保護対策:** 現状を維持できれば問題ない。

**文献:** 17.



(藤井伸二)

## ヒメイワカガミ

*Schizocodon ilicifolius* Maxim.

被子植物 [双子葉・合弁花] イワウメ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下で、各地点250未満の個体数しかなく、生育地間の交流は分断傾向にある。

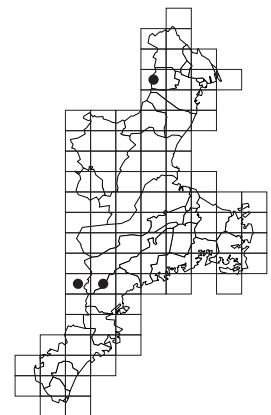
**種の概要:** 山地の岩場に生育し、葉には1~5対の尖った鋸歯がある。花期は4~5月頃。

**分布:** 日本固有種。関東地方、中部地方の太平洋側、紀伊半島に分布。県内では菟野町、大台町で記録がある。

**現況・減少要因:** 現時点では生育が確認されているが、交通機関の発達により、ほとんどの所は簡単に行ける状況になっている。本種はマニアによる採取圧が強いため、知らない間に絶滅してしまうおそれがある。

**保護対策:** いたる所に林道がつけられ、また多くの山頂が公園化されている現状を考えると、人里と同等の採取圧を想定して、国立、国定公園内での監視を強化する必要がある。

**特記事項:** 種内を細分化して、近畿地方のものはナンカイヒメイワカガミ (var. *nankaiensis*)、関東地方のものをヒメイワカガミ (var. *ilicifolius*) と分けられるが、ここではまとめてヒメイワカガミとしておく。



(加田勝敏)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

### ヒロハドウダンツツジ

*Enkianthus perulatus* (Miq.) C. K. Schneid. f. *japonicus* (Hook.f.) Kitam.

被子植物 [双子葉・合弁花] ツツジ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: —

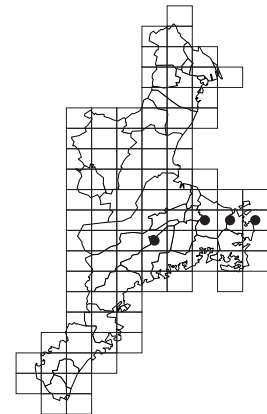
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下で、未知の生育地はそれほど多くはないと推測される。

**種の概要:** 落葉低木。高さ1~2 m。直径1 mになる。葉身は倒卵形で長さ2~3 cm、幅1.5 cm程度。4~5月、枝先に白色で壺型の花を1~5個下向きにつける。花柄の長さ1~2 cm。

**分布:** 国内では本州(静岡県, 愛知県, 三重県, 和歌山県), 四国(徳島県, 高知県), 九州(鹿児島県)に分布。蛇紋岩地帯に生育するが他にもある。県内では鳥羽市の蛇紋岩地帯を中心に南勢地域に分布。

**現況・減少要因:** 限られた地域に自生するが、観賞用に栽培もされている。自生地では、採石や土地開発により個体数の減少が危惧されている。

**特記事項:** 学名が栽培種ドウダンツツジ*Enkianthus perulatus* (Miq.) C.K.Schneid. に対して与えられたので、野生種はその品種として位置づけられている。



(武田明正)

### アケボノツツジ

*Rhododendron pentaphyllum* Maxim. var. *shikokianum* T.Yamaz.

被子植物 [双子葉・合弁花] ツツジ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: 準 (NT)

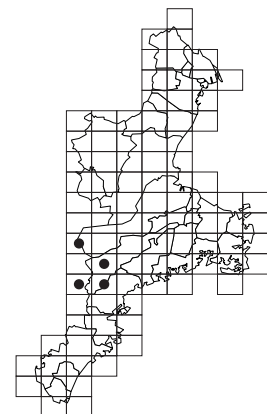
**選定理由:** 既知の生育地点数が5以下であり、情報が少ない。

**種の概要:** 山地の岩場に生育する。葉は5個輪生。4~5月の葉の展開前に淡紅紫色の花を咲かせる。花冠は広いロート形で5裂する。花柄は無毛。

**分布:** 国内では本州(近畿地方以西), 四国, 九州。県内では松阪市, 大台町で生育の記録がある。本県が分布域の東限になると思われる。

**現況・減少要因:** 台高山地の中南部, 1,000 mを越える尾根筋に生育しており、確実な情報としては大台ヶ原一帯, 池小屋山, 千石山, 笹ヶ峰である。生育地は人が簡単には近づけない山岳地帯のため、個体数やその増減については情報が少なく、把握しきれない。今後も調査を続ける必要がある。

**保護対策:** 生育地は国立公園域, 国定公園域に含まれる部分が多く、ある程度保護されている。心ない登山者による採取や、ニホンジカ等による食害が懸念される。



(山路武夫)

### ジングウツツジ

*Rhododendron sanctum* Nakai

被子植物 [双子葉・合弁花] ツツジ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: VU

近畿: B (EN)

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、各生育地の個体数は100未満である。

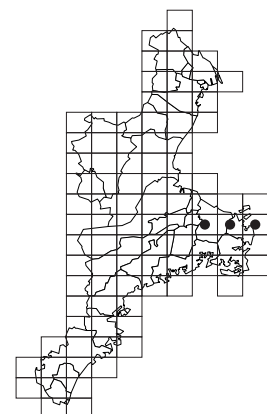
**種の概要:** 蛇紋岩地帯の疎林に生える高さ2~4 mの落葉低木。表面には光沢があり、枝先に3枚輪生する。葉身は長さ4~6 cm、幅3~5 cmの卵円形からひし形。花は新葉が展開したのちに開花、1個の花芽から2~3個の花が開く。花芽は赤褐色の鱗片に被われ、鱗片の背面や縁には長毛が生える。花冠は紅紫色で上側内面に濃色の斑点があり、径3~4 cm、5中裂する。雄しべは10本。

**分布:** 国内では本州(静岡県, 愛知県, 三重県)に分布。県内では伊勢市, 鳥羽市に生育する。

**現況・減少要因:** 人に近い生育地では造成による減少が著しい。また花が大きく鑑賞価値があるので、園芸採取も深刻である。

**保護対策:** 生育環境の保全が必要である。

**特記事項:** オンツツジが新葉の展開とともに開花。花芽の鱗片に腺点があるのに対し、本種は5~6月の新葉が展開した後から開花、花芽の鱗片には腺点がない。



(中馬千鶴)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## ウンゼンツツジ

*Rhododendron serpyllifolium* (A.Gray) Miq. var. *serpyllifolium*

被子植物 [双子葉・合弁花] ツツジ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿:

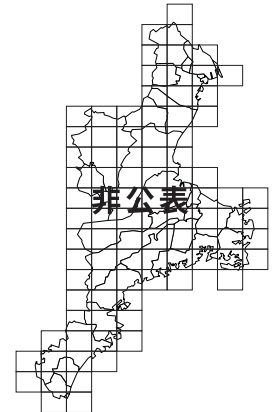
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下。紀伊半島南部の日当たりのよい林縁や岩場に生育する。また、採取圧が強い。

**種の概要:** 高さ1 m前後、細かに分枝して茂る半常緑低木。葉は長楕円形で小さく長さ1 cm以内。4~5月に枝先に径1.3~1.5 cmの淡紅紫色の花をつけ、たいへんきれいだ。

**分布:** 国内では本州 (伊豆半島, 紀伊半島), 四国 (南部), 九州 (大隈半島)。県内では紀宝町に分布。

**現況・減少要因:** 山林開発, 林道開設, 園芸・販売目的の採取圧などで減少の可能性が。

**保護対策:** 採取されないように法整備が必要である。



(山脇和也)

## チョウジコメツツジ

*Rhododendron tschonoskii* Maxim. var. *tetramerum* (Makino) Komatsu

被子植物 [双子葉・合弁花] ツツジ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は3である。鈴鹿山系のごく一部に限られる。

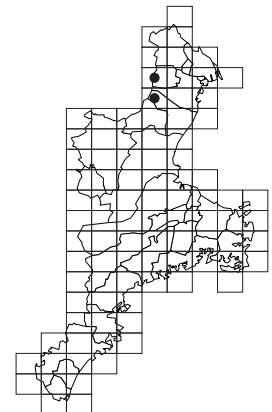
**種の概要:** 深山の岩場に生える。よく分枝して広がり、高さ1 mほどになる半落葉低木。夏葉は長楕円形で、長さ1 cm以内でウンゼンツツジに似る。6~7月ごろ、やや肉質で漏斗形の小さな白い花を咲かせる。

**分布:** 日本固有種。本州の深山の岩場に分布。おもに太平洋側に分布。県内では鈴鹿山系御在所岳と国見岳、鎌ヶ岳に生育する。

**現況・減少要因:** 登山者の踏みつけ、台風や大雨などによる岩場の自然崩壊による減少のほかに、採取による影響がある。

**保護対策:** 登山道整備、岩場の自然崩壊の防止対策が必要。

**特記事項:** 三重RDB2005ではコメツツジで掲載されていたが、チョウジコメツツジとした。



(市川正人)

## クサレダマ

*Lysimachia vulgaris* L. var. *davurica* (Ledeb.) R.Kunth

被子植物 [双子葉・合弁花] サクラソウ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、個体数は極めて少ない。

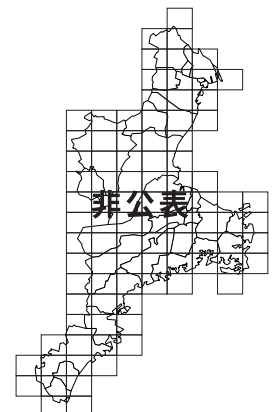
**種の概要:** 高さ50~90 cmで直立。葉は対生または3~4個輪生、無柄、下面は白っぽく、小さな黒点散在。花は黄色で直径12~15 mm、淡黄色の小点が花冠内面と花糸に散在。花期7~8月。

**分布:** 日本全土。東亜温帯。県内では北勢、伊賀、南勢地域に分布する。

**現況・減少要因:** 生育立地は湿り気のある草地で、環境変化圧、とくに遷移の進行による消失、また、花期に採取圧を受け減少している。

**保護対策:** 生育地の植生遷移を抑止する定期的な草刈り継続、また被覆する上層木の伐採、枝打ちが必要である。さらに採取を禁止する対策も講ずる。

**文献:** 52, 76。



(葛山博次)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## クリンソウ

*Primula japonica* A.Gray

被子植物 [双子葉・合弁花] サクラソウ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、個体数は各地点50以下である。採取圧が極めて強い。

**種の概要:** 多年草。葉は根生、長さ15~40 cm、巾5~13 cm、先はまるく、下部は徐々に細くなり葉柄との境がない。細かいしわが多く、上面は無毛。花茎は無毛で長さ40~80 cm、多数の花が数段にわかれて輪生。紅紫色から淡紅色、花期は5~7月である。

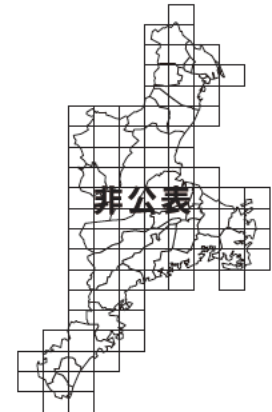
**分布:** 日本固有種。北海道、本州、四国の冷温帯。県内では中勢と伊賀地域に分布する。

**現況・減少要因:** 近年の山野草ブームで採取が相次ぎ、激減している。また、生育地の森林の皆伐は生育環境の破壊につながり消失のおそれがある。

**保護対策:** 園芸目的の採取を禁止することが急務であり、分布情報の公表は控えるべきである。

**特記事項:** 和名は花が段になって輪生することから名づけられたといわれているが、9段には及ばない。

**文献:** 69, 76.



(葛山博次)

## ヒメナエ

*Mitrasacme indica* Wight

被子植物 [双子葉・合弁花] マチン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: VU

近畿: A (CR)

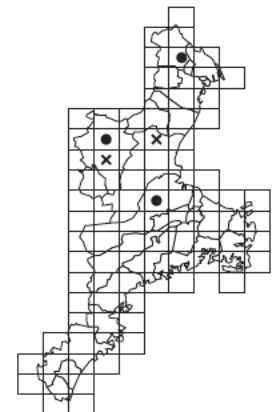
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は250未満である。

**種の概要:** 野原の湿地に生える小形の一年草。高さは5~15 cmで茎は下部で分枝することが多く、無毛である。葉は披針形から線形で長さ3~8 mm、幅1~2 mm、基部がつながった対生する葉を数対つける。花は白色、4裂した径2.5 mmで8~10月頃に咲く。小花柄は長さ8~20 mmで粒状突起を散生する。花柱の宿存した蒴果をつくる。

**分布:** 国内では本州から九州、沖縄。国外ではアジア東部から南部、豪州に分布。県内ではいなべ市大安町、伊賀市、津市、松阪市に記録されている。

**現況・減少要因:** いなべ市1、伊賀市1、松阪市1か所。いずれも溜池内周辺部にみられる。溜池の改修や埋め立てなど湖沼開発が減少要因となる。

**保護対策:** 生育地の溜池環境を現状維持する必要がある。生育地点での溜池改修や土地造成のための埋め立ては極力避ける。



(市川正人)

## ケテイカズラ

*Trachelospermum jasminoides* (Lindl.) Lem. var. *pubescens*

Makino

被子植物 [双子葉・合弁花] キョウチクトウ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: 準 (NT)

**選定理由:** 既知の生育地点数は1か所に限られ、個体数も50未満である。

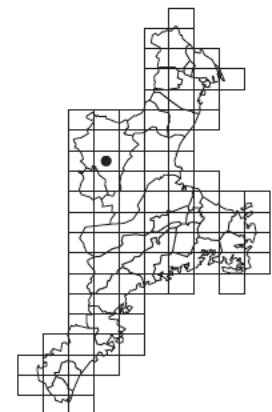
**種の概要:** 常緑性藤本。花序や葉に毛が多い。葉は長楕円形から楕円形、長さ4~8 cm、幅2~5 cmである。花は径2~2.5 cmの白色で5~6月頃に開く。萼片は長さ5~6 mmで毛が散生する。花筒狭部は長さ3~4 mmで広部とほぼ同長である。袋果2つは長さ10~15 cmでほぼ直角につく傾向がある。

**分布:** 国内では近畿地方以西、四国、九州に分布。県内では伊賀市で記録されている。

**現況・減少要因:** 伊賀市の河岸1か所に限られており、河川改修による護岸工事などの影響を受ける。現地では改修が進行中で危機的な状況である。

**保護対策:** この近くにはレンプクソウ、ヤブサンザシも生育しており、河川開発には配慮が必要である。

**特記事項:** テイカズラに似るが、葉面の毛の量や花筒の広・狭部の長さの相違は明らかである。



(市川正人)

維管束植物

蕨類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## フナバラソウ

*Vincetoxicum atratum* (Bunge) C.Morren et Decne.

被子植物 [双子葉・合弁花] ガガイモ科(APGⅢ:キョウチクトウ科)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: VU

近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は10程度だが、現存が確認されたのは3か所に過ぎない。急速に消滅しつつあると推測される。

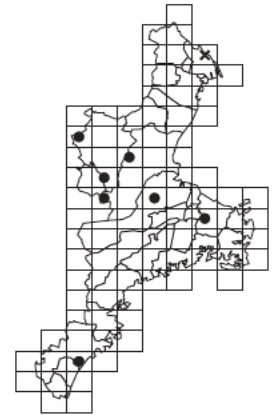
**種の概要:** 高さ40~80 cmの多年草。全草に密な白軟毛を持つ。葉は楕円形から卵円形、やや大型で長さ6~14 cm。濃紫色の花は6月に咲き、径は大きく12~14 mm。小花柄は短く5~10 mm、萼とともに密毛を有する。

**分布:** 北海道から九州。国外では朝鮮半島、中国。県内での分布は広く、桑名市、伊賀市、津市、松阪市、伊勢市、御浜町からの記録がある。安定した里草地や茅草地にまれに生育する。

**現況・概要:** 現在確認できるのは、津市2か所と松阪市の3生育地のみ。開発による草地環境の減少および草地管理の放棄に伴う環境悪化が減少要因と推測される。

**保護対策:** 自生地の開発規制だけでなく、草刈りや火入れによる草地環境の維持努力を継続することが重要。

**特記事項:** 急速に生育地が消滅しつつある現状を深刻に受け止める必要がある。三重県立上野高校、京都大学総合博物館、三重県総合博物館に保管されている古い時代の標本は貴重。



(藤井伸二)

## コイケマ

*Cynanchum wilfordii* (Maxim) Hook.f.

被子植物 [双子葉・合弁花] ガガイモ科(APGⅢ:キョウチクトウ科)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: —

**選定理由:** 既知の生育地点数は5程度で、各地点50未満の個体数しかない。開発圧が極めて強い。生育地間の交流は分断傾向にある。

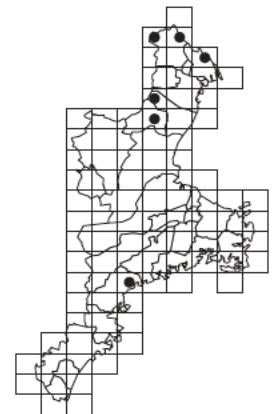
**種の概要:** 林縁や疎林内に生育するつる性の植物で、葉は基部が心円形で、先は急に細くなって尖る。葉腋に葉柄より短い花柄を伸ばして、淡黄緑色の小さい花を多数つける。

**分布:** 朝鮮半島、中国。国内では本州(関東以西)から九州。県内では桑名市、亀山市、紀北町で記録がある。

**現況・減少要因:** 林縁や植生の遷移途上にあるやや不安定な環境に生育していることもあって、消長が激しく、以前の生育地へ行っても再確認ができない場合が多い。

**保護対策:** 適度に伐採がなされ、多様な環境が混在する二次林を創生し、維持管理する必要がある。

文献: 34, 85.



(加田勝敏)

## ナガバジュズネノキ

*Damnacanthus macrophyllus* f. *giganteus* (Makino) T.Yamaz.

被子植物 [双子葉・合弁花] アカネ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: —

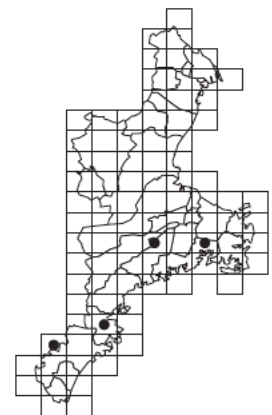
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、各生育地の個体数も少ない。

**種の概要:** 照葉樹林に生える高さ0.5~2 mの常緑低木。根の形状が数珠状となる。開花期は4~5月。多数の白色の花を下向きにつける。果実は直径3~5 mm程度の球形、冬から翌早春にかけて赤く熟す。

**分布:** 国内では本州(東海地方以西)、四国、九州に分布。国外では中国大陸南部。県内では伊勢市、大紀町、尾鷲市、熊野市で記録がある。

**現況・減少要因:** 照葉樹林の林床を生育地とするため、開発等による照葉樹林の消失にともない減少したと推測される。

**保護対策:** 照葉樹林の保全や照葉樹の残る社寺林等の保全が望まれる。



(平山大輔)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## サワルリソウ

*Ancistrocarya japonica* Maxim.

被子植物 [双子葉・合弁花] ムラサキ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: 準 (NT)

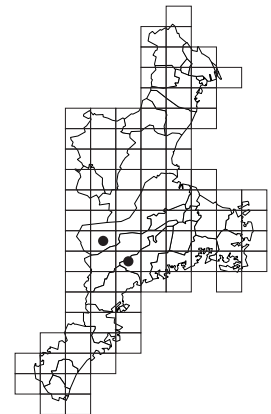
**選定理由:** 既知の生育地点数は2であり、個体数も少ない。

**種の概要:** 山地の木陰に生える多年草。茎は高さ50~80 cmで直立し、2叉に分枝し、上向きの短い圧毛がある。葉は茎の中部に多く、長楕円形、洋紙質で長さ10~20 cm、幅3~7 cm、3~5対の側脈があり全縁である。上面に細突起、下面に圧毛がみられる。筒状鐘形、青紫色の花が5~6月頃につく。分果は1、2個成熟し、長さ約10 mmの狭卵形で、先は細長く鉤状に曲がる。

**分布:** 日本固有種。関東地方以西、四国、九州の太平洋側の温帯域に分布。県内では松阪市飯高町、大紀町に記録されている。

**現況・減少要因:** 松阪市飯高町の山地斜面2か所、大紀町で生育している。安定した斜面であり、現状の環境が維持されれば持続可能であろう。

**保護対策:** 自生地の環境を現状のまま維持する必要がある。



(市川正人)

## イワダレソウ

*Phyla nodiflora* (L.) Greene

被子植物 [双子葉・合弁花] クマツヅラ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 情報不足 (DD)

環境省: —

近畿: C (VU)

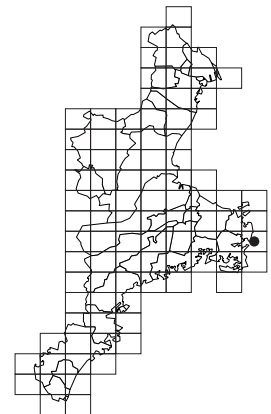
**選定理由:** 既知の生育地点数は1。個体数は50未満。

**種の概要:** 海岸の裸地や岩場に生育する多年草。茎は長く地表を這い、節から根を出す。葉は対生し、倒卵状楕円形、長さ1~4 cm、幅5~18 mm、上半にあらわな鋸歯があり、圧毛を有する。葉腋から長い柄を持つ円柱状の穂状花序を単生する。

**分布:** 国内では、本州(関東南部以西)から琉球に分布。国外では、世界の熱帯から亜熱帯に広く分布。県内では、志摩市に分布。

**現況・減少要因:** 海岸の岩場に生育。個体数は少ない。渥美半島には多産するが、本県では稀。

**保護対策:** 現状に変更が無ければ問題は無い。



(藤井伸二)

## カワミドリ

*Agastache rugosa* (Fisch et C.A.Mey.) Kuntze

被子植物 [双子葉・合弁花] シソ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: —

環境省: —

近畿: —

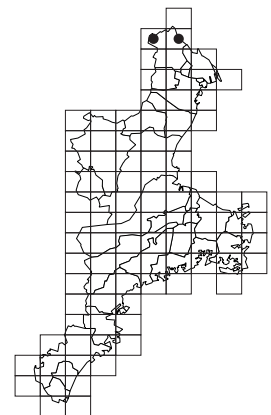
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下。

**種の概要:** 山地の林縁、路傍などに生育する。全体に強い香気がある。高さ40~100 cm。葉は5~10 cm、基部はハート型にくぼみ、やや長い柄で対生する。8~10月、淡紅色から淡紫色の唇形花が密集して穂になる。一見したところ、外観がナギナタコウジュに似るが、花をよく見ると全く形が違う。

**分布:** 国内では北海道から九州、国外では朝鮮、中国、シベリア東部分布する。県内では北勢のいなべ市北部での記録がある。

**現況・減少要因:** 生育地、個体数は多くはない。林道や河川の改修、植物の遷移などによる減少が考えられる。

**保護対策:** 林道の改修などの工事の時に注意を要する。



(山脇和也)

維管束  
植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## ケブカツルカコソウ

*Ajuga shikotanensis* Miyabe et Tatew. f. *hirsuta* (Honda) Murata

被子植物 [双子葉・合弁花] シソ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅 (EX)

環境省:

近畿: A (CR)

**選定理由:** 既知の生育地点は2. 絶滅と考えられていたが、2006年に再発見された。個体数はわずかで50前後と思われる。

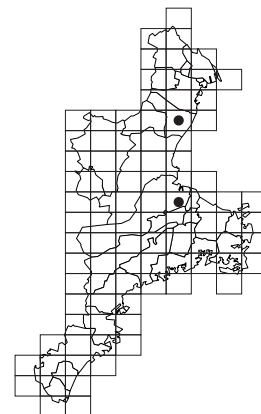
**種の概要:** 畔や土手などの里草地に生育するロゼット型の多年草。全体に粗毛を密生。葉は厚い。直立した花茎が単生し、高さ10~30 cm。花期の終わりごろから、花茎基部より走出枝を出す。

**分布:** ツルカコソウ (ケブカツルカコソウを含む) の分布は国内では色丹島、本州。近畿地方では和歌山県と三重県のみ分布。県内では稲生村 (現鈴鹿市、1928年) と明和町 (1925年) での標本記録がある。

**現況・減少要因:** 畔や土手のごく狭い範囲にのみ生育している。

**保護対策:** 畔や土手の管理を現状のまま維持する必要がある。

**文献:** 128.



(藤井伸二)

## シマジタムラソウ

*Salvia isensis* Nakai ex H.Hara

被子植物 [双子葉・合弁花] シソ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: VU

近畿: B (EN)

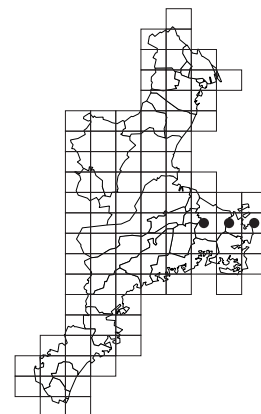
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、生育環境は限られている。

**種の概要:** 日当たりのよい蛇紋岩上の疎林や草地にはえる多年草。茎は直立し、細毛があるか、または毛がなく、高さ20~30 cm。葉は茎の下部に集って対生し、1~2回羽状複葉、小葉は先端のものが大きい。花は茎の先に穂状に付き、淡青紫色、8~9月頃開く。萼は長さ5~6 mm、外面には腺点と粗毛がまばらに生え、内面の中程に白い毛が輪状にはえている。花冠は長さ1 cm内外、筒部は内面中央に輪状に毛がある。雄しべは花の外に突き出る。

**分布:** 本州 (三重県、愛知県) の一部に固有。県内では南勢地域に生育する。

**現況・減少要因:** 蛇紋岩地帯の疎林内や半裸地状の場所に生育する。

**保護対策:** 蛇紋岩地帯の森林化を抑制し、草地状態を維持することが必要である。



(中馬千鶴)

## コナミキ

*Scutellaria guilielmii* A.Gray

被子植物 [双子葉・合弁花] シソ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: VU

近畿: 準 (NT)

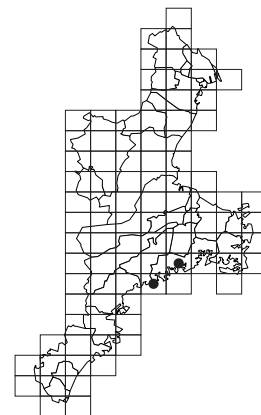
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下で、各生育地の個体数は50未満である。

**種の概要:** 海岸近くの草地に生える多年草。茎は分枝し、高さ20~40 cmになる。葉は対生し、上部のものはほとんど柄がなく、下部のものは0.5~20 mmの葉柄がある。花は5月、白色で葉腋に1個ずつつく。

**分布:** 国内では本州 (千葉県以西) から沖縄に分布。県内では南伊勢町および大紀町の海岸部での記録がある。

**現況・減少要因:** どの生育地も個体数は多くはないが、背丈の高い草が草地を覆い、個体数が減少している生育地も見受けられる。また、よく成長した個体が比較的多く認められる自生地でも、埋め立てが間近まで迫り、危機的な状況にある。さらに近年、ニホンジカの食害により激減し、危機的な状況となっている。

**保護対策:** 草地を維持するには草刈り等、人為による管理が必要である。また現在残されている海岸部の自然環境は、海岸近くに生える植物の生育地として保全することが必要である。同時にニホンジカの食圧を低減する施策が必要となっている。



(山本和彦)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

### デワノツナミソウ

*Scutellaria muramatsui* H.Hara

被子植物 [双子葉・合弁花] シソ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: —

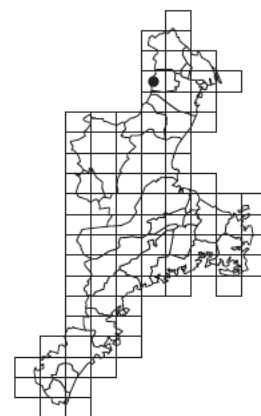
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は50未満である。

**種の概要:** やや湿った林地に生える多年草。茎は長く、這った地下茎から立ち上がり高さ10~30 cmとなり、極短い下向きの毛が生える。葉は卵形から三角状卵形、縁には波状鋸歯が数個あり、基部は広い楔形となる。長さ2~3.5 cm, 幅1~2.5 cm, 表面にまばらな毛、裏面脈上に細毛を持つ。花は5~6月頃に開き花冠は紫色で15~18 mm, 紫斑がない。花穂は3~5 cmである。

**分布:** 日本固有種。近畿地方以北のおもに日本海側の山地に分布。県内では菰野町だけで記録されている。

**現況・減少要因:** 菰野町2か所でみられる。植生遷移や土砂崩壊が減少要因と考えられる。

**保護対策:** 現在の生育環境を維持する必要がある。



(市川正人)

### イブキジャコウソウ

*Thymus quinquecostatus* Celak. var. *ibukiensis* Kudô

被子植物 [双子葉・合弁花] シソ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: C (VU)

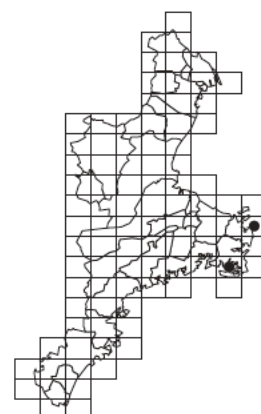
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、強い開発圧により減少が著しい。

**種の概要:** 小低木で茎は細く、地表を這って分枝繁殖する。葉は対生し、卵形で長さ5~10 mm。花期は8~9月、枝先に紅紫色の唇形花をつける。全草芳香がある。

**分布:** 国内では北海道、本州、九州。国外では朝鮮半島、中国、ヒマラヤに分布。県内では鳥羽市および志摩市で記録がある。

**現況・減少要因:** 鳥羽市では離島や丘陵地に生育していたが、開発圧を強く受け現在は若干が残存している状況である。なお、志摩市の記録は古く、現況は不明である。

**保護対策:** 開発に際しては本種の生育に十分な配慮を行う必要がある。また、市民への啓発を行うことも重要である。



(岡 與一)

### ゴマクサ

*Centranthera cochinchinensis* (Lour.) Merr. var. *lutea* (H.Hara)

H.Hara

被子植物 [双子葉・合弁花] ゴマノハグサ科(APGⅢ:ハマウツボ科)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: VU

近畿: A (CR)

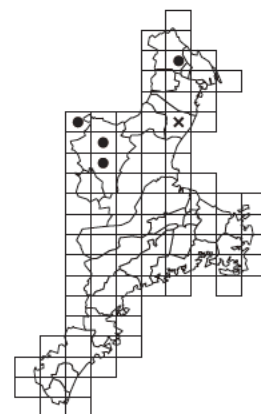
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は50未満である。

**種の概要:** 日当たりの良い湿地に生える一年草。茎は直立して硬く10~60 cmで短い剛毛がある。葉は長さ1.5~6 cm, 幅2~8 mmの狭披針形から広線形で全縁または少数の鋸歯があり、両面短い剛毛が生える。花はほとんど柄がなく黄色で長さ2 cm, 8~9月頃、上部苞葉腋に単生する。蒴果は長さ7 mm, 幅3.5 mmである。

**分布:** 国内では関東地方以西、四国、九州、沖縄。国外では朝鮮半島南部、中国、インドシナに分布。県内ではいなべ市、鈴鹿市、伊賀市に記録がある。

**現況・減少要因:** いなべ市大安町1、伊賀市2か所で生育が確認されている。湖沼開発による湿地の消失が減少要因。

**保護対策:** 少なくとも今ある環境を残すこと、および採取の防止を図りたい。



(市川正人)

維管束植物

蕨類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD



## オオアブノメ

*Gratiola japonica* Miq.

被子植物 [双子葉・合弁花] ゴマノハグサ科(APGⅢ: オオバコ科)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: VU

近畿: A (CR)

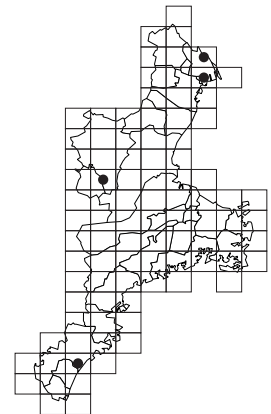
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は50未満である。

**種の概要:** 湿地に生える一年草。茎は高さ10~20 cm, 直立し肉質で柔らかい。葉は対生し、披針状長楕円形で柄はない。全縁で長さ1~3 cm, 幅2.5~7 mmである。5~6月葉腋に白色筒形, 4~5 mmの1花をつける。花冠の多くは開かず閉鎖花である。蒴果は球形で3~4 mmである。

**分布:** 国内では宮城県以南, 九州に分布。県内では桑名市, 名張市, 熊野市の湿地や水田畦沿いに生える。

**現況・減少要因:** 桑名市3, 名張市1, 熊野市1か所で生育しているが消長が激しく安定していない。ミズアオイと同様, 水田の表層土の攪乱による休眠種子の発芽がみられる程度である。圃場整備事業, 農薬散布が減少要因である。

**保護対策:** 氾濫原を復元し, 農薬散布を止めることで回復可能である。ビオトープなどの設置も有効である。



(市川正人)

## シオガマギク

*Pedicularis resupinata* L. subsp. *oppositifolia* Miq.

被子植物 [双子葉・合弁花] マノハグサ科(APGⅢ: ハマウツボ科)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: —

環境省: —

近畿: —

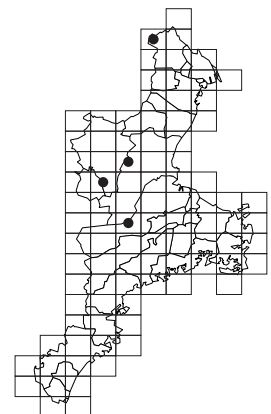
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり, 各生育地とも個体数は極めて少ないと考えられる。

**種の概要:** 山の日当たりのよい草地に生える多年草。茎は高さ約30~60 cm。葉は下部では対生, 中部以上は互生する。苞は葉状でやや小形, 花は8~10月に開き, 萼は長さ5~10 mm, 腹面深く切れ込み背面は円頭で時に2~3の鋸歯がある。花冠は紅紫色で長さ20~23 mm, 上唇の先は短い嘴となる。さく果は長さ8~12 mm。種子は紡錘形, 平滑でやや縦の条がある。

**分布:** 国内では, 北海道の中・南部から本州, 四国, 九州にかけての冷温帯に分布し, 県内ではいなべ市, 津市, 伊賀市で生育の記録がある。

**現況・減少要因:** 県内での生育分布が確認されたのは1989年4月を最後に, その後25年間記録がない。おそらく植生の遷移や人為圧により減少または消滅が予想される。

**保護対策:** 既知の生育地や冷温帯に当たる日当たりのよい草地を精査し, 再確認に努め, 確認されたら万全の保護対策を講ずる必要がある。



(葛山博次)

## サツキヒナノウスツボ

*Scrophularia musashiensis* Bonati var. *musashiensis*

被子植物 [双子葉・合弁花] ゴマノハグサ科(APGⅢ: 同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: C (VU)

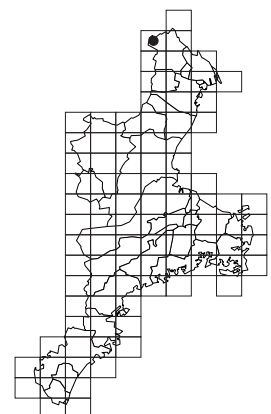
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり, 各地点の個体数は50未満である。

**種の概要:** 山地林内のやや日陰に生えるヒナノウスツボに似た多年草。地下茎は肥大し, 根は細い。茎にはやや4稜があり, 葉とともに軟弱で無毛である。葉は対生し, 1~3 cmのやや翼のある柄, 長さ6~11 cm, 幅3~5 cmの尖った重鋸歯縁の葉身である。花はヒナノウスツボが7~9月に対し4~5月, 円錐花序で多くの花をつけるに対して花序は葉腋から出て1~3花, 花冠の長さは7~9 mmに対して大きく9~11 mmなどの相違がある。

**分布:** 日本固有種。秩父・奥多摩地方の山地, 中央アルプスの伊那側, 伊吹・鈴鹿山系などに分布。県内ではいなべ市藤原町の山地で記録がある。

**現況・減少要因:** いなべ市藤原町2か所に生育している。遷移や斜面の崩壊などが減少要因となる。

**保護対策:** 現在の生育環境を維持することである。



(市川正人)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

### キヨスミウツボ

*Phacellanthus tubiflorus* Siebold et Zucc.

被子植物 [双子葉・合弁花] ハマウツボ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: C (VU)

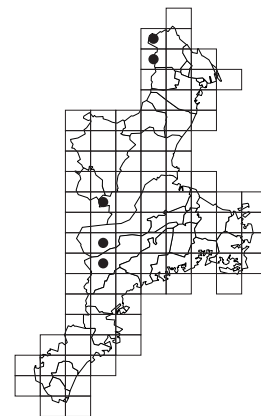
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり, 各地点の個体数は50未満である。

**種の概要:** 山地の木陰に生える。はじめ白色, のちに黄褐色になる。カシ類に寄生する一年草。高さ5~10 cmで毛はなく, 茎は多数の鱗片葉に覆われる。花は5~7月に展開し, やや頭状に集まってつく。花冠は2.5~3 cmの筒状で斜上する。花の形態は変異が大きい。

**分布:** 国内では北海道から九州に分布。国外ではアジア北東部に分布。県内ではいなべ市, 津市美杉町, 松阪市, 大台町で記録されている。

**現況・減少要因:** いなべ市藤原町1, いなべ市北勢町1, 松阪市飯高町1, 大台町1か所で生育している。丈の低い植物で落葉落枝に隠れて目立たないため, 精査すれば他でも発見の可能性はある。

**保護対策:** 生育環境を維持していくことである。



(市川正人)

### ミカワタヌキモ

*Utricularia exoleta* R.Br.

被子植物 [双子葉・合弁花] タヌキモ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: VU

近畿: A (CR)

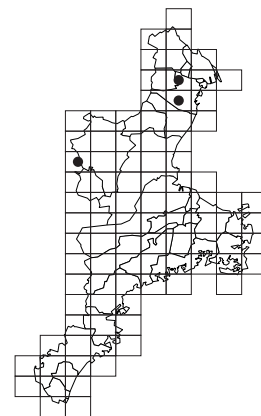
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下。湿原の開発や溜池などの埋め立てによる急激な減少が予想される。生育面積は狭く, 個体数も多くない。

**種の概要:** 水面すれすれの泥上を匍匐して, 捕虫囊をつけた地中葉で固着する。水中葉はまばらに軸につき, 長さはせいぜい1 cm位。8~9月に高さ5~8 cm位の花軸を生じ, 径5~6 mmほどの黄色の花を1~3個つける。

**分布:** 国内では本州 (関東から近畿地方), 九州, 沖縄。国外では台湾, インド, オーストラリア, アフリカ。県内では北勢, 伊賀地域に生育地がある。

**現況・減少要因:** 伊賀市といなべ市大安町にそれぞれ1か所。現況不明。大安町の溜池にあったものは, 池の半分が埋め立てられたことにより減少, 消滅した可能性がある。湿原・溜池開発による急激な減少や遷移による減少も考えられる。

**保護対策:** 周りの環境を整備し, 生育環境を保護する必要がある。



(山脇和也)

### ウスバヒョウタンボク

*Lonicera cerasina* Maxim.

被子植物 [双子葉・合弁花] スイカズラ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: VU

近畿: 準 (NT)

**選定理由:** 既知の生育地点数は3である。最近ほとんど発見されていない。個体数も少ない。

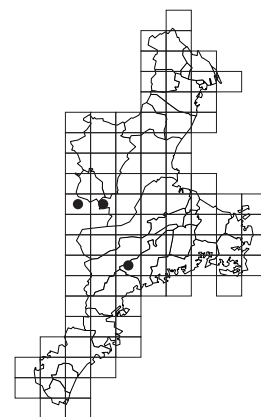
**種の概要:** 西日本に生育する落葉低木。葉は倒卵状長楕円形で長さ4~10 cm。4~5月に頂に帯黄白色の2花つける。液果は楕円形で, 下部で合着し, 長さ7~8 mm, 6月に紅熟する。

**分布:** 国内では本州 (紀伊半島, 山陽), 四国, 九州の山地に点在。県内では中南勢, 伊賀地域に分布。

**現況・減少要因:** この10年では大台町で記録がある。名張市赤目で最近1個体確認された。森林の伐採や開発等で消滅する可能性がある。

**保護対策:** 生育地については, 森林の伐採や登山道整備などの時, 詳細な調査が必要である。

**文献:** 57.



(山脇和也)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## キンキヒョウタンボク

*Lonicera ramosissima* Franch. et Sav. ex Maxim. var. *kinkiensis* (Koidz.) Ohwi

被子植物 [双子葉・合弁花] スイカズラ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: EN

近畿: 準 (NT)

**選定理由:** 既知の生育地点数は1で、50未満の個体数しかない。

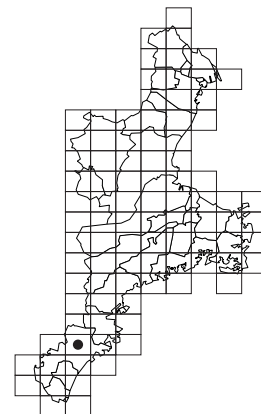
**種の概要:** 山地の日当たりのよい林縁や疎林内に生育する落葉低木。4~5月頃葉腋に1.5 cm前後の花柄を出し、淡黄色の筒状花を2個つける。葉は長楕円状披針形で鋭尖頭。両面ともに有毛。苞は子房と同長。

**分布:** 国内では近畿地方(三重県, 京都府, 大阪府, 兵庫県), 四国(香川県)。県内では熊野市で記録がある。

**現況・減少要因:** 紀州地域の山地で精査すれば、他にも生育地が見つかる可能性はあるが、スギ、ヒノキの植林が大半を占める現状では生育適地はあまりにも少ない。

**保護対策:** 花か果実がついていなければ見落としやすく、保護対策も難しい。日当たりのよい林縁や落葉広葉樹の疎林が確保される必要がある。

文献: 44.



(加田勝敏)

## カンボク

*Viburnum opulus* L. var. *sargentii* (Koehne) Takeda

被子植物 [双子葉・合弁花] スイカズラ科(APGⅢ:レンブクソウ科)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: —

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、個体数は各生育地点とも極めて少ない。

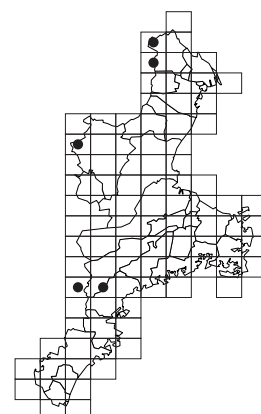
**種の概要:** 高さ2.5~3 mの落葉低木。葉には3~4 cmの長柄、上部に一对の蜜腺があり、対生、葉身は3中裂。5~6月、枝先に花序を出し、多数の白色花を開き、周囲に裝飾花をつける。果実は球形で8~10 mm、赤熟する。ブナ帯の構成要素である。

**分布:** 日本全土および東亜の冷温帯。県内では鈴鹿山脈北部、伊賀地域、台高山脈に分布する。

**現況・減少要因:** 生育地の植生遷移にともない消滅のおそれがある。さらに花期や果実の赤熟期には人為圧にさらされ樹勢劣化の状況にある。

**保護対策:** 生育地の森林の中・高木層の繁茂による遮光を排除する間伐、枝打ちなどの管理が必要であり、また採取の防止に努める必要がある。

文献: 57, 139.



(葛山博次)

## イワツクバネウツギ

*Zabelia integrifolia* (Koidz.) Makino ex Ikuse et S.Kuros.

被子植物 [双子葉・合弁花] スイカズラ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: VU

近畿: 準 (NT)

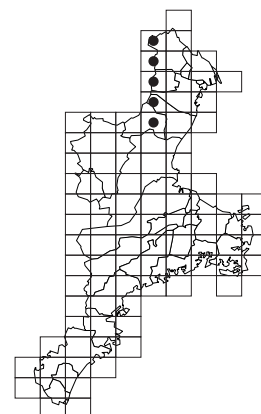
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は250未満である。

**種の概要:** 山地に生える1~2 mのよく分岐する落葉低木である。成長した樹皮は灰褐色で6本の縦溝が目立つ。若枝はほとんど平滑で緑色から赤褐色に変わり、光沢がある。葉は対生し3~7 cm、幅1~3 cmの卵形から卵状楕円形で先はとがり、全縁または披針状鋸歯がある。花は5~6月で4裂平開し、花筒は長い。萼も4裂し、裂片が目立ち、名前の由来となっている。

**分布:** 日本固有種。おもに石灰岩や蛇紋岩地に生える。国内では関東地方以西、四国、九州に分布。県内ではいなべ市、菰野町、鈴鹿市、亀山市で記録されている。

**現況・減少要因:** いなべ市2、亀山市1か所まで生育している。石灰岩採掘の影響が懸念される。

**保護対策:** 石灰岩採掘の中止が必要である。



(市川正人)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

### ヒロハテイショウソウ

*Ainsliaea cordifolia* Franch. et Sav. var. *maruoi* (Makino) Makino ex Kitam.

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: C (VU)

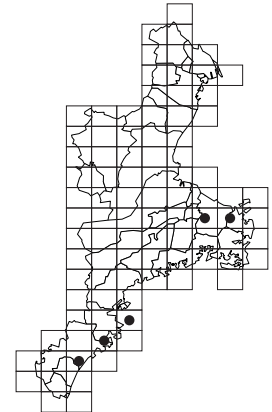
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は50未満である。

**種の概要:** テイショウソウの葉に切れ込みのあるもので、切れ込みに多少の変異もみられる。

**分布:** 国内では本州(関東南部、東海道)、伊豆諸島、県内では南勢(伊勢市)、紀州地域(尾鷲市、熊野市)に分布。

**現況・減少要因:** 生育地は林縁の急崖地や樹陰の乾燥地などにあり、環境の変化により個体が減少するおそれがあり、また人の踏みつけが圧力になると考えられる。

**保護対策:** 林縁の土木工事や林内の遊歩道の取り付けには、自生地を避ける方法を取り群落の保護を図る。



(花尻 薫)

### エンシュウハグマ

*Ainsliaea dissecta* Franch. et Sav.

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: B (EN)

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下で、各地点50未満の個体数しかない。

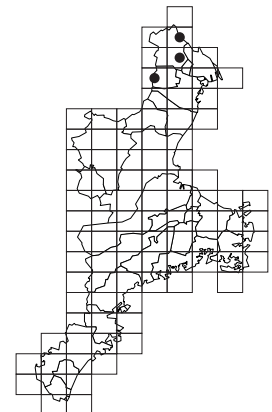
**種の概要:** 山地の木陰に生育する。葉は茎の中部以下に輪状につき、葉は掌状に分裂して独特の形になる。9~10月頃、10~30 cmの茎を伸ばし、総状から複総状に頭花をつける。

**分布:** 日本固有種。静岡県、愛知県、三重県。県内では桑名市、いなべ市、菰野町で記録がある。

**現況・減少要因:** 山地の植生遷移による生育適地の減少、開発による生育地の消滅により減少している。また、園芸採取も減少の一因である。

**保護対策:** 各市町村の関係部署に周知、徹底させて、開発時のチェック、生育地の保全を行うべきである。

**文献:** 34, 43.



(加田勝敏)

### ホソバノギク

*Aster sohayakiensis* Koidz.

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: VU

近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下で、未知の生育地はそれほど多くはないと推測され、確認されている個体数も少ない。

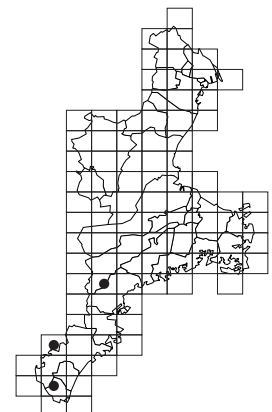
**種の概要:** 溪流沿いの湿った岩上に生える多年草。地下茎を引く。茎は高さ30~60 cmで無毛。葉は細長く短い柄があり、表面に光沢がある。花期は8~10月頃。花柄には長さ0.2~0.3 cmの苞を1, 2個つける。

**分布:** 紀伊半島の固有種。県内では大台町、熊野市、紀宝町で生育が確認されている。

**現況・減少要因:** 生育地が限られ、個体数も多くはない。生育立地は、溪流の高水敷きなどで、自然的要因によって個体数が減少しやすい不安定な生育環境である。

**保護対策:** 分布の現況が必ずしも明らかではないが、分布域においては、道路開設(林道開設)などの際には、本種個体群の確認に努め、それらの保全に努める必要がある。

**文献:** 140.



(武田明正)

維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

## ヤマジノギク

*Aster hispidus* Thunb. var. *hispidus*

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿:

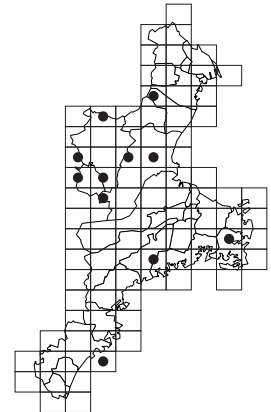
**選定理由:** 既知の生育地点数は10程度であり、最近の生育情報が少ない。

**種の概要:** 山地の明るい草地に生える二年草。花期は9~11月、青紫色の頭花をつける。花時、根出葉は枯れる。頭花や茎など全体的に毛が多い。

**分布:** 国外では朝鮮半島、中国。国内では本州(東海地方以西)、四国、九州。県内では伊賀市、名張市、津市、亀山市、志摩市、大紀町、熊野市で記録がある。

**現況・減少要因:** 中勢の山間地を中心に生育している。津市榑原町では2004年に林縁斜面の草地で生育が確認された。遷移の進行や開発により生育地が減少している。

**保護対策:** 生育地の保全のためには、定期的に草刈りをする必要がある。



(山路武夫)

## ホソバオグルマ

*Inula linariifolia* Turcz.

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: VU

近畿: B (EN)

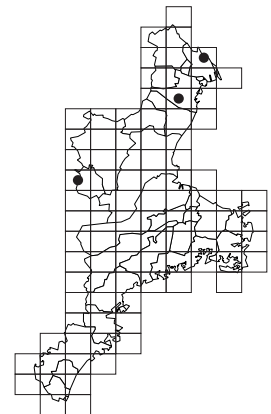
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下で、わずかな個体群の記録しかない。

**種の概要:** オグルマに類似するが、葉の幅6~10 mmと細く、頭花も径18~25 mmと小さいことで区別できる。総苞の長さ4~6 mm。

**分布:** 朝鮮半島、中国、シベリア。国内では本州、九州。県内では桑名市、名張市、四日市市で記録がある。

**現況・減少要因:** 人里近くの湿地に生育するため、いち早く開発の対象になり、発見されても翌年には環境が改変されてしまっており絶滅している。

**保護対策:** 生育地を点で保全しても、それを取り巻く周囲の環境(とくに地下水)が改変されると維持できない。周囲の環境も併せて保全する必要がある。



(加田勝敏)

## ドロニガナ

*Ixeridium dentatum* (Thunb.) Tzvelev subsp. *kitayamense* (Murata) J.H.Pak et Kawano

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: VU

近畿: C (VU)

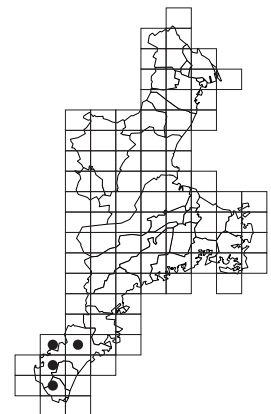
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は50未満である。

**種の概要:** 川岸の岩の割れ目に生える。小形の植物で根生葉も小さく、葉柄を含めて、長さ3~5 cm、ほとんど全縁。頭花は3~5月に咲く。瀨峡で発見されたのでこの和名がつけられた。

**分布:** 国内では紀伊半島南部(三重県、和歌山県、奈良県)。県内では熊野市、紀宝町に分布。瀨八丁附近の岩の上に自生する。

**現況・減少要因:** 河川改修による圧力と、増水による川岸の破壊が減少に繋がると思われる。

**保護対策:** 河川改修の際、堤防工事や川岸の破壊が自生地周辺で行われる可能性があり、保護に対する理解を得るよう配慮する。



(花尻 薫)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

### シュンジュギク (シンジュギク)

*Aster savatieri* Makino var. *pygmaeus* Makino

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: C (VU)

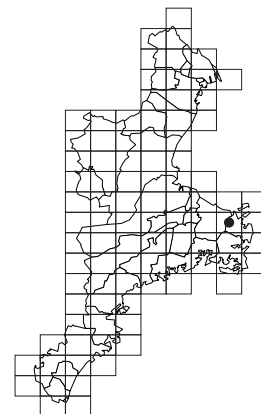
**選定理由:** 既知の生育地点数は1であり, 生育環境は限られている。

**種の概要:** 蛇紋岩地帯に生える多年草。高さ10 cm内外, 根出葉は長い葉柄があり円形, 縁に2~3のあらい鋸歯がある。初夏に, 葉の間から1本の花茎が伸び, 細小な葉を互生する。花茎の先端には, 1~2個の頭花をつける。頭花は径13~20 mm, 白色または淡青紫色で, 5~7月に咲く。

**分布:** 日本固有種。近畿地方以西の国内では本州, 四国に分布, 県内では伊勢市に生育する。

**現況・減少要因:** 蛇紋岩地帯の疎林内や半裸地状の場所に生育する。

**保護対策:** 蛇紋岩地帯の森林化を抑制し, 草地状態を維持することが必要である。



(中馬千鶴)

### ミヤコアザミ

*Saussurea maximowiczii* Herder

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: A (CR)

**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり, 個体数も少ない。最近の情報が極めて少ない。

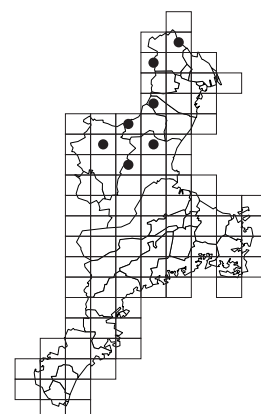
**種の概要:** 山地のススキ草原に生育する多年草。草丈50~150 cmに達し, 8~10月頃, 散房状に頭花をつける。根生葉は長柄があって羽状に深裂し, 花時にも残る。

**分布:** 朝鮮半島, 中国, アムール。国内では本州 (福島県以西), 四国 (高知県小石木山), 九州。県内ではいなべ市, 亀山市, 津市, 伊賀市で記録がある。

**現況・減少要因:** 以前ススキ草原であった所が, 人手が入らなくなったり, 動物による食害, 植生遷移によるタケ, ササ草原や低木林への移行で激減している。

**保護対策:** 稜線や山頂部の草地は, 防火帯としての管理や眺望を楽しむという観点から重要であり, 草刈りをすることによって維持されることが望ましい。

**文献:** 34, 69, 85。



(加田勝敏)

### オオダイトウヒレン

*Saussurea nipponica* Miq. subsp. *nipponica*

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: —

環境省: —

近畿: A (CR)

**選定理由:** 既知の生育地点数は1。個体数は100未満, ニホンジカによる食害の影響を受けているためか, 岩場の限られた立地のみには認められない。

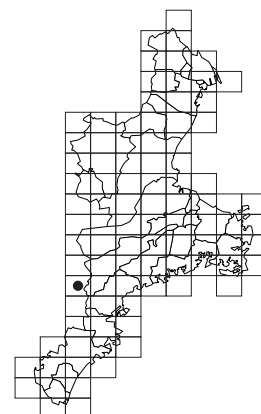
**種の概要:** 深山の林床にまれに見られる多年草。茎は高さ50~100 cm, 上部に粉状の細毛がある。葉は薄く, 葉柄に翼はない。8~10月, 紅紫色の頭花を散房状につける。総苞片は短く外曲し褐色の細毛がある。

**分布:** 日本固有種。本州 (近畿および中国地方), 四国, 九州北部に分布。県内では大台町から記録されている。

**現況・減少要因:** 生育環境が限定されており, 自生地地の個体数も多くはない。ニホンジカによる食害の影響をうけているものと思われる。

**保護対策:** ニホンジカ等の食害を防ぐ必要がある。生育地は国立公園に含まれている。

**文献:** 48。



(山本和彦)

維管束植物

蕨類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## サワオグルマ

*Senecio pierotii* Miq.

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿:

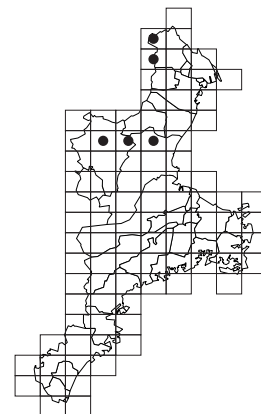
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下。生育地である湿地の開発圧が強い。

**種の概要:** 日当たりのよい山間の湿地に生える高さ60~90 cmの多年草。基部にはへら形で柄の長い葉があり、茎上の葉は無柄で、基部が茎を抱く。黄色の頭花は径3.5~5 cmで、果実は無毛で白い冠毛で飛ぶ。

**分布:** 国内では本州、四国、九州、沖縄。県内ではいなべ市藤原町、津市、伊賀市で記録がある。

**現況・減少要因:** いなべ市藤原町、津市以外では、生息地の記録は約50年前のものであり、いなべ市でも2005年以降、現状は不明。湿地の開発や、山間部では遷移による生育地の減少などにより、消滅の可能性もある。

**保護対策:** 生育地の湿地の保護や遷移を止める対策が必要である。



(山脇和也)

## タイキンギク

*Senecio scandens* Buch.-Hamil ex D.Don

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: NT

近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下で、各地点の個体数は250未満である。

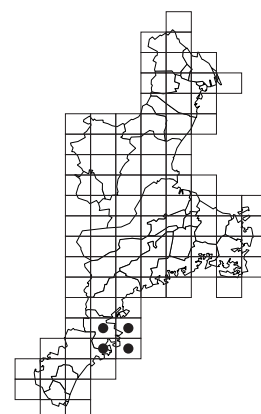
**種の概要:** 海岸地帯の向陽の急崖地や斜面に群生する多年草。茎はつる状に長く伸びて2~5 mとなり、葉は長三角形、長さ8~11 cm。花期は11月、3月。

**分布:** 国内では本州(紀伊半島南部の三重県、和歌山県)、四国。県内では紀州地域(尾鷲市、熊野市)に分布。

**現況・減少要因:** 道路工事、急崖地の崩落が減少につながる。

**保護対策:** 急崖地の道路工事は、斜面を削り岩石が自生地を転石することが多いので、工事の方法について業者の注意をうながすことが必要と思われる。

**特記事項:** 紀州地域は本種の北限である。



(花尻 薫)

## クサノウバナノギク

*Crepidiastrum chelidoniifolium* (Makino) J.H.Pak et Kawano

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: VU

近畿: C (VU)

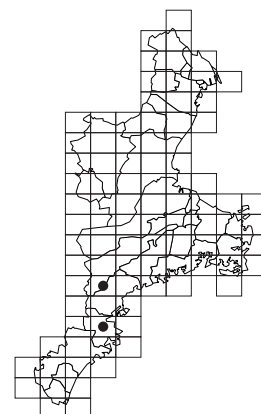
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、未知の生育地は今後それほど増えないものと思われる。

**種の概要:** 山地に生える一年草または越年草、高さ15~45 cm。葉は薄く羽状に全裂し、花は8~11月。総苞は狭い円柱形で、長さ5.5~7.5 mm。内片5個。小花5個。

**分布:** 国内では本州(栃木県、奈良県、三重県)、四国。国外では朝鮮半島、中国(東北)に分布。県内では大台町、尾鷲市での記録がある。

**現況・減少要因:** 一年草であるため、同一場所に毎年出現するとは限らないが、林道の脇や登山道沿いの落葉広葉樹林の林床に散見される。今のところ個体数には大きな増減はないと思われる。

**保護対策:** 林道沿いの裸地にみられることが多いため、林道の改修工事には配慮が必要である。



(山本和彦)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## トチカガミ

*Hydrocharis dubia* (Blume) Backer

被子植物 [単子葉] トチカガミ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: NT

近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下と少ない。未知の生育地も多くはない。

**種の概要:** 池や溝に生える多年草。長い水中茎は横に這い、節から根を出し群生する。

葉は長柄をもち、葉身は円心形、全縁で径4~7 cm、裏面の中央に気胞があり、水面に浮かぶ。花は8~10月、雄花と雌花がある。

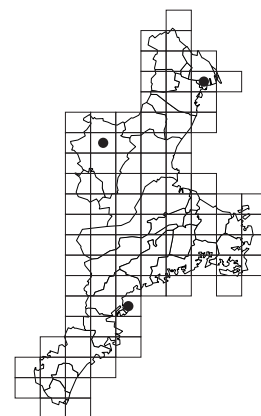
**分布:** 国内では本州から沖縄。国外では東南アジア、オーストラリアに広く分布。

県内では桑名市、伊賀市、紀北町からの記録がある。

**現況・減少要因:** 伊賀市、紀北町の分布情報は、過去の標本記録や文献によるもので、最近の確認情報はない。池沼の開発により自生地が消失したことや除草剤の使用、水質の悪化等により減少あるいは消滅したと思われる。桑名市の生育地は2011年に新たに発見されたもので、農業用水路内に小群落が認められている。この小群落は2013年現在も健全であった。

**保護対策:** 本種の分布状況の把握には、県内の詳細な池沼の調査が必要である。本種の有無にかかわらず、水辺の動植物が将来にわたって存続していくためにも、現在残されている池沼や湿地をこれ以上減らさないようにすることが重要である。

文献: 57.



(山本和彦)

## シバナ

*Triglochin asiatica* (Kitag.) Á.Löve et D.Löve

被子植物 [単子葉] シバナ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: NT

近畿: C (VU)

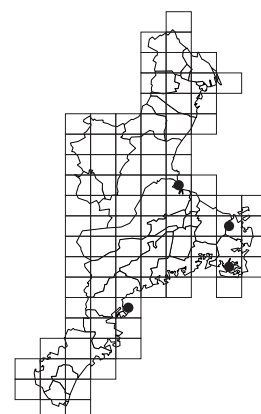
**選定理由:** 既知の生育地点数は5程度であり、各生育地の個体数は少ない。また、各生育地への開発圧が強い。

**種の概要:** 河口や干潟の塩性湿地に生える多年草。長さ10~40 cm。5~10月に、直立する高さ15~50 cmの花茎を出し、穂状花序に緑色の花を多数つける。

**分布:** 国内では北海道から九州、国外では北半球の温帯に広く分布する。県内では松阪市、伊勢市、志摩市阿児町、紀北町で記録がある。

**現況・減少要因:** 海岸の護岸工事や干潟の埋め立て等の開発により、生育地が極度に減少した。

**保護対策:** 現在の生育地の環境保全が重要である。また、やむを得ず工事を実施する場合には、潮の干満によって海水が自由に出入りできる干潟と、それにつながる湿地の保全に配慮した工法を採用する必要がある。



(岡 與一)

## コバノヒルムシロ

*Potamogeton cristatus* Regel et Maack

被子植物 [単子葉] ヒルムシロ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: VU

近畿: A (CR)

**選定理由:** 既知の生育地点数は1。現状のデータではCR相当だが、近似種ホソバミズヒキモとの混同により十分に認識されていない可能性が高いため、ランク評価を低くした。

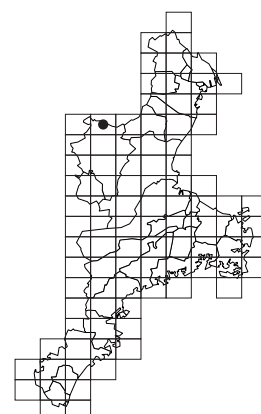
**種の概要:** ホソバミズヒキモに酷似する小形のヒルムシロ属植物。線形の沈水葉と長楕円形の浮葉の両方を持つ。ホソバミズヒキモとの区別は、果実の背陵にニワトリのとさか状の突起があることによる。

**分布:** 国内では北海道、本州、四国、九州。国内の分布は瀬戸内地方にやや偏在する傾向がある。国外ではロシア極東、中国、朝鮮半島、台湾。溜池にまれに生育する。

**現況・概要:** 近畿地方ではまれな浮葉植物。県内での確実な記録は1か所(伊賀市)のみ。溜池の埋め立てが減少要因になっている可能性があるが、県内での減少要因は不明。

**保護対策:** 生育地の開発(溜池の埋め立て)規制および水質の維持。また、今後の調査により県内における本種の正確な分布と生育実態の把握が必要。

文献: 86.



(藤井伸二)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD



## リュウノヒゲモ

*Potamogeton pectinatus* L.

被子植物 [単子葉] ヒルムシロ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: NT

近畿: A (CR)

**選定理由:** 既知の生育地点数は5か所以下であり、減少するおそれがある。

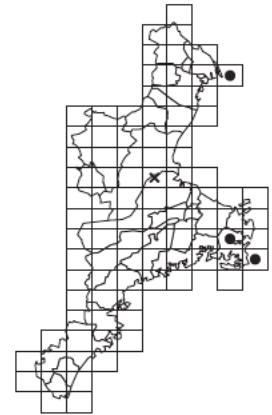
**種の概要:** 群生する多年生の沈水植物。淡水または汽水域の湖沼、河川などに生育。水中茎は糸状で、上部でよく分枝し、草長は1 mに達することもある。沈水葉は針状で長さは5~15 cm。花期は6~8月。夏頃より地下茎の先端に塊茎を形成する。この塊茎の有無あるいは本種の葉には鋸歯があることで、カワツルモ類とは区別できる。

**分布:** 世界中に広く分布。国内では全国各地に分布し、県内では木曾岬町、松阪市、志摩市に分布。

**現況・減少要因:** 木曾岬町1、松阪市1、志摩市2か所。松阪市は内陸部にあるため池での確認であったが、生育していた水草は全滅した。その原因は不明である。

**保護対策:** 現存する生育地については、県内では3か所しかないので絶えず監視していく必要がある。

**文献:** 96.



(中 優)

## イトトリゲモ

*Najas gracillima* (A.Braun ex Engelm.) Magnus

被子植物 [単子葉] イバラモ科(APGⅢ:トチカガミ科)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 情報不足 (DD)

環境省: NT

近畿: A (CR)

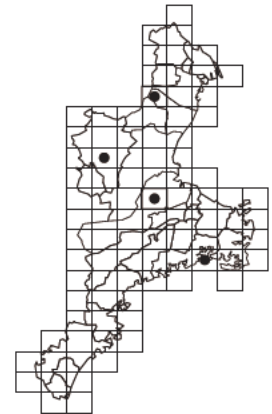
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下である。

**種の概要:** 貧栄養のため池、水田、小水路に生育する沈水性の一年草。葉はトリゲモの仲間では最も細い。花期は6~9月。果実は2個ずつ並んででき、表面には縦に長い長方形の網目模様がある。

**分布:** 日本を含む東アジア。国内では北海道から九州までの全土。県内では鈴鹿市、松阪市、南伊勢町、伊賀市に記録がある。

**現況・減少要因:** 鈴鹿市1、松阪市1、南伊勢町1、伊賀市1か所。伊賀市の記録は1951年の記録でありその後については不明。乾田化や埋め立てによる生育地の減少、水田の耕作放棄による荒廃、水田に使用されている除草剤の影響が減少の原因と考えられる。

**保護対策:** 水田で確認された場合には、必要以上の除草剤を使用しないよう啓発に努める必要がある。



(中 優)

## オオトリゲモ

*Najas oguraensis* Miki

被子植物 [単子葉] イバラモ科(APGⅢ:トチカガミ科)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: A (CR)

**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり、生育地の改変などの人為圧力が極めて強く、減少するおそれがある。

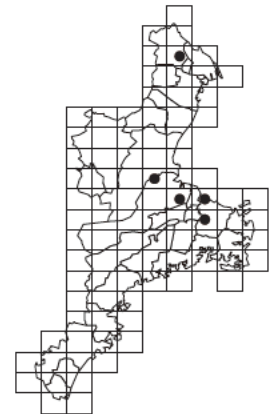
**種の概要:** 一年生の沈水植物。湖沼、溜池、まれに水路などに生育。茎は細く円柱形で、ほとんどすべての節で二叉状に分枝する。葉は基本的には対生であるが、分枝する節では3輪生。葉身は線形で長さは2~3 cm。葉縁に多数の鋸歯がある。花期は6~8月。種子は長楕円形で長さ3~3.5 mm、横に長い梯子状の網目模様がある。トリゲモとは雄花の葯室の数が4室であることで区別できる。

**分布:** 国外では中国に分布。国内では北海道を除く全国各地に分布し、県内では桑名市、松阪市、多気町、玉城町で記録がある。

**現況・減少要因:** 桑名市1、松阪市2、多気町2、玉城町1か所で記録がある。県内では溜池での確認例が多い。桑名市は1998年に調整池という不安定な生育場所での確認があるので、消失している可能性もある。

**保護対策:** 生育地である溜池などで改修工事等を行う場合には、生育場所の干出を避け、改修後の個体群の存続を可能にする配慮が必要である。

**文献:** 96.



(中 優)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## ホンゴウソウ

*Sciaphila nana* Blume

被子植物 [単子葉] ホンゴウソウ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: VU

近畿: 準 (NT)

**選定理由:** 既知の生育地点数は10未満。各自生地の個体数は50未満しかない。

**種の概要:** 暗い林下の落葉の間に生える多年生の腐生植物。地下に白色の根茎がある。

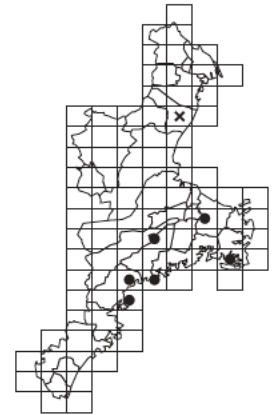
茎の高さは3~13 cm, きわめて細い。葉は鱗片状で長さ約1.5 mm, 茎とともに紫褐色を呈す。7~10月に4~15個の花をつける。

**分布:** 国内では本州(関東以西), 四国, 九州, 沖縄に分布。県内では四日市市楠町, 伊勢市, 多気町, 南伊勢町, 大紀町, 紀北町等からの記録がある。

**現況・減少要因:** 四日市市楠町の自生地は, 土地の改変により消失。伊勢市, 多気町でも, 最近の確認情報はない。2005年に大紀町で数株の個体が確認され, その後紀北町からも新産地が報告されている。紀北町の自生地は道路建設により消失。標本記録のみ残されている。

**保護対策:** 生育地の森林環境を保全する必要がある。

**特記事項:** 四日市市楠町本郷は本種の基準標本産地で, 1902年に発見されている。



(山本和彦)

## ヒメニラ

*Allium monanthum* Maxim.

被子植物 [単子葉] ユリ科(APGⅢ:ヒガンバナ科)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県:

環境省:

近畿: A (CR)

**選定理由:** 既知の生育地点は1か所である。

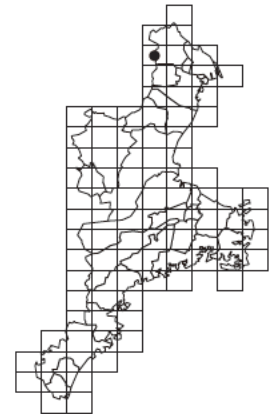
**種の概要:** 山野に生える繊細な多年草である。鱗茎は卵形で長さ1 cmほど。葉は1~2個が根出状に出て平たい線形。花期は4~5月で花茎は6~10 cm。雌雄異株。雌花は1~2個, 雄花は2~4個の白い花をつける。ニラ臭がある。

**分布:** 国内では北海道, 本州(近畿以東), 四国, 国外では朝鮮, 中国東北部, ウスリーに分布する。県内では鈴鹿山系北部の石灰岩地域に生育する。

**現況・減少要因:** 現在, 藤原岳の局所に数百個体生育する。藤原鉦山の石灰採掘予定地域に90%以上生育しており, 急激な減少あるいは消滅の危険にさらされている。

**保護対策:** 石灰採掘の抑止か, 延期以外に方法はない。

**特記事項:** 藤原鉦山の石灰採掘により90%以上は近年消滅する所に集中して生育している。



(山脇和也)

## キイトラッキョウ

*Allium kiiense* (Murata) Hir. Takah. et M. Hotta

被子植物 [単子葉] ユリ科(APGⅢ:ヒガンバナ科)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: VU

近畿: B (EN)

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下。採取圧があり, 生育環境は不安定である。

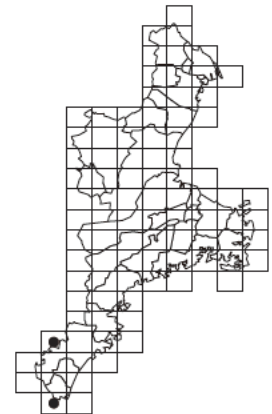
**種の概要:** 山地の岩崖地や河岸の岩場に生育する。花はやや小型で, 雄ずいが花被よりはるかに長い。基準変種のイトラッキョウは, 花がやや大きく雄ずいがやや短い。花期は11月。

**分布:** 国内では本州(岐阜県, 愛知県, 和歌山県, 三重県, 山口県), 県内では熊野市, 紀宝町に分布。

**現況・減少要因:** 園芸採取と, 増水による河岸の荒廃, 崖地の崩落が減少の要因となる。

**保護対策:** 園芸採取には規制が必要である。

**特記事項:** 松阪市飯高町および松阪市飯南町にも記録があるが, 分類学的な検討が必要である。



(花尻 薫)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## ヒロハノアマナ

*Amana erythronioides* (Baker) D.Y.Tan et D.Y.Hong

被子植物 [単子葉] ユリ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: VU

近畿: A (CR)

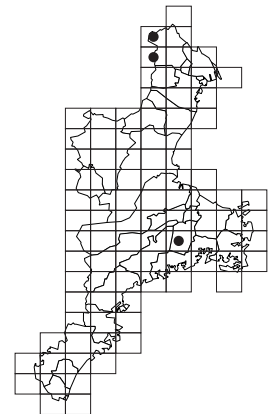
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下。生育環境の悪化や園芸目的の採集のため個体数が減少している。

**種の概要:** 明るい林内や日当たりのよい草地に生える多年草。葉の中央に白い線状の斑があり、花茎の上に3枚の苞をつける。花期は3~4月。

**分布:** 国内では東北地方(福島県)から九州(熊本県)にかけて分布。県内ではいなべ市の藤原岳や御池岳に生育するが、度会町でも生育が確認された。

**現況・減少要因:** 増加する登山者の踏みつけによる生育環境の悪化や園芸目的の採集、また、遷移による草地の減少などにより生育地は狭められている。

**保護対策:** 生育地も限られており、地元の理解と協力を得て、生育地周辺の環境も含めて保護することが望まれる。



(桐生定巳)

## チャボシライトソウ

*Chionographis koidzumiana* Ohwi

被子植物 [単子葉] ユリ科(APGⅢ:シュロソウ科)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧II類 (VU)

環境省: VU

近畿: C (VU)

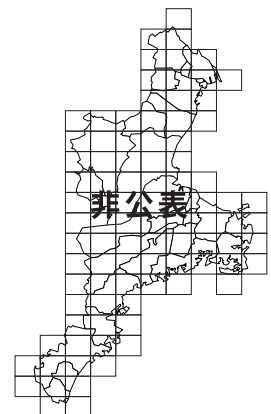
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下、採取圧がきわめて強い。

**種の概要:** 多年草。地下茎は短い。葉は束生し、長さ2~8 cm、葉身は卵形から狭卵形、先端は鈍頭、辺縁の下部は細波状となり、基部は細まって柄状になる。花期は5月、白色または淡い緑色。

**分布:** 日本固有種。本州(紀伊半島、愛知県)、四国、九州に分布。県内では伊勢市、大台町、紀北町、尾鷲市、熊野市で記録がある。

**現況・減少要因:** 園芸採取が減少の最大要因。

**保護対策:** 採取防止のため分布の公表は慎重な配慮が必要である。また、生育地はやや乾燥しているが、直射日光があたることにより枯れると思われるので、生育地周辺の伐採には配慮が必要である。



(花尻 薫)

## ユウスゲ

*Hemerocallis citrina* Baroni var. *vespertina* (H.Hara) M.Hotta

被子植物 [単子葉] ユリ科(APGⅢ:ススキノキ科)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: —

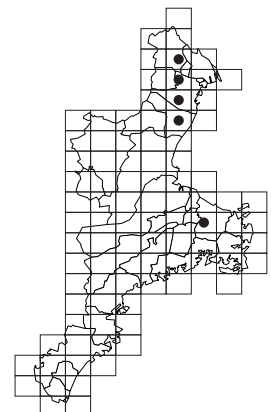
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、個体数も少ない。

**種の概要:** 山地の草原や池の岸辺に生育する多年草。草丈は1 m近くになるが茎も葉もたいへん細い。7~9月にレモン色の花をつける。花は夕刻に開く。

**分布:** 国内では本州、四国、九州。県内ではいなべ市、四日市市、鈴鹿市、伊勢市で記録がある。

**現況・減少要因:** 生育地は限られていて個体数も多くはない。開発や遷移の進行、水環境の変化などで減少している。

**保護対策:** 生育地の池改修などの際には配慮する必要がある。遷移の進行を止めるために、草刈りをする 것도大切である。



(山路武夫)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

### トサノギボウシ (ウナズキギボウシ)

*Hosta kikutii* F.Maek. var. *tosana* (F.Maek.) F.Maek.

被子植物 [単子葉] ユリ科(APGⅢ: キジカクシ科)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: C (VU)

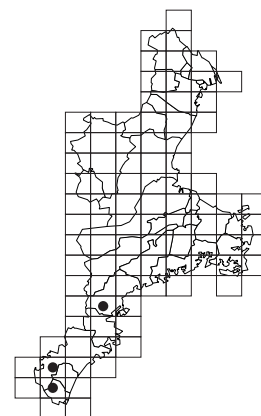
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下で、個体数が少なく採取圧がある。

**種の概要:** 夏緑の植物で根茎は太く短い。葉に少し光沢がある。葉身は多少黄味を帯びた卵形や楕円形などで、大きい。7月に葉の腋より長さ30 cmほどの花茎をだして、白い花を下向きに多くつける。株際で花茎が屈曲する。山中の谷間の岩上などに生える。

**分布:** 国内では紀伊半島南部 (和歌山県, 三重県)。県内では紀州地域 (紀北町, 熊野市, 御浜町) の3か所で記録がある。

**現況・減少要因:** 園芸採取と、林道などの敷設工事による環境悪化がおもな減少要因となっている。

**保護対策:** 道路工事にともなう急崖地の掘削や、河畔の斜面の崩落などに留意しなければならない。



(花尻 薫)

### ヤマユリ

*Lilium auratum* Lindl.

被子植物 [単子葉] ユリ科(APGⅢ: 同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: A (CR)

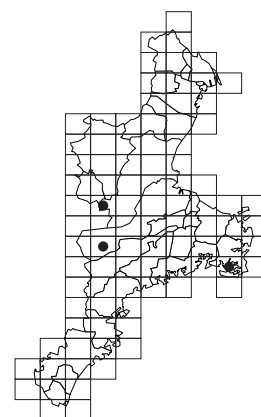
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、植栽している地域はあるが、野生のものは少なくなっている。

**種の概要:** 山の草地に生育する多年草。夏に大きな花を咲かせ芳香がある。花は白色に赤褐色の斑点と黄色の線が入る。

**分布:** 日本固有種で本州 (東北地方から近畿地方で北陸にはない)。県内では津市, 松阪市, 志摩市で記録がある。

**現況・減少要因:** 中勢の山間地の里山には野生と思われるものがわずかに生育している。里山へのかかわりが薄れ、山の草地は荒れ、ニホンザルやニホンジカの食害もあって、人の助けを受けてわずかに残っている状況である。

**保護対策:** 地域のシンボルとして育てられているところがあるが、新しい場所に球根を植えて育てることは野生植物の保護にはあたらない。生育地の草刈りをするなどして野生個体群を守っていくことが大切である。



(山路武夫)

### ホソバナアマナ

*Lloydia triflora* (Ledeb.) Baker

被子植物 [単子葉] ユリ科(APGⅢ: 同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: —

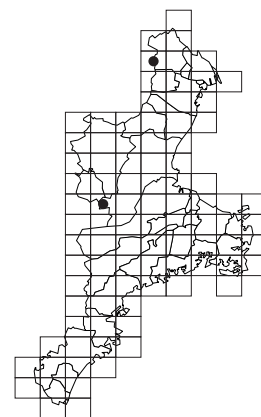
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下。各生育地の個体数は50未満しかなく、採取圧がある。

**種の概要:** 山地の草原に生える多年草。鱗茎からは普通1葉と1本の茎が立ち、葉の幅は1.5~3 mm、茎の途中に小さな1葉がつき、径1~1.5 cmの白色の花を1~5個つける。花期は5~6月。

**分布:** 国外では朝鮮半島, 中国, 千島, 樺太, カムチャツカなどに分布。県内ではいなべ市, 津市に記録がある。

**現況・減少要因:** いなべ市藤原町と津市美杉町の石灰岩地帯で記録されている。個体数が少なくまた、採取される危険性がある。

**保護対策:** 国定公園内でも石灰採掘による開発のおそれがあり、開発、採取防止策が必要である。



(山脇和也)

維管束植物

蕨類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## ノシラン

*Ophiopogon jaburan* (Siebold) Lodd.

被子植物 [単子葉] ユリ科(APGⅢ:キジカクシ科)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿: C (VU)

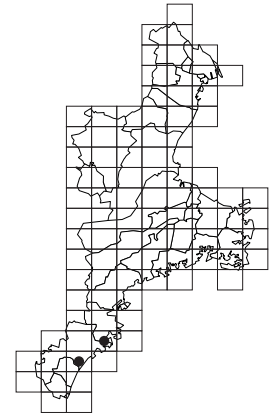
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり, 採取や生育環境の悪化により減少している。

**種の概要:** 海岸に近い林縁に自生する。常緑の半地中植物。地下茎は太く横走し, 多少扁平。葉はそう生し, 線形でやや厚く, 表面に光沢がある。裏面はやや白緑色。花期は7~9月。花茎は長さ20~50 cmで少し斜めにたれさがり, 花は白で淡い紫色を帯びる。

**分布:** 国内では本州(兵庫県, 大阪府, 和歌山県, 三重県), 四国, 九州, 沖縄。県内では紀州地域(尾鷲市, 熊野市)に分布。

**現況・減少要因:** 園芸採取, 森林伐採による圧力が考えられる。神社や寺院の陰地に栽培されているのを見かけるが, 個体数は少ない。

**保護対策:** 森林伐採による減少を防止することが重要。



(花尻 薫)

## マルバサンキライ

*Smilax stans* Maxim.

被子植物 [単子葉] ユリ科(APGⅢ:サルトリイバラ科)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県:

環境省:

近畿: 準 (NT)

**選定理由:** 既知の生育地点数は1。個体数は100株ほどである。ニホンジカによる強い食害が認められる。

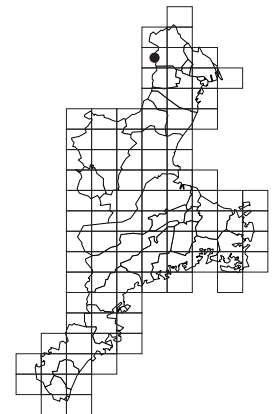
**種の概要:** 高さ40 cm前後の多年草。茎に棘はなく稜がある。葉は心形の卵形・卵円形で3~7 cm, 鋸歯は無い。巻きひげは無い。葉腋に2~5の散形花序を着け6月に咲く。シオデ類の仲間の中では両性花だけを持つタイプである。

**分布:** 国内では本州の関東以西に分布。県内ではいなべ市の石灰岩地だけで記録されている。

**現況・減少要因:** いなべ市藤原町の石灰岩地だけで生育している。ニホンジカの食害が激しく岩の間隙に残されている個体だけである。従って花を着けるまでには至らない。ニホンジカの食害や石灰岩採掘が減少要因。

**保護対策:** 緊急のニホンジカの頭数管理対策, この種を含め貴重な植物保護のために石灰岩の採掘などの山地開発をしないことである。

**特記事項:** 藤原岳は早春植物, 石灰岩性植物の宝庫である。自然に負荷がかかる開発行為は後世のためにも慎むべきである。



(市川正人)

## キイジョウロウホトトギス

*Tricyrtis macranthopsis* Masam.

被子植物 [単子葉] ユリ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: VU

近畿: C (VU)

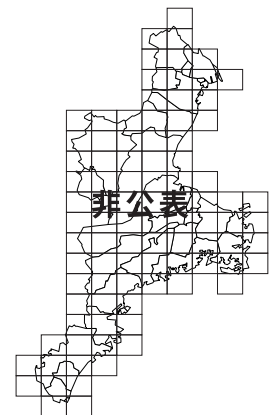
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり, 採取圧が強い。

**種の概要:** 岸壁に垂れ下がって生える。茎の長さ40~80 cm, 分枝はしない。葉は茎の左右に2列に並び, 基部が深く茎を抱くのが特徴である。花期は9~10月で, 上部の葉腋から1花を出し, 斜め下向きに咲き黄色。

**分布:** 国内では紀伊半島南部(和歌山県, 奈良県, 三重県)。県内では紀州地域に分布。

**現況・減少要因:** 園芸採取が最も大きな圧力であり, 道路工事や自然災害による崖の崩落も減少の一因となっている。

**保護対策:** 里山や道路端の生育地ではほとんど見かけなくなった。奥山にある岸壁の生育地を保護するため, 生育地の公表を避けることが重要である。



(花尻 薫)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## キンバイザサ

*Curculigo orchiioides* Gaertn.

被子植物 [単子葉] キンバイザサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿: C (VU)

**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下. 各生育地の個体数は少なく50未満である.

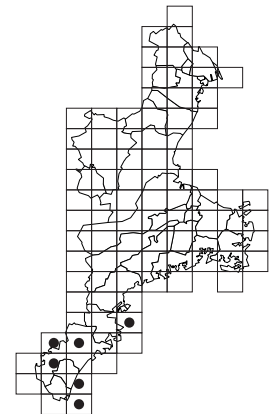
**種の概要:** 暖地の林内に生える多年草. 根出葉は数個で, 葉がササ類に似ていて, 長さ10~30 cm, 幅1~2 cm, 縦じわがあり, 両面に長い白色の毛がある. 花被は黄色で下部は長い筒部になる. 花の色が金色のウメを連想させる. 5~8月, 花茎に1~3個の花をつける.

**分布:** 国内では本州(紀伊半島, 中国地方)から沖縄. 国外では中国(南部, 台湾), マレーシア, インド, オーストラリア. 県内では紀州地域に分布.

**現況・減少要因:** 最近では紀宝町で確認されている. 過去には熊野市でも記録がある. 開発や採取による減少が危惧される.

**保護対策:** 生育地を保護管理する必要がある.

**文献:** 57.



(山脇和也)

## コキンバイザサ

*Hypoxis aurea* Lour.

被子植物 [単子葉] キンバイザサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿: A (CR)

**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下. 個体数はたいへん少ないと思われる.

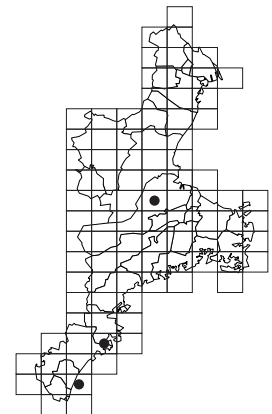
**種の概要:** 暖地の山地や草原に生える多年草. 根茎は塊状で径6~10 mmで短い茎に数個の葉が束生する. 葉の幅は狭く, 広いところでも2~4 mm. 花も小さい. 花期は5~8月.

**分布:** 国内では本州(宮城県以南)から沖縄. 国外では中国(南部, 台湾), マレーシア, インドに分布. 県内では松阪市, 尾鷲市, 御浜町で記録されている.

**現況・減少要因:** 尾鷲市での記録は古く, 現存は確認できない. 最近では, 松阪市で記録されているのみである. 地域の開発などで消滅の危険性がある.

**保護対策:** 生育地を保護管理する必要がある.

**文献:** 57.



(山脇和也)

## シロシャクジョウ

*Burmanna cryptopetala* Makino

被子植物 [単子葉] ヒナノシャクジョウ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿: A (CR)

**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり, 個体数は50未満である. 生育地は改変されやすく, 不安定である.

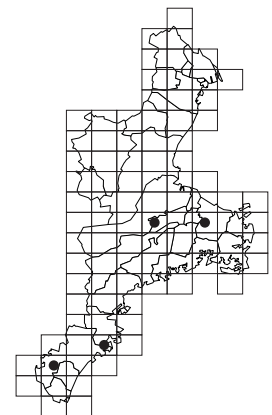
**種の概要:** 多年草. 高さ5~15 cm. 全体白色で茎は細く分枝せず直立, まばらに数個の鱗片葉がある. 花は8~10月, 茎の先に1~数個つけ, 白色で上部はわずかに黄味を帯び, 長さ8~10 mm, 短い柄があり3個の広い翼がある. 外花被片は卵形, 鋭頭, 長さ1.5~2 mm, 内花被片は発達しない.

**分布:** 暖湿帯, 亜熱帯に生育する. 国内では本州(近畿以西), 四国, 九州, 沖縄. 県内では伊勢市, 多気町勢和, 尾鷲市, 熊野市などに分布する.

**現況・減少要因:** 常緑広葉樹林内に生育するが, 年数を経たスギ植林下にも生育. そうした立地は, 森林の皆伐や土地の改変を受けやすく, 絶滅したところもある.

**保護対策:** 現存する地域の森林の皆伐や土地の開発を抑制し, 森林の間伐, 草刈などにより生育環境の維持に努める必要がある.

**文献:** 54, 57.



(葛山博次)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## クロイヌノヒゲ

*Eriocaulon atrum* Nakai

被子植物 [単子葉] ホシクサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 情報不足 (DD)

環境省: NT

近畿: A (CR)

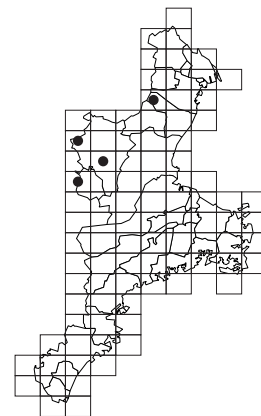
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、減少傾向である。

**種の概要:** 山間の湿地に生える一年草。葉は高さ10 cm程度、花茎は多数出て4~5肋がある。頭花は7~9月に開く。半球形。花弁や総苞片は一部が黒味を帯びる。種子の表面に鉤状の毛がある。

**分布:** 北海道、本州、四国、九州と分布は広い。県内では、伊賀市と名張市に記録があり、鈴鹿市と伊賀市で現認されている。

**現況・減少要因:** 伊賀地方の湿地や池の上部で確認されたが、湿地周辺の開発や池の改修と日照り等の環境の変化により減少してきている。

**保護対策:** 湿地周辺の開発や溜池の改修は計画的に実施し、無理な工事は避ける。



(南 正祝)

## ヤマトホシクサ

*Eriocaulon japonicum* Koern.

被子植物 [単子葉] ホシクサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: VU

近畿: —

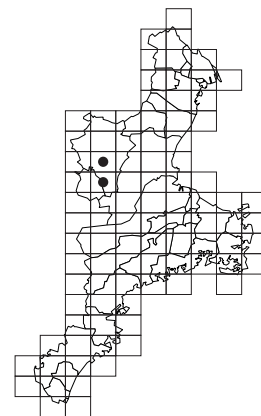
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり、各地点における個体数は少ないが、追加生育地がありうる。

**種の概要:** 葉は長さ6~12 cm、幅2~3 mm、鋭尖頭。花茎は高さ12~16 cmの一年草。頭花は幅5~6 mmの半球形で花床は無毛である。頭花には多数の花をつけ、総苞片は長さ4~5 mmの披針形で頭花よりわずかに長い。花苞は上部だけ黒褐色を帯び、萼および花弁は無毛である。種子は長さ約1 mmで無毛。ツクシクロイヌノヒゲやクロイヌノヒゲに似ている。

**分布:** 日本固有種。本州に分布。県内では伊賀市、名張市で記録がある。

**現況・減少要因:** 伊賀市、名張市の溜池に生育しているが、個体数が少ない上に水の増減に左右され、年により発生状況に変動がある。植生遷移や湖沼開発が減少要因となる。現在のところ生育環境は維持され、個体数の変化もない。

**保護対策:** 埋め立てや改修などの湖沼開発からの保護、植生遷移抑制が必要である。



(市川正人)

## シラタマホシクサ

*Eriocaulon nudicuspe* Maxim.

被子植物 [単子葉] ホシクサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: VU

近畿: A (CR)

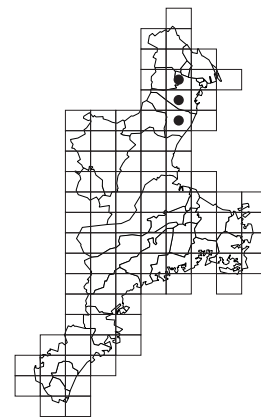
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下。圃場整備事業や溜池の改修などの影響で生育地が狭められ、個体数が激減している。

**種の概要:** 丘陵地に点在する貧栄養の湿地で生育する一年草。8~9月頃に、高さ20~60 cmの茎の上部に白色の小さな花が球形に集ってつく。

**分布:** 国内では東海地方(静岡、愛知、岐阜、三重の各県)の水辺や湿地に生える。県内では、四日市市、菰野町、鈴鹿市の丘陵地の湧水が絶えない貧栄養の湿地に分布している。

**現況・減少要因:** かつては、丘陵地のアカマツ林の発達する湿地や谷地田の周辺などに比較的多くみられた。しかし、大規模開発や圃場整備事業などで生育地の多くは消失した。わずかに残った湿地では、富栄養化による高茎の湿性植物の侵入がシラタマホシクサ群落の衰退を促進している。

**保護対策:** 東海地方を代表する貴重な植物である。開発による生育地の消失を防ぐとともに、湿地環境の維持が必要である。また、里山林の荒廃による湿地の遷移の進行を止める対策が急務である。



(桐生定巳)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## ゴマシオホシクサ

*Eriocaulon senile* Honda

被子植物 [単子葉] ホシクサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: EN

近畿: A (CR)

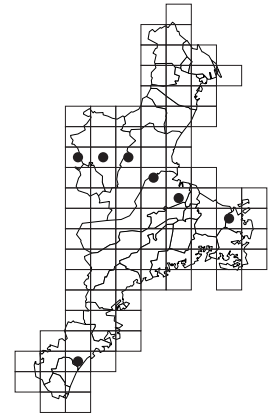
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下. 全国的にも生育地の少ない植物である.

**種の概要:** 休耕田など湿った草地に生える一年草. 根生葉は長披針形で幅は広い. 頭花は黒っぽくて大きい. 花期は10月頃である.

**分布:** 国内では本州(静岡県, 三重県, 兵庫県), 九州(熊本県, 宮崎県, 福岡県, 鹿児島県). 県内では津市, 伊賀市, 松阪市, 鳥羽市, 熊野市で生育の記録がある.

**現況・減少要因:** 津市と松阪市は湿った休耕田, 鳥羽市は湿田で生育が確認されている. しかし, 松阪市の生育地は農業基盤整備の工事のため, ごく最近, 消滅した. また, 鳥羽市の生育地には開発計画がある. 伊賀市と熊野市の記録は古い標本によるものであり, 現況は不明.

**保護対策:** 全国的にも少ない種であるので, 生育地はできるだけ現状のままにして保護することが望ましい.



(山路武夫)

## ミギワトダシバ

*Arundinella riparia* Honda subsp. *riparia*

被子植物 [単子葉] イネ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: VU

近畿: C (VU)

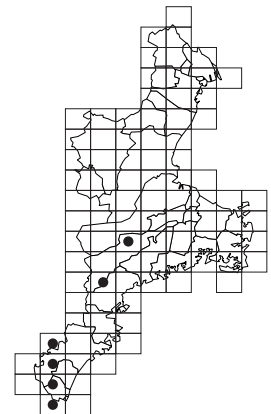
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下であり, 各地点の個体数は250未満である.

**種の概要:** 河岸岩壁や岩上に生育する多年草. 稈は高さ90 cmにもなる. トダシバに似ているが, 花序以外は無毛で茎は4~6節からなり, 節部でくの字状に折れ曲がること, 小穂は長さ4~4.5 mmの2小花からなるが, 護穎から小穂先端に抜け出す芒を持つことが特徴である. 葉舌は極めて低く, 縁に多くの微毛を持つ. 花は8~10月につく.

**分布:** 日本固有種. 河岸に分布し, 天竜川, 宮川, 熊野川, 吉野川(四国)に確認されている. 県内では宮川, 熊野川流域で記録されている.

**現況・減少要因:** 大台町2, 熊野市3, 紀宝町3か所で生育している. 洪水などの自然現象や河川開発・改修などが減少要因となる.

**保護対策:** 河川開発時には注意を払う必要がある.



(市川正人)

## イワタケソウ

*Hystrix duthiei* (Stapf) Bor subsp. *japonica* (Hack.) Baden, Fred. et Seberg

被子植物 [単子葉] イネ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: C (VU)

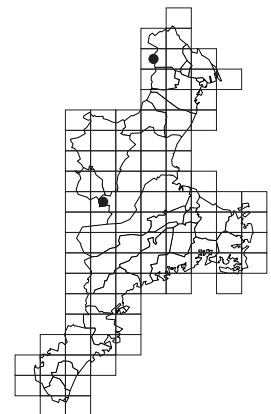
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下であり, 各地点の個体数はかなり少ない.

**種の概要:** 深山の林内に生え, アズマガヤやコウヤザサに似た多年草. ごく短い根茎を持ち, 稈の高さは50~80 cm. 葉身は長さ7~20 cm, 幅0.8~1.5 cm, 基部でよじれて表裏面が逆転する. 葉舌は高さ1 mm以下で低い. 花は6~8月. 穂状花序は細く, 先が傾き, 無柄の小穂が各節に1個つく. 小穂は1小花からなり, 長さ約10 mmで穎苞はないか, 短い針状となる. 護穎は長さ10 mmで先は20 mm内外の芒となる. 稈や花軸は無毛である.

**分布:** 日本固有種. 長野県, 三重県, 山口県, 四国, 九州に分布. 県内ではいなべ市北勢町, 津市美杉町で記録されている.

**現況・減少要因:** いなべ市北勢町に現存しているが個体数は少ない. ここでは急斜面に生えており, 土壌崩壊による減少が懸念される.

**保護対策:** 生育地は深山であるが, 生育環境を維持することである.



(市川正人)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD



## ビロードキビ

*Urochloa villosa* (Lam.) T.-Q.Nguyen

被子植物 [単子葉] イネ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: EN

近畿: C (VU)

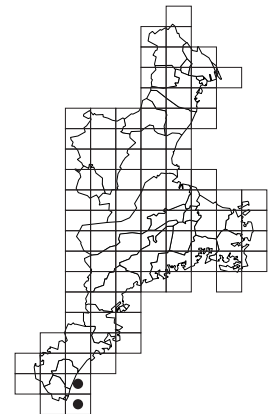
**選定理由:** 既知の生育地点数は5以下。紀州地域の南部のごく一部に限られ、個体数もそれほど多くない。

**種の概要:** 基部は分枝し、6~10個の斜開する枝をつける。高さ15~20 cmの一年草で、全体に開出する軟毛がある。花期は8~10月。花序は長さ4~6 cmで、小穂は総に圧着する。和名は全体に軟毛があるため。

**分布:** 国内では本州(紀伊半島)、四国、九州、沖縄の海岸に生え、国外では中国(中南部、台湾)、インドネシア、インドに分布。県内では紀宝町のみで生育している。

**現況・減少要因:** 紀宝町の山地の道路ぎわにあるので、道路の改修や開発に伴って減少したり、場合によっては消滅の恐れがある。

**保護対策:** 生育地では道路の改修や開発は避けなければならない。



(山脇和也)

## ヒゲノガリヤス

*Calamagrostis longiseta* Hack.

被子植物 [単子葉] イネ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: C (VU)

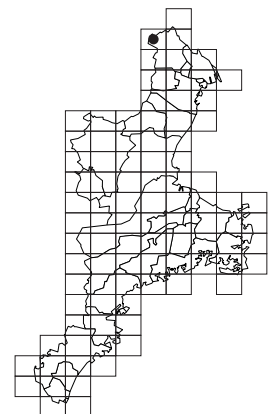
**選定理由:** 既知の生育地点数は1であり、個体数は250未満である。

**種の概要:** 山地の草原に叢生する多年草で稈の高さは40~80 cm、葉の多くは根生し、上方の2、3個は稈生する。葉身は長さ15~30 cm、幅2~4 mmで花を7~9月につける。円錐花序は長さ7~14 cm、直立、またはやや傾き、枝は半輪生状につく。小穂は長さ4~5 mmで黄緑色、ときに紫色を帯び、1小花からなる。護穎は包穎とはほぼ同長で5脈があり、中央脈背面のやや上部から芒が出ること、他の4脈も伸びだして短芒になる特徴がある。

**分布:** 日本固有種、中部地方以東に多く、近畿地方以西ではまれ。県内ではいなべ市藤原町の山地部で記録されている。

**現況・減少要因:** いなべ市藤原町の1か所に限られる。遷移による植生の変化が減少要因となる。

**保護対策:** 生育地の環境を現状のまま維持する必要がある。



(市川正人)

## ヒナザサ

*Coelachne japonica* Hack.

被子植物 [単子葉] イネ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IB類 (EN)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: NT

近畿: B (EN)

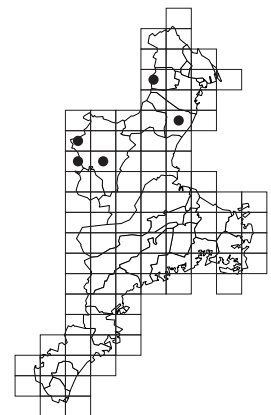
**選定理由:** 既知の生育地点数は10以下である、個体数の多い生育地もあるが、溜池開発で減少する可能性が大きい。

**種の概要:** 湿地に生える高さ5~20 cmの一年草。長さの割に幅の広い葉をつけ、8~10月に少数の小穂からなる円錐花序をつける。

**分布:** 本州、四国、九州に分布する日本固有種。県内では菰野町で生育が確認されている。また、伊賀市に多くの採集記録があるほか鈴鹿市にも古い記録がある。

**現況・減少要因:** 菰野町の2か所の溜池で生育している他は、伊賀市の湿地、池畔等から2000年前後に2か所の記録があるのみである。開発と植生遷移による生育環境の悪化、とくに水環境の変化による乾燥化が最大の要因と考えられる。

**保護対策:** 生育地の環境保全と開発による消滅を防ぐため、地域の周辺においても十分な配慮が必要である。



(加田勝敏)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD